


多賀城市
転入転出者アンケート
調査報告書



平成 27 年 8 月
宮城県
多賀城市市長公室

内 容

1 調査目的	1
2 調査概要	1
2.1 サマリー	2
2.2 回答者プロフィール.....	3
2.3 回答者の家族	5
2.3.1 転入者の家族.....	5
2.3.2 転出者の家族.....	5
2.4 回答者の子ども年齢.....	7
3 1次集計結果	8
3.1 移動.....	8
3.2 居住期間と多賀城での居住経験	9
3.2.1 居住期間.....	9
3.2.2 居住経験.....	10
3.3 転居時の住まいの形態と理由	11
3.3.1 住まいの形態.....	11
3.3.2 移動の理由.....	13
3.4 多賀城市内での住まい探し	15
3.5 多賀城市と他市との「住みやすさ」比較.....	16
3.6 居住地決定の際の重視点	17
3.7 多賀城市の魅力、よい点・悪い点	20
3.7.1 転入者が考える多賀城の魅力.....	20
3.7.2 転出者が指摘する多賀城のよい点・悪い点.....	20
4 クロス集計結果	23
4.1 回答者のプロフィール.....	23
4.1.1 転入、転出の回答者像	23
4.1.2 転入者の家族構成	23

4.1.3 転出者の家族構成	23
4.2 多賀城市を選んだ理由.....	24
4.2.1 転入者が思う多賀城の住みやすさ	24
4.2.2 転入者の転入理由	25
4.2.3 転入者の住まい探しの重視点.....	26
4.3 多賀城市から離れた理由.....	28
4.3.1 転出者が思う多賀城市の住みやすさ	28
4.3.2 転出者の転出理由	28
4.3.3 転出者の住まい探しの重視点.....	28
4.4 多賀城市への評価.....	31

1 調査目的

多賀城市では、同市の将来を考える人口ビジョン、地方版総合戦略を策定するにあたり、人口減少社会に対応した“住みやすいまちづくり”をめざし、多賀城市に転入転出した市民を対象に調査を実施した。本調査の内容は、転入転出の理由、多賀城市の住みやすさとともに、その魅力やよい点などを明らかにしたものであり、今後の施策策定への参考とする。

2 調査概要

本調査のため、平成 26 年 1 月 1 日～12 月 31 日の期間中に、多賀城市に転入転出した対象者 8,445 人から無作為抽出された 2,925 人を対象に調査票を郵送した。この報告書は平成 27 年 5 月 22 日～6 月 3 日の期間中に返信された 953 件を分析したものである。

回答者の内訳は、図表 1 のとおり。

図表 1 多賀城市 転入・転出者向け「まちづくりアンケート」の概要

	転入者	転出者
調査対象者数	1,500 人	1,425 人
回収数	515 件	438 件
回収率	34.3%	30.7%
調査期間	平成 27 年 5 月 22 日～6 月 3 日	平成 27 年 5 月 22 日～6 月 3 日
調査方法	郵送法	郵送法

2.1 サマリー

- 転入者の平均家族人数は、転入前が 3.02 人、多賀城市へ転入した後は 2.84 人。
- 転入者の 30 代は、「単身者」が減り（転入前 19.3%→転入後 11.0%）、「夫婦のみ」は増えて（13.3%→24.9%）いる。「夫婦子どもあり」は大きな変化なし（40.3%→46.4%）
- 転出者の平均家族人数は、多賀城市にいたときが 3.02 人、転出後は 2.83 人。
- 転出者は 30、40 代の「夫婦と子ども」が 4 割で、転出後は 30 代の「夫婦と子ども」が 10 ポイント増（40.9%→50.3%）
- 転入転出者ともに、核家族傾向は進む
- 転入転出ともに、「県外」が 4 割、「仙台市」が約 3 割。「塩竈市」へはやや転出超過、「七ヶ浜町」からは転入超過
- 転入者の 4 分の 1 は過去、多賀城市に住んだ経験あり
- 移転の理由は、転入者は「転勤」「家族から独立」、転出者は「転勤」「住宅購入、借換え」
- 転居の際、重視する点は、交通・買い物の利便性が上位 2 項、次いで「医療」「子育て」「住宅」と続く
- 転出者の 24.0%が多賀城市内を検討したものの、市外へ。転出者の選択の余地がある「住宅購入、借換え」「よりよい生活環境」の項目を選んだ人は 22.2%。市外へ転出した人の理由として、この 2 項が感帰られる
- 住みやすさ比較では、多賀城市を肯定的にみる市民は、転入者で 6 割、転出者で 5 割。多賀城市は多くが認める住みやすいまちである
- 「医療」「子育て」「住宅」は、転居の際の“魅力やよい点”にはならない
- 30 代の転入者の 6 割は、多賀城市の市町村も探したが、多賀城市を選んだ人たち（他の年代は 4 割代）
- その転入理由として、30 代は「住宅購入、借換え」が他の世代よりも多い。20 代は「家族からの独立」、60 代は「親や子ども、親族との同居」
- 他の市町村も探して転入してきた人たちの居住時の重視点は、交通や買い物の便がともに 7 割前後、次に挙げられるのが 5 割の「住宅の広さや土地や家賃の適正価格」、4 割が「医療」「子育て」
- 転出者の 4 分の 1 にあたる他市町村を選んだ人たちの理由も、上位に交通や買い物の便を挙げるも、6 割は「住宅の広さや土地や家賃の適正価格」を挙げている

2.2 回答者プロフィール

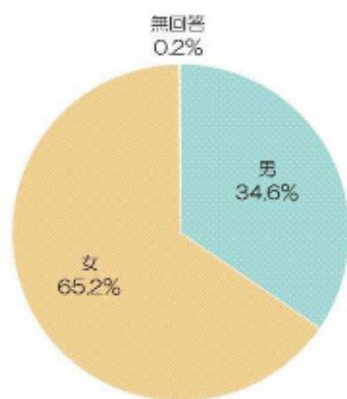
回答者のプロフィールは図表2～5の通り。

図表2 多賀城市 転入・転出者別にみる回答者の性別

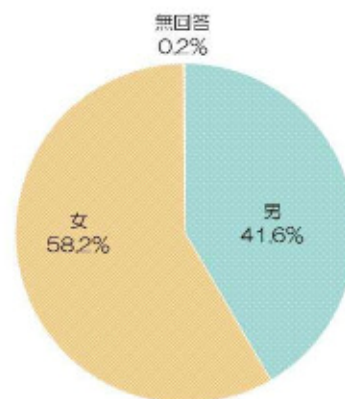
	転入者	転出者
回収数 (n)	515件	438件
回答者性別	男 34.6% / 女 65.2%	男 41.6% / 女 58.2%

図表3 回答者の性別

《転入者、n=515》

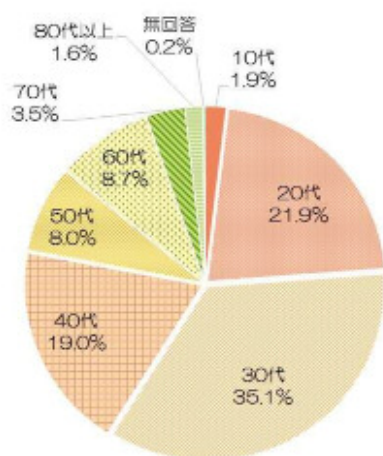


《転出者、n=438》

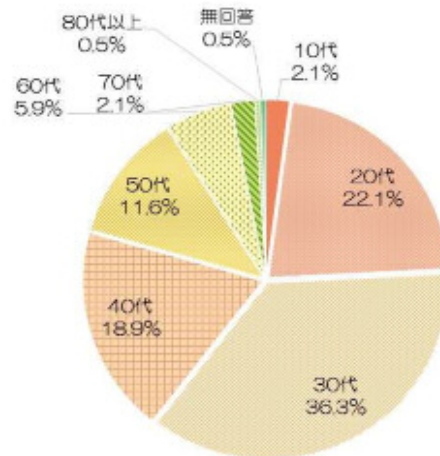


図表4 回答者の年代

《転入者、n=515》

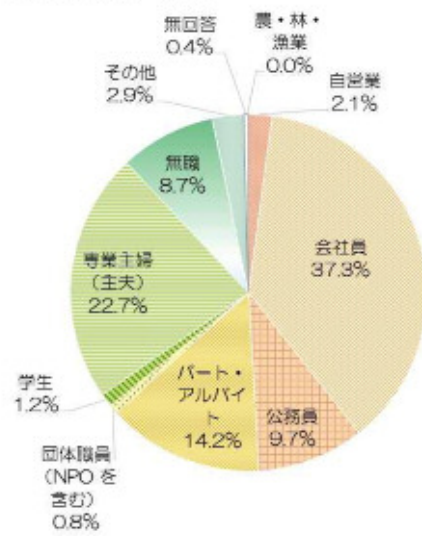


《転出者、n=438》

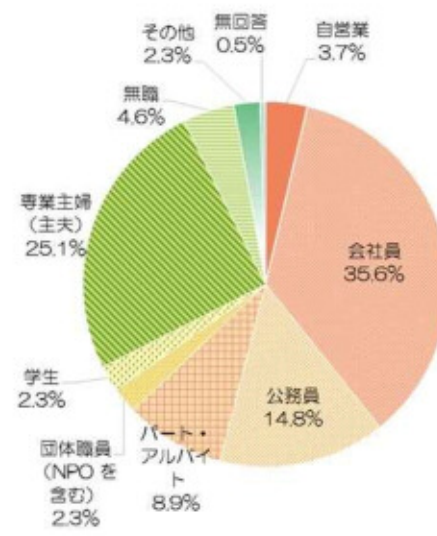


図表5 回答者の職業

《転入者、n=515》



《転出者、n=438》



2.3 回答者の家族

2.3.1 転入者の家族

転入者の家族構成（図表6）は、転入前は「夫婦と子ども」が27.6%と最も高く、次いで「単身（1人）世帯」20.8%、「夫婦のみ」20.2%は同程度となっている。多賀城市内での転入後では、「夫婦と子ども」31.3%、「夫婦のみ」27.2%、「単身（1人）世帯」17.9%と続く。転入前と転入後の比較では、「親と同居」が約10ポイント低下（18.8%→8.0%）、「単身（1人）世帯」が約3ポイント（20.8%→17.9%）低下しているのに対し、逆に「夫婦のみ」が7ポイント（20.2%→27.2%）、「夫婦と子ども」が約4ポイント（27.6%→31.3%）増加している。

また、転入者の平均家族人数は、転入前が3.02人、多賀城市に移ってからの転入後が2.84人である。

2.3.2 転出者の家族

転出者の家族構成（図表7）は、転出前の多賀城市内では「夫婦と子ども」が32.6%と最も高く、次いで「単身（1人）世帯」18.7%、「親と同居」18.5%、「夫婦のみ」18.3%は同程度になっている。転出後は、転出前と同様に「夫婦と子ども」が37.0%と最も高く、「夫婦のみ」23.5%、「単身（1人）世帯」22.4%と続く。

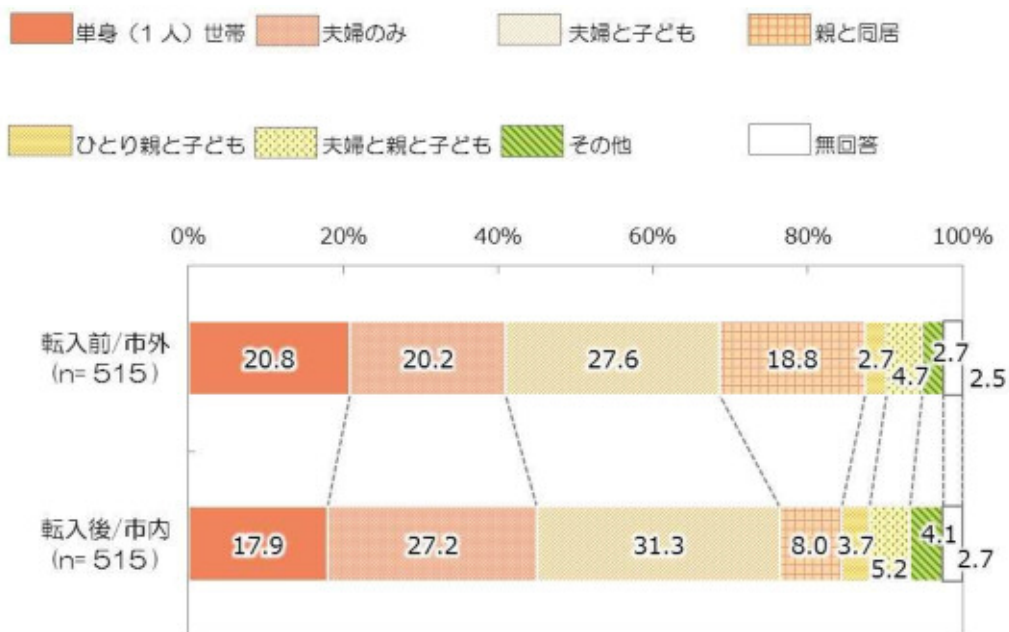
転出前と転出後の比較では、「親と同居」が約15ポイント低下（18.5%→3.9%）しているのに対し、逆に「夫婦のみ」「夫婦と子ども」がそれぞれ約5ポイント程度高まっている。

また、多賀城市に住んでいたときの転出前の平均家族人数は、転出前が3.02人、転出後が2.83人である。

転入転出ともに、核家族化の傾向は続いている。

図表6 転入者の家族構成

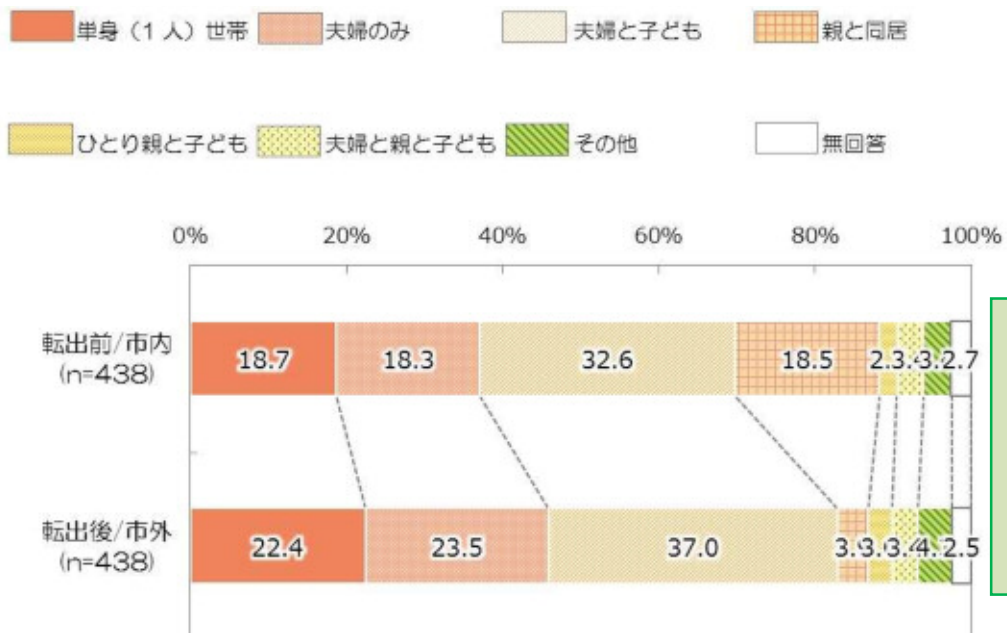
n = 515



転入者
平均家族人数
転入前 **3.02人**
転入後 **2.84人**

図表7 転出者の家族構成

n = 438



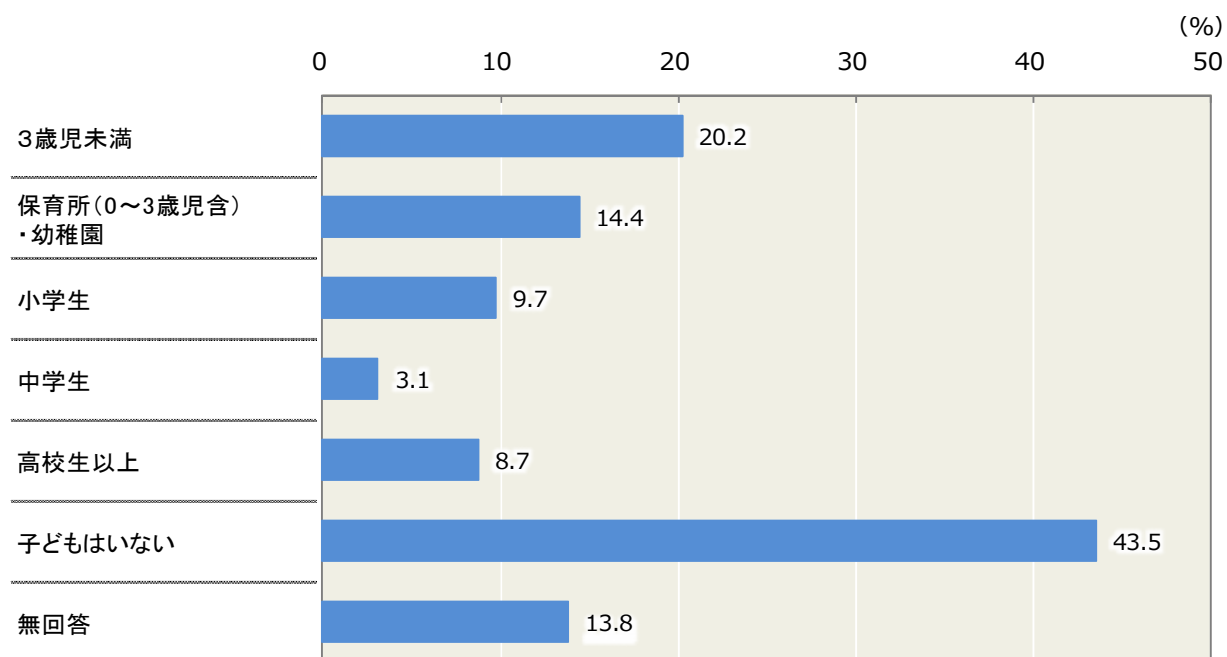
転出者
平均家族人数
転出前 **3.02人**
転出後 **2.83人**

2.4 回答者の子ども年齢

転入転出時ともに「子どもはいない」が最も多く、次いで「3歳児未満」「保育所（0～3歳児含）・幼稚園」の未就学児童となっている。

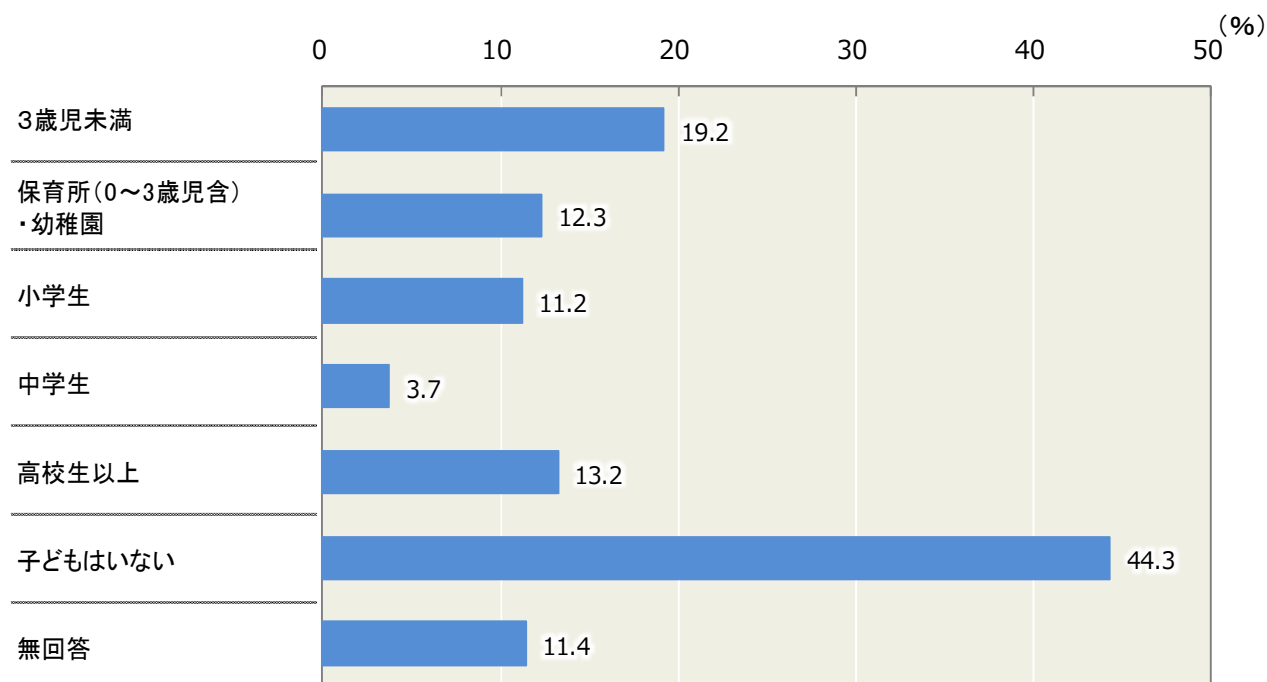
図表8 転入時の子ども年齢

複数回答、n = 515



図表9 転出時の子ども年齢

複数回答、n = 438



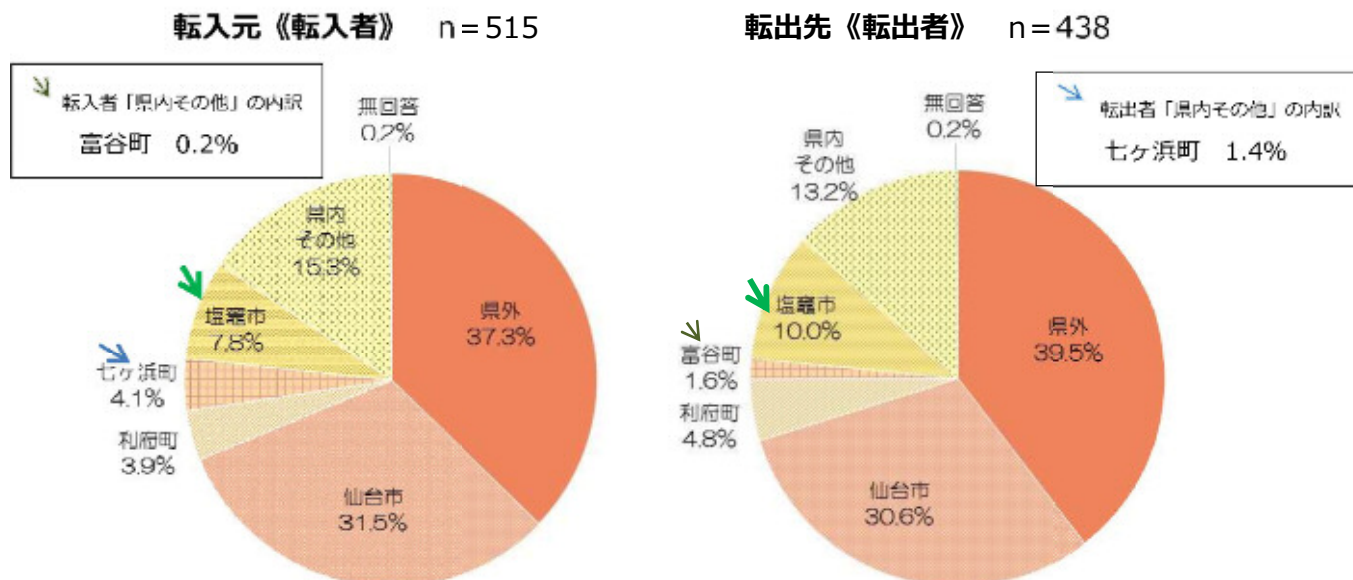
3 1次集計結果

3.1 移動

転入者がどの地域から転居したかの設問では、62.6%が転入元を「宮城県内」と回答し、「県外」では37.3%となっている。「県内」の内訳を見ると、「仙台市」が31.5%、「塩竈市」が7.8%、「七ヶ浜町」が4.1%、「利府町」が3.9%と続く。

次に転出者が、いずれの地域へ行ったのかの転出先の設問では、60.2%が「宮城県内」と回答し、「県外」では39.5%となっている。「県内」の内訳は、「仙台市」が30.6%、「塩竈市」が10.0%、「利府町」が4.8%、「富谷町」が1.6%と続く。

図表 10 移動



地域別の転入、転出の動きをみると、多賀城市内に転入してきた人が多い市町村は、「仙台市」で0.9ポイントの転入超過（転入元として選んだ人の割合31.5%、転出先として選んだ人の割合30.6%）、「七ヶ浜町」で2.7ポイントの転入超過（転入元4.1%、転出先1.4%）である。

多賀城市から他の市町村へ転出した人の多い地域は、「塩竈市」で2.2ポイントの転出超過（転出先10.0%、転入元7.8%）、「富谷町」で1.4ポイントの転出超過（転出先1.6%、転入元0.2%）である（図表 25）。

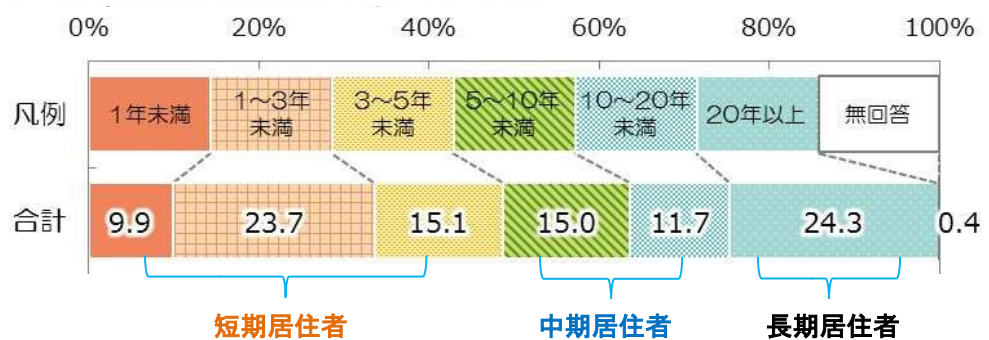
3.2 居住期間と多賀城での居住経験

3.2.1 居住期間

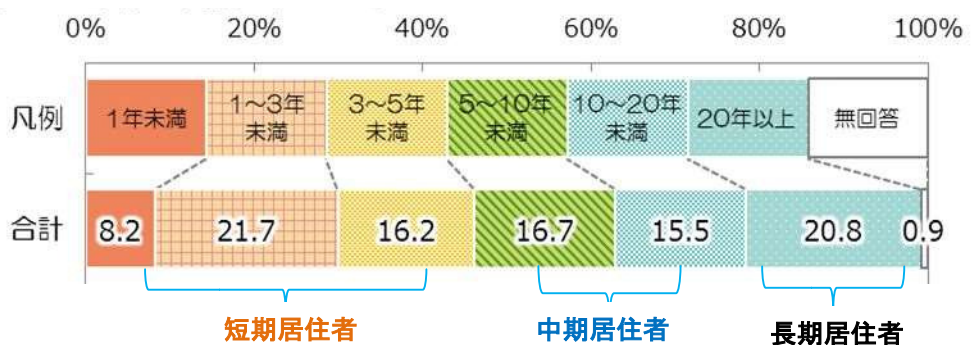
転入者は多賀城へ転入する前の市町村での居住年数が、『短期居住者（0～5年未満）』が48.7%、『中期居住者（5～20年未満）』が26.7%、『長期居住者（20年以上）』が24.3%となっている（図表11）。

また、転出者の多賀城市での居住年数は、『短期居住者（0～5年未満）』が46.1%（「1年未満」8.2%+「1年以上、3年未満」21.7%+「3年以上、5年未満」16.2%）、『中期居住者（5～20年未満）』が32.2%（「5年以上、10年未満」16.7%+「10年以上、20年未満」15.5%）、『長期居住者（20年以上）』が20.8%となっている（図表12）。

図表 11 転入者／転入元での居住期間 n = 515



図表 12 転出者／多賀城市での居住期間 n = 438



3.2.2 居住経験

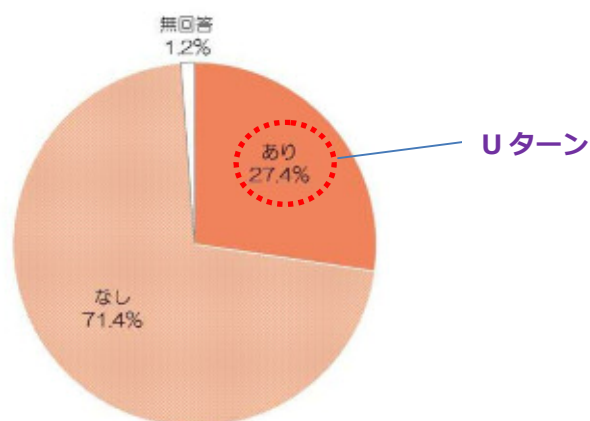
転入者に、多賀城市への居住経験を聞くことで、市へのイメージが実体験にもとづくものか、どうかを計ることにした。転入者の27.4%は多賀城市内での居住経験のあるUターン者であり、71.4%は経験のないIターン者。

後述（P15、3.4 多賀城市内での住まい探し）の転入時に多賀城市の「寮や社宅、事前に決められていた」45.0%と、「多賀城市に決めていた」6.2%と半数以上が、消極的であれ、理由があるために多賀城に移り住んだ人たちである。しかし、ここで注目しなければならないのは「他の市町村も探した」にもかかわらず“多賀城を選んだ48.0%の市民”である。

前述の短期居住者が進学や転勤族とみるならば、転入転出に大きな開きはない。しかし、多賀城市へ転入してきた人は、長らく暮らしてきた土地を離れ（24.3%/図表11）、多賀城市内へ越してきた人たちが全体の4分の1を占めている。

図表 13 転入者／多賀城市での居住経験

n = 515



3.3 転居時の住まいの形態と理由

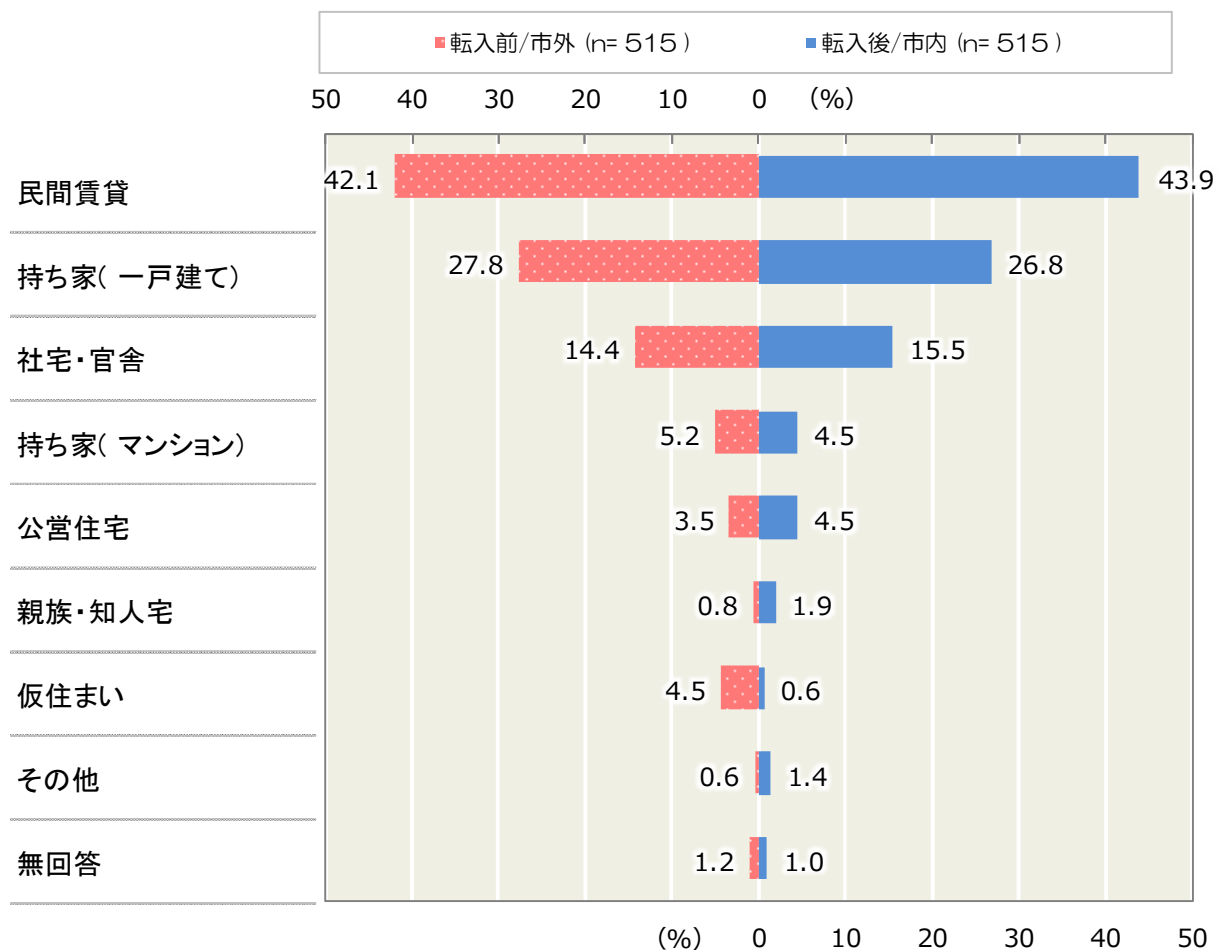
3.3.1 住まいの形態

転入者の住まいの形態（図表 14）は、多賀城市外で（転入前）「民間賃貸」が 42.1%、「持ち家（一戸建て）」が 27.8%、「社宅・官舎」が 14.4%であったが、多賀城に転入してからの住まいは「民間賃貸」が 43.9%、「持ち家（一戸建て）」が 26.8%、「社宅・官舎」が 15.5%となった。

転入前と転入後の比較では、「持ち家（一戸建て）」「持ち家（マンション）」がややポイント下げ、全体数は少ないものの、「仮住まい」が 3.9 ポイント下げている。また、「社宅・官舎」はややポイントを上げている。

選択の余地がない理由を除くと、転出者の 2 割が「住宅購入・借換え」をトップの理由に挙げ転居している。

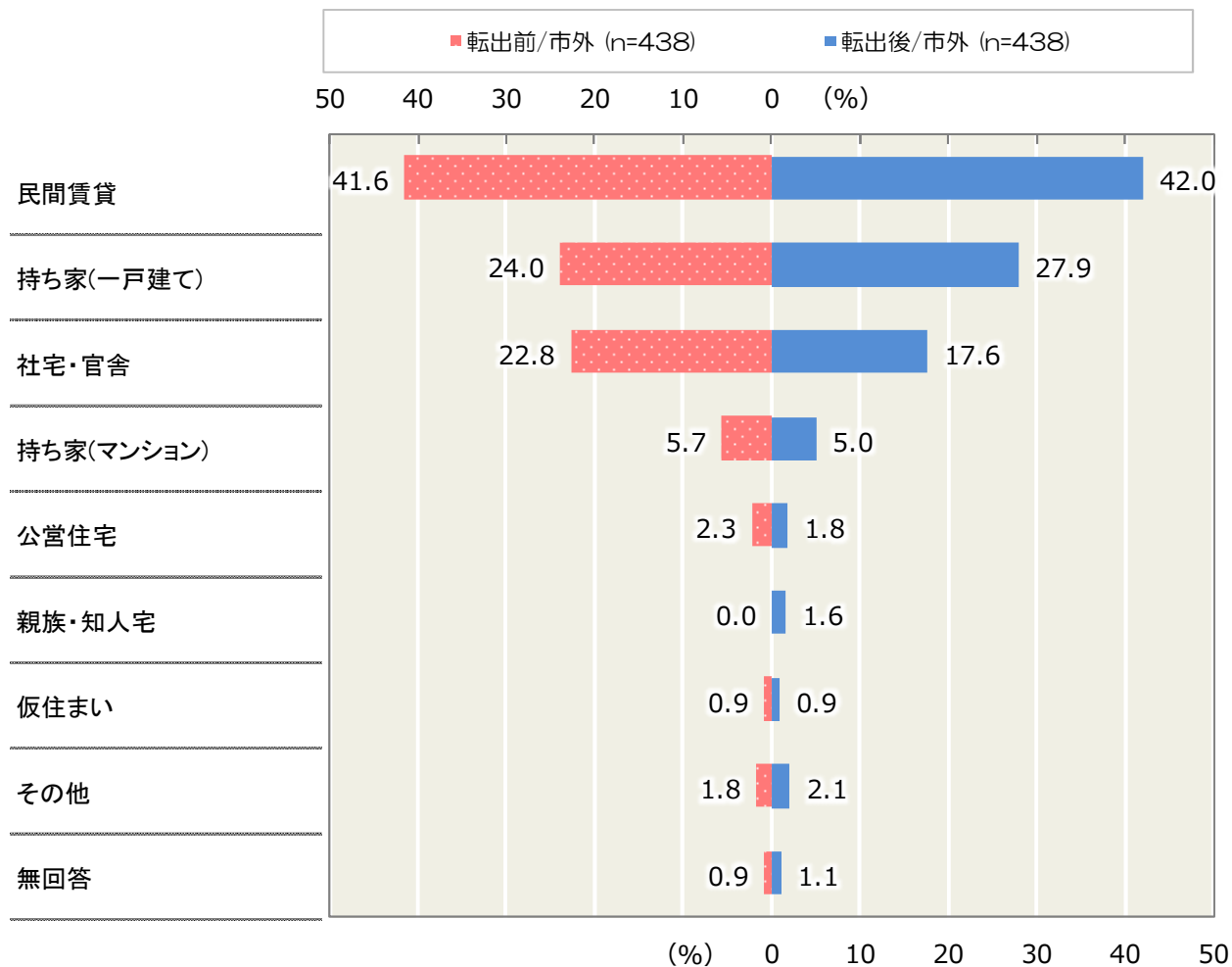
図表 14 転入者／住まいの形態（転入前と転入後）



転出者の住まいの形態(図表 15)は、多賀城市内で(転出前)「民間賃貸」が41.6%、「持ち家(一戸建て)」が24.0%、「社宅・官舎」が22.8%であるが、転出後は「民間賃貸」が42.0%、「持ち家(一戸建て)」が27.9%、「社宅・官舎」が17.6%となった。

転出前と転出後の比較では、「社宅・官舎」が約5ポイント低下(22.8%→17.6%)している。

図表 15 転出者／住まいの形態(転出前と転出後)



3.3.2 移動の理由

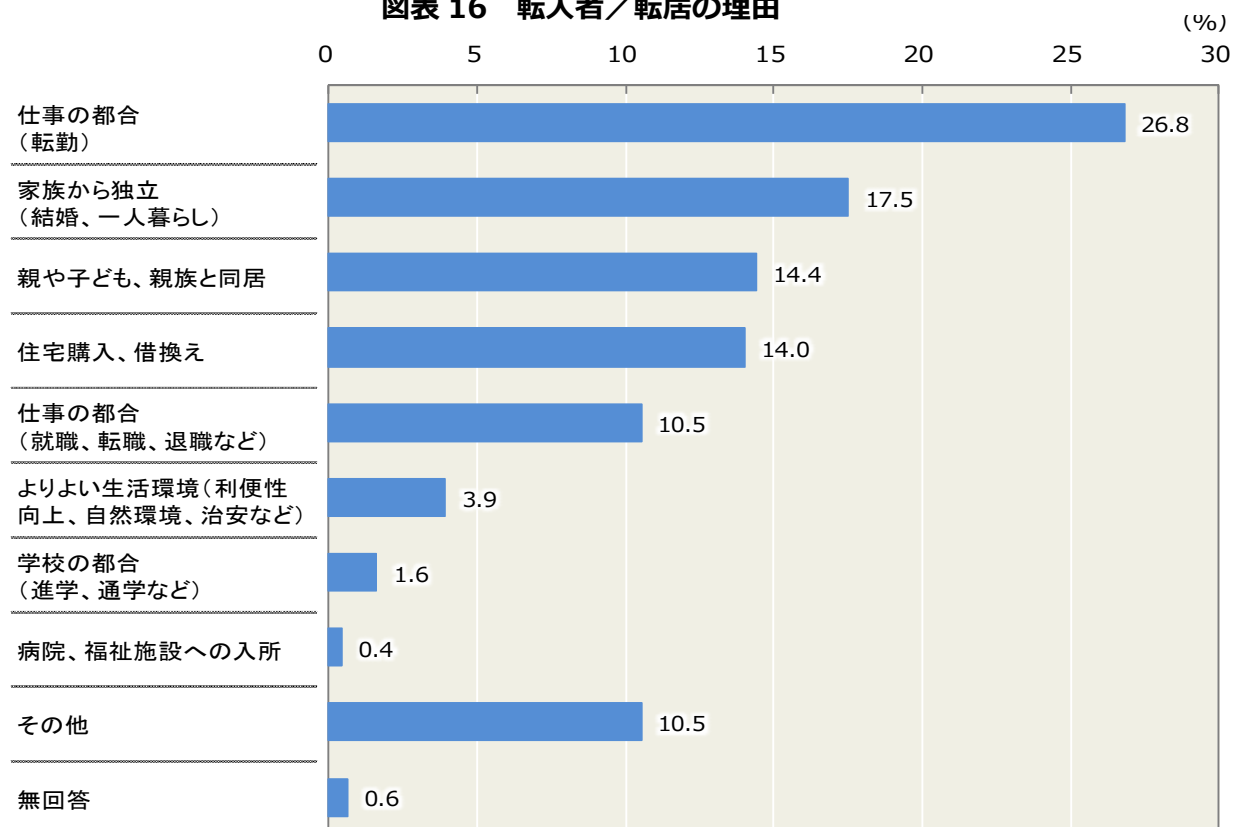
転入者の移動の理由（図表 16）は、「仕事の都合（転勤）」が 26.8%、「家族から独立（結婚、一人暮らし）」が 17.5%、「親や子ども、親族と同居」が 14.4%、「住宅購入、借換え」が 14.0%、「仕事の都合（就職、転職、退職など）」が 10.5%で、上位を占めている。

転出者 438 人のその理由（図表 17）は、「仕事の都合（転勤）」が 29.2%、「住宅購入、借換え」が 19.2%、「家族から独立（結婚、一人暮らし）」が 13.9%、「仕事の都合（就職、転職、退職など）」が 12.8%で、上位を占めている。

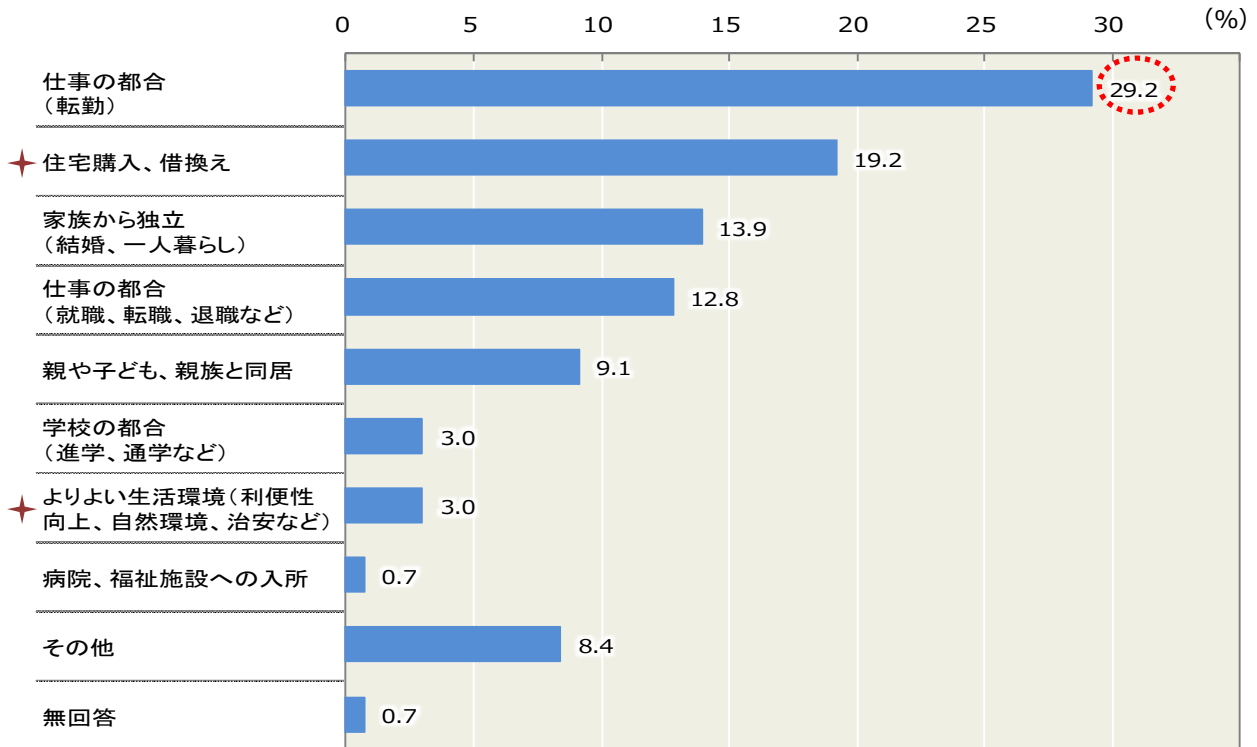
なお、転入、転出ともに「その他」の回答については参考資料 1（14P）を参照されたい。

転入出者ともに理由の 1 位に挙がったのは「転勤」。2 位以下に、若干の差異が見られる。転入者は、家族からの独立 ⇒ 親や子どもとの同居 ⇒ 住宅購入が上位を占める。転出者は、住宅購入 ⇒ 家族からの独立 ⇒ 就職転職などである。

図表 16 転入者／転居の理由



図表 17 転出者／転居の理由



[参考資料 1] 図表 16+図表 17「その他」の自由記述

(件)

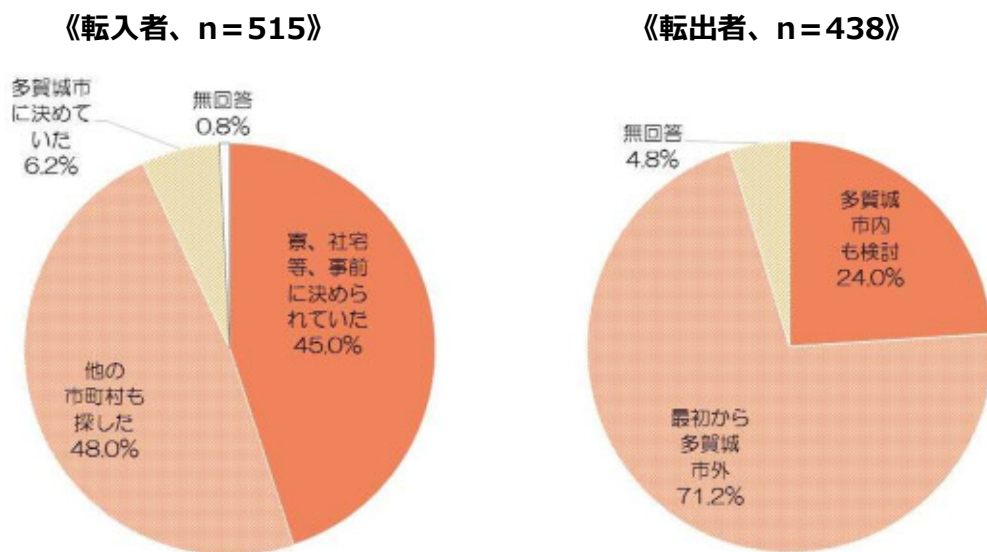
転入者	回答数	転出者	回答数
震災(被災を含む)	12	結婚(一時的な一人暮らしを含む)	5
結婚・同棲	8	離婚	5
離婚	3	震災(被災を含む)	3
公営住宅の入居	3	立ち退き(仙台市の集団移転を含む)	3
子供が増え手狭に	2	新築	1
家賃の見直し	2	実家のある土地に新築	1
多賀城が好き	1	実家の近くへ	1
以前自衛隊に居住した為町を知ってるから	1	土地が、無かった為	1
家族の通勤	1	公営住宅	1
JR駅の近く。10分以内	1	生活保護を受ける生活のため予算内のアパートを探した	1
親が近くに住んでいる為	1	保育園の都合	1
介護の為の同居	1	社宅の変更	1
以前より当地に貸家が有った為	1	仕事の都合、通勤	1
将来に向けて	1	元々25年単身赴任中	1
都合により	1	高齢のため	1
解体するため	1	階段高齢住居が大変のため	1
		アパートなので2Fの住人がうるさかった	1
		家庭の事情	1
		夫と同居するため	1
		歌手になりたいと思いました。	1

3.4 多賀城市内での住まい探し

多賀城市に転入した際、多賀城市と他の市町村を比べたかの質問に対して、転入者は「他の市町村も探した」が48.0%とおよそ半数が、他の市町村との検討を行ったうえで、最終的には多賀城市へ転居している。最初から「多賀城市に決めていた」人たちは6.2%であった。

また、一番多かったのは「最初から多賀城市外」に決まっていた71.2%、この人たちの転入理由としては、選択の余地がなかった転勤や就職、進学などが理由として考えられる。また、「多賀城市内も検討」したものの多賀城市を離れた24.0%の人たちは、前述の転出理由の第2位に「住宅購入、借換え」が約2割いること(図表17)を考慮すると、さらに「よりよい生活環境(利便性向上、自然環境、治安など)」といった理由を挙げている人が3.0%おり、この2項については転出者の選択の余地が大きい理由である。多賀城市内も検討したが、結局他市へ引っ越した人たちの理由として、住宅関連、生活環境に関するものが想定される。

図表 18 多賀城市内での住まい探しの検討

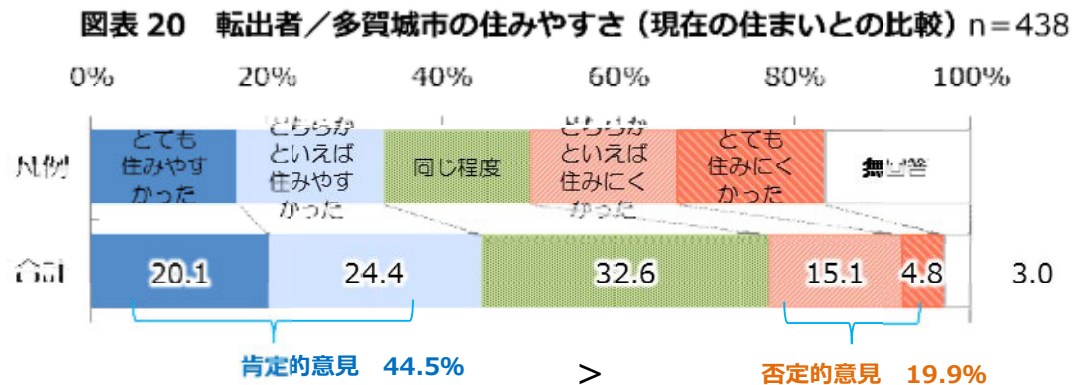
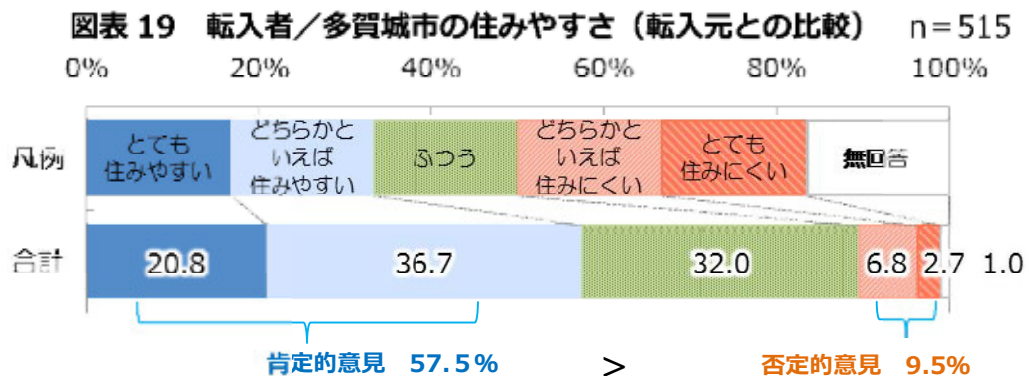


3.5 多賀城市と他市との「住みやすさ」比較

転入者に、多賀城市の住みやすさについて聞いた設問では、「とても住みやすい」(20.8%)と「どちらかといえば住みやすい」(36.7%)を合わせた肯定意見の合計が6割弱となっている。逆に「とても住みにくい」(2.7%)と「どちらかといえば住みにくい」(6.8%)と合わせた否定意見の合計は1割程度となっており、肯定意見が否定意見を大幅に上回っている(図表19)。

転出者には、現在の住まいと多賀城市の住みやすさの比較について聞いた結果である。多賀城市のほうが「とても住みやすかった」(20.1%)と「どちらかといえば住みやすかった」(24.4%)を合わせた肯定意見の合計が4割強となっている。逆に、「とても住みにくかった」(4.8%)と「どちらかといえば住みにくかった」(15.1%)と合わせた否定意見の合計は2割程度となっており、肯定意見が否定意見を上回っているが、転入者よりも厳しい評価となった(図表20)。

総じて言えることは、多賀城市の「住みやすさ」は、転入転出者ともに認める住みやすい地域であるといえよう。ただし、転入者の約1割、転出者の約2割は否定的である。



3.6 居住地決定の際の重視点

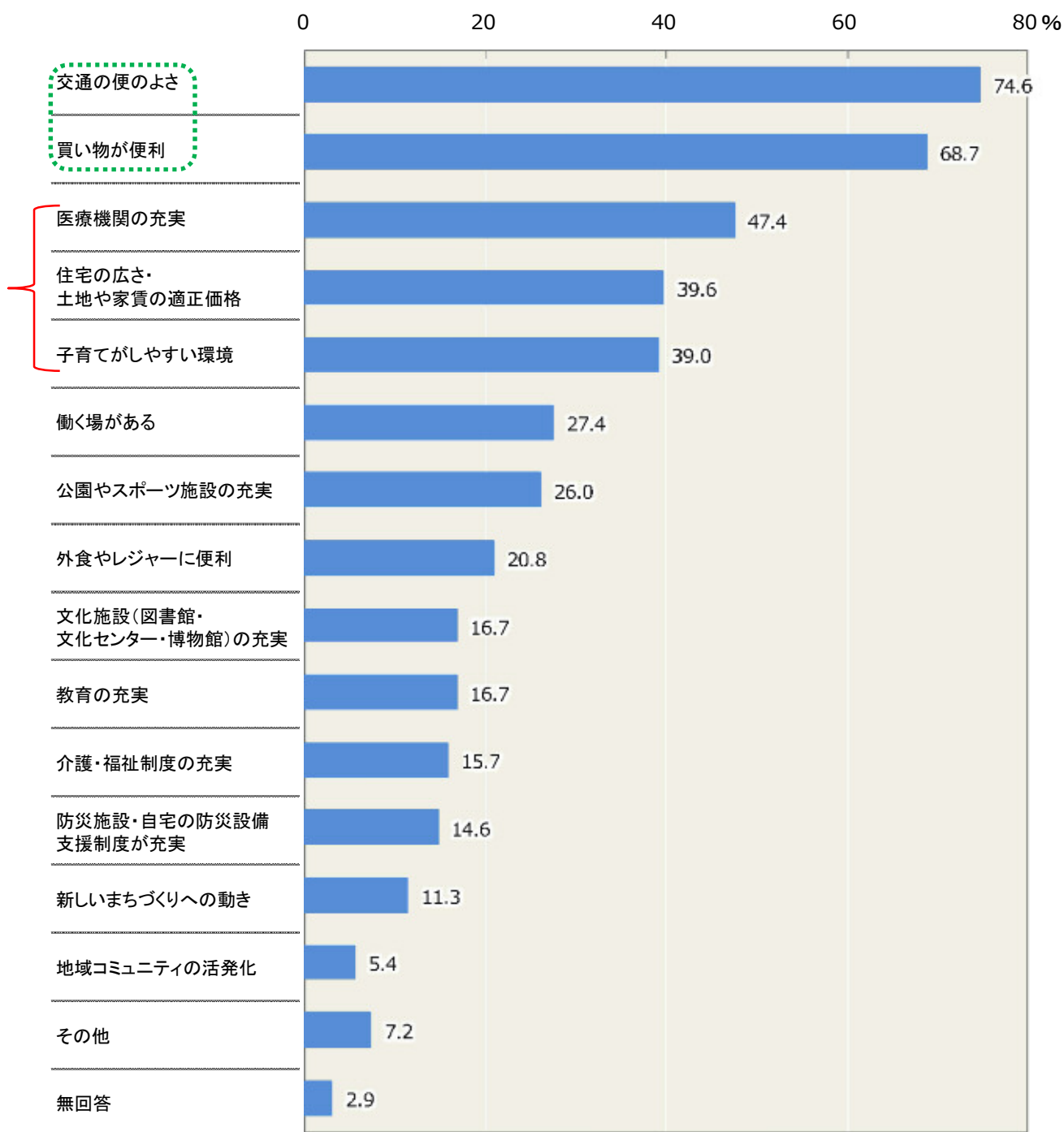
転入者が居住地を決定する際の重視点（図表 21）は、「交通の便のよさ」74.6%、「買い物が便利」68.7%、「医療機関の充実」47.4%、「住宅の広さ・土地や家賃の適正価格」39.6%、「子育てがしやすい環境」39.0%であった。

転出者が居住地を決定する際の重視点（図表 22）は、「交通の便のよさ」が74.4%、「買い物が便利」が72.6%、「医療機関の充実」が49.1%、「子育てがしやすい環境」が43.2%であった。

住まいを変えるときポイントとなるのは、交通の利便性、買い物などの生活のしやすさなど、“生活の利便性”が上位2項目に挙がる。次に挙げられるのは、医療機関の充実、住宅、子育てのしやすさなどであり、これらが転居時に重視する項目といえる。

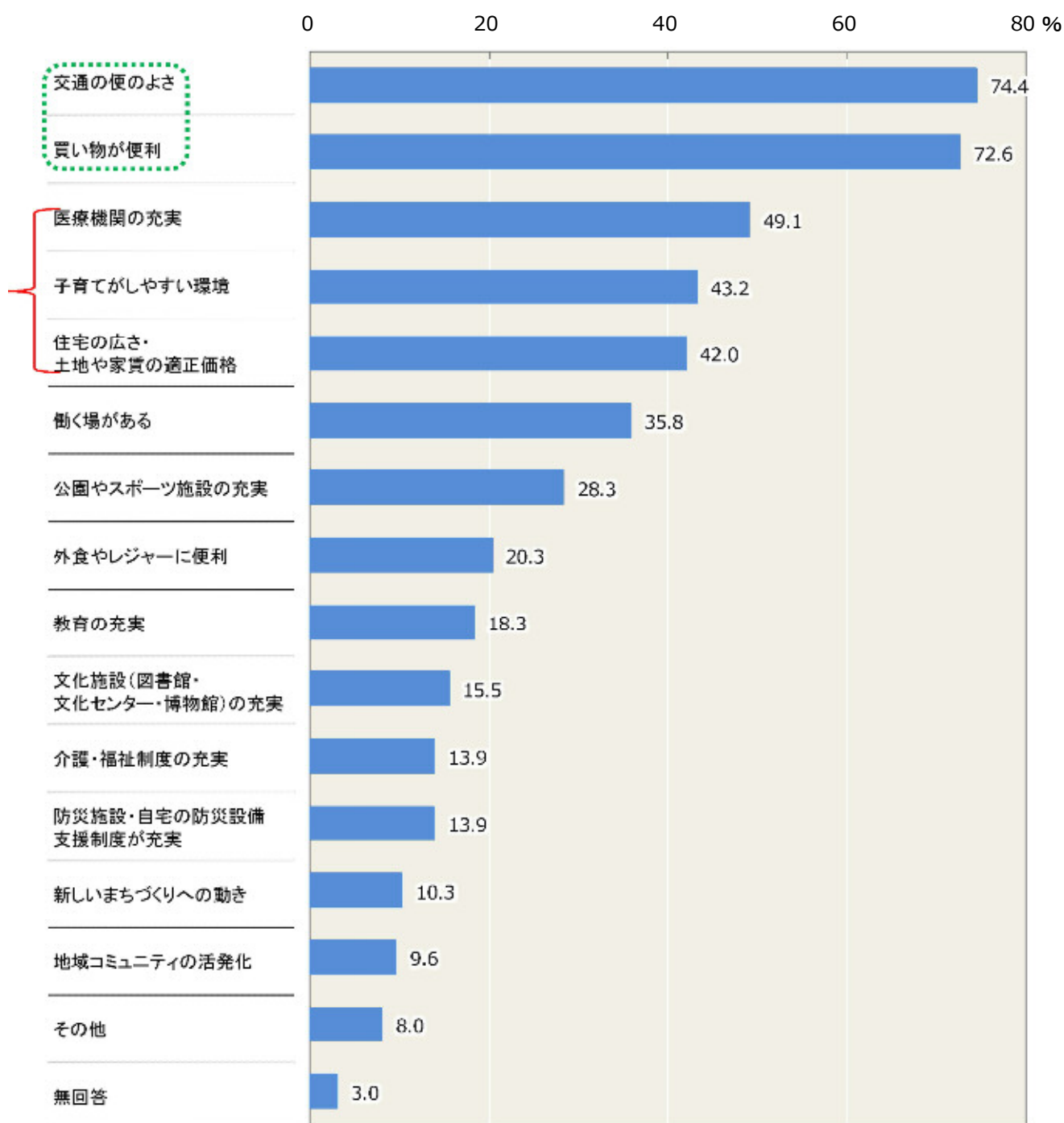
図表 21 転入者／転居の際の重視する点

n = 515



図表 22 転出者／転居の際の重視する点

n=483



3.7 多賀城市の魅力、よい点・悪い点

3.7.1 転入者が考える多賀城の魅力

転居して間もない市民もいることから、実際に体験していないことも多くイメージや伝聞で判断することも多い。そこで、転入者には多賀城市の魅力の有無という設問形式をとった。

転入者に多賀城市の魅力は何かと尋ねた結果、「買物をする場所・内容が充実」34.2%、「通勤や通学など交通の便」33.8%、「自然環境」26.8%、「環境のよい住宅地」23.1%が挙げられた（図表 23）。

一方、転入者にとって多賀城市の魅力でない点は、「医療機関の充実」21.7%がトップに上がり、「買物をする場所・内容が充実」19.2%、「子育て環境の充実」15.7%、「通勤や通学など交通の便」15.3%と続いた。

買い物や交通の利便性は「魅力」でも、「魅力でない」でも、上位となったが、魅力であるとするほうが勝っている結果となった。しかし、「医療機関の充実」「子育て環境の充実」については、魅力でないほうが勝っている。転入時には、医療や子育て環境は重視するも（図表 21）、多賀城市の魅力としては映らないようだ。

3.7.2 転出者が指摘する多賀城のよい点・悪い点

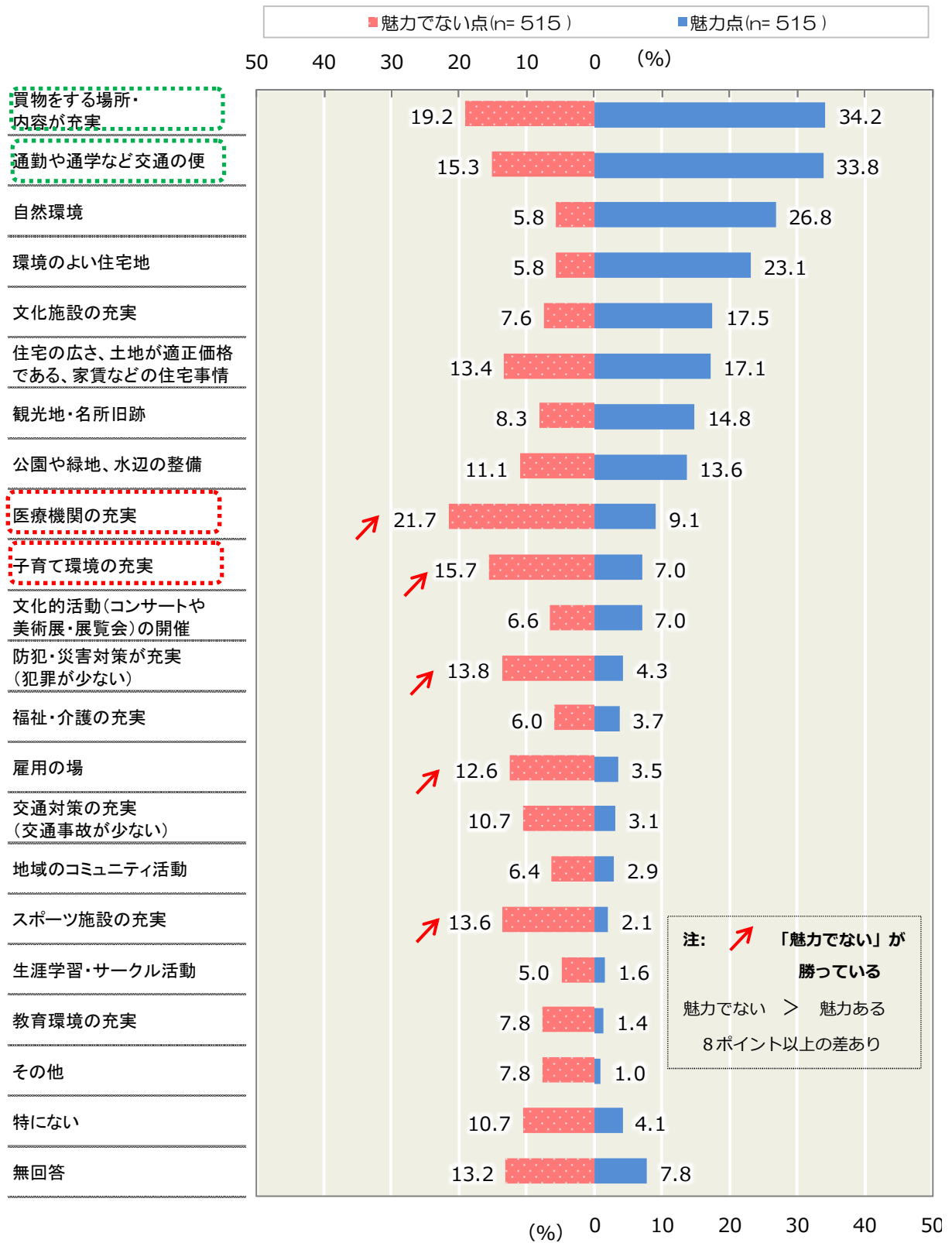
次に、転出者はどうか。多賀城市内での生活も豊富であるため、よい点、悪い点という形で質問をしている。

転出者が指摘する多賀城市のよい点（図表 24）は、「買物をする場所・内容が充実」40.4%、「通勤や通学など交通の便」38.1%、「自然環境」22.8%、「環境のよい住宅地」21.9%と続く。転入者と同様に、上位2項の魅力ある点として挙げられた。

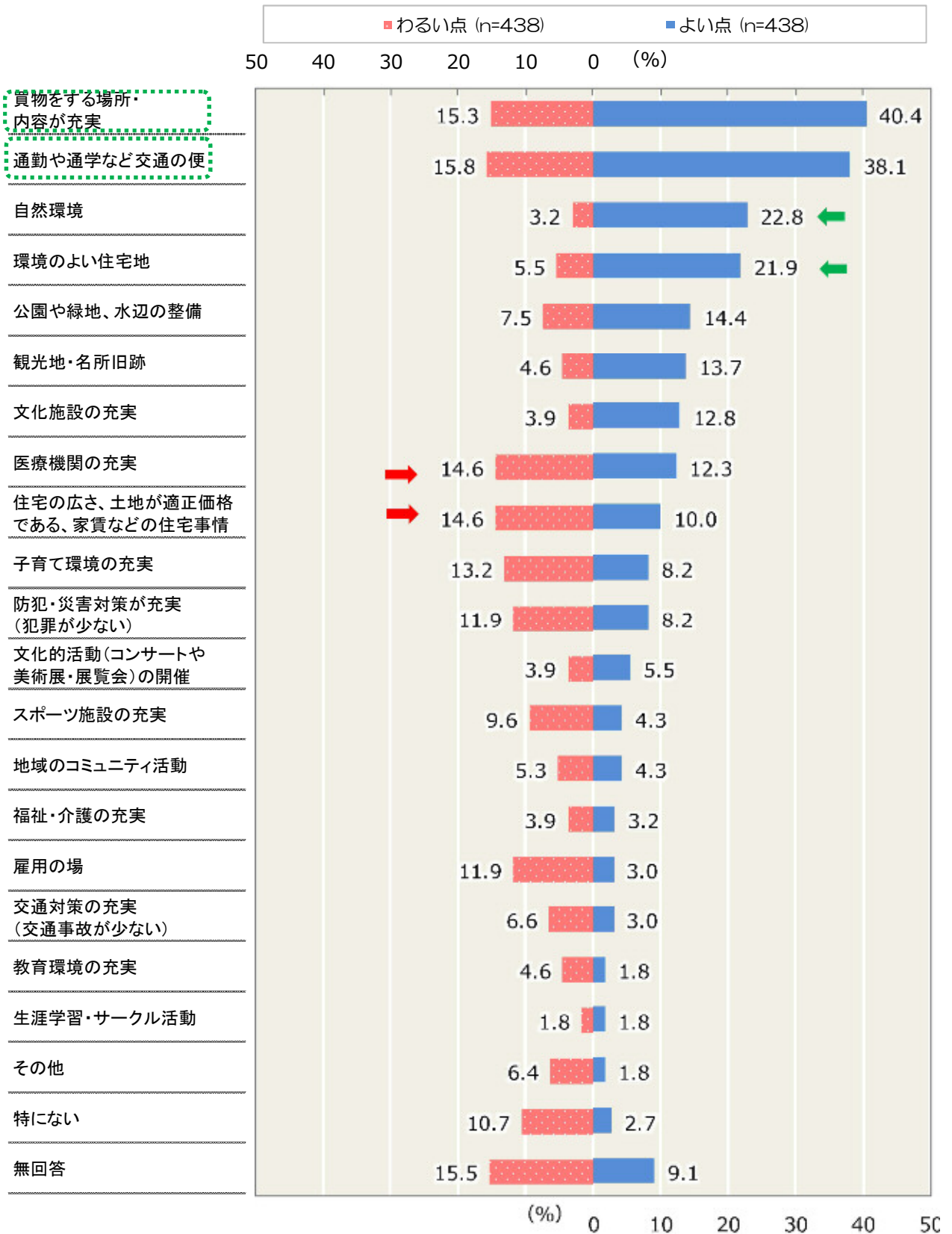
一方、多賀城市の悪い点は、「通勤や通学など交通の便」15.8%、「買物をする場所・内容が充実」15.3%、「住宅の広さ、土地が適正価格である、家賃などの住宅事情」14.6%と続く。こちらも転入者とあまり変わらない。

転入者、転出者ともに、多賀城市への魅力やよい点については大きな差は認められない。

図表 23 転入者／多賀城市の魅力度（魅力のある点と魅力でない点）



図表 24 転出者／多賀城市のよい点、悪い点



4 クロス集計結果

4.1 回答者のプロフィール

4.1.1 転入、転出の回答者像

転入者の職業を性別で見ると、男性は6割が「会社員」、2割弱が「公務員」であるが、女性は3分の1が「専業主婦」であった。

転出者の職業を性別で見ると、男性は5割が「会社員」、3割弱が「公務員」であり、女性は4割強が「専業主婦」であった。

これからいえることは、男性の会社員の流入が多い（34p 図表 5-1～）。

4.1.2 転入者の家族構成

転入者の平均家族人数は、転入前が 3.02 人、転入後は 2.84 人であった。年代別に家族構成を見ると、転入前は 30 代の「夫婦のみ」13.3%、「夫婦と子ども」40.3%と全体の半数を超えた。また、40 代の「夫婦」26.5%、「夫婦と子ども」35.7%と全体の6割を超えた。

転入後は、30 代「夫婦」が 11.6 ポイント増（13.3%→24.9%）、30 代の「単身者」8.3 ポイント減（19.3%→11.0%）となり、結婚などで転居してきたものと考えられる。転入前に「親と同居」は 20 代では 34.5%、30 代でも 17.7%であったが、転入後の「親と同居」はそれぞれ 12.4%、5.5%であり、核家族化の進行を裏付けるものとなっている（36p 図表 5-3～）。

4.1.3 転出者の家族構成

転出者の平均家族人数は、多賀城市にいたときが 3.02 人、転出後は 2.83 人であった。家族人数を性別で見ると、男性は「1 人」が転出後に約 4 ポイント増え（前 20.3%→後 24.2%）、女性は「3 人」が減り（前 26.7%→後 22.0%）、「2 人」が増え（前 18.8%→後 25.5%）ている（39p 図表 5-9）。とくに、年代別で見ると、20 代の変化が激しい。「1 人」「2 人」が転出前よりも、転出後に大きくポイントを伸ばしている。しかし「3 人」「4 人」は、その逆の現象を起こしている。明らかに、転出後は家族数が減ってきている。

家族構成を年代別にみると、転出前は 30、40 代の「夫婦と子ども」が 4 割（30 代 40.9%、40 代 41.0%）を占める（39p 図表 5-5）。

つまり、30 代、40 代の世帯構成に変化はない。だが、50 代の「単身（1 人）」が約 12 ポイント増（前 21.6%→後 33.3%）、そして人数をみると「3 人」が 6 ポイント減ることから、子どもの独立や単身赴任ということが考えられる（37p 図表 5-6、5-9、5-10～）。

4.2 多賀城市を選んだ理由

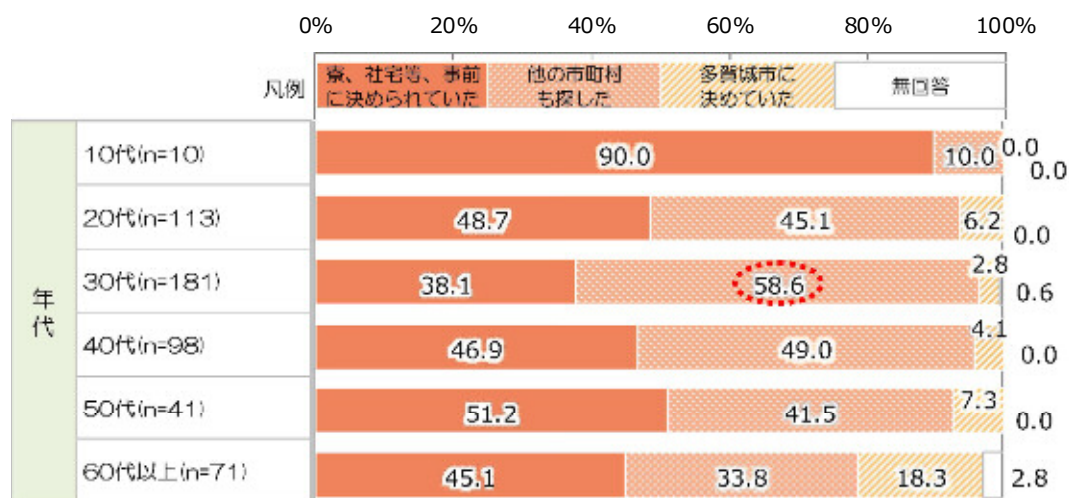
4.2.1 転入者が思う多賀城の住みやすさ

「住みやすさ別」にみた転入元は、「住みやすい」と回答した人のうち「県外」からの転入者は36.8%、「仙台市」からは29.1%。「住みにくい」と回答した人のうち「県外」からの転入者は46.9%、「仙台市」からは36.7%となった。

長年住めば土地への愛着も湧き、住めば都といわれる。そこで、転入者の多賀城市での居住経験について聞いており、転入者の約3割が居住経験ありであった。これを「住みやすさ別」にみると、「住みやすい」と回答した3割、「住みにくい」と回答した16.3%が多賀城市に居住経験をもつ。一方、居住経験のない7割も「住みやすい」と回答しているともいえ、一概に愛着だけでは判断できない（45p 図表 5-19）。

さらに、実際の行動として転入時に、他の市町村の検討を行ったかどうかの設問では、30代では約6割が最終的に多賀城市に決めている（図表 25）。子育て世代にとっては、魅力的に映るのであろう。

図表 25 転入者／年代別にみた多賀城市と他市の比較検討 n=515

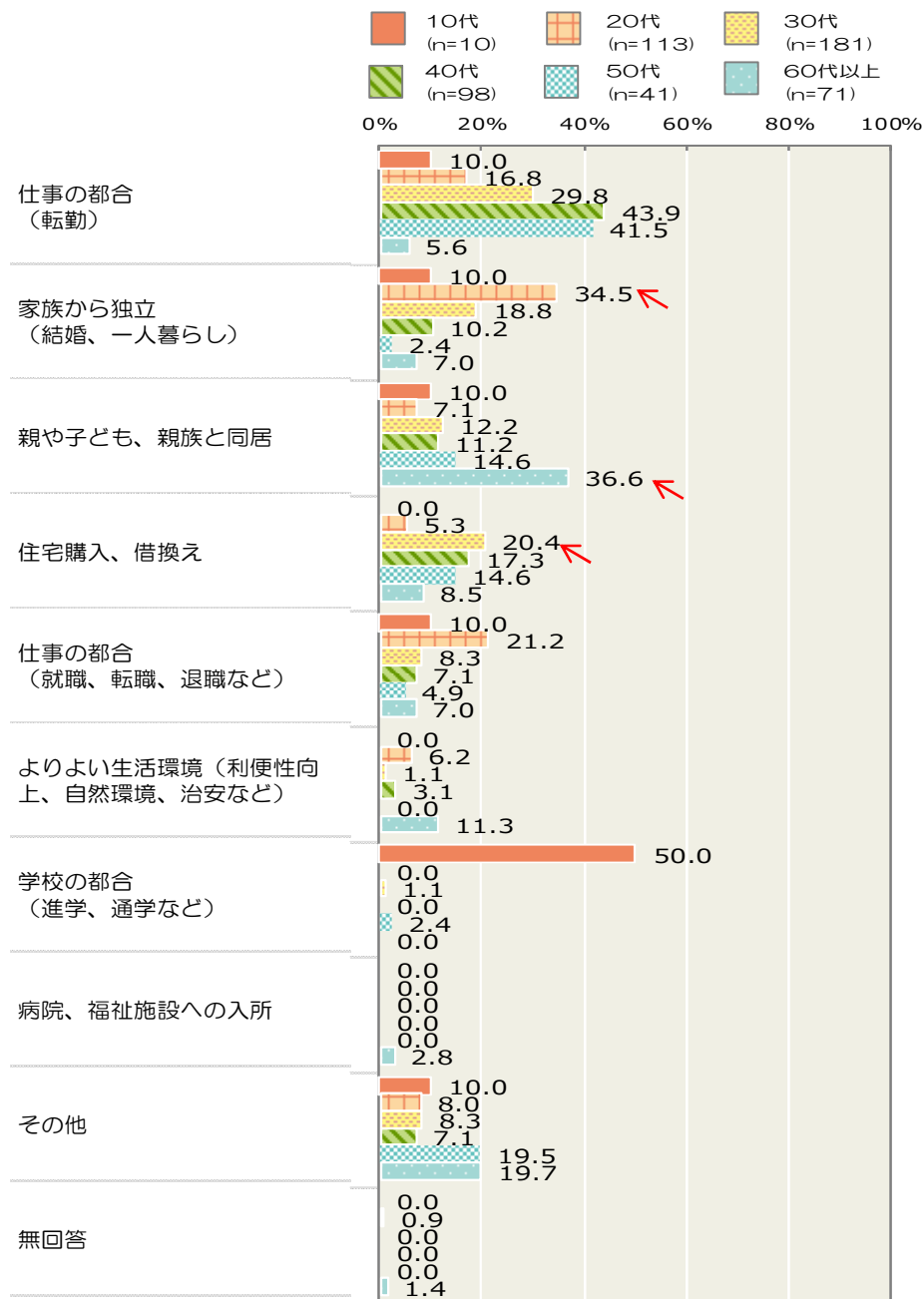


4.2.2 転入者の転入理由

転入した回答者の転入理由について聞いてみた。年代によって、その理由は大きく異なる。

20代は「家族からの独立」が34.5%と最も多く、30代は「転勤」29.8%、「住宅購入、借換え」20.4%、40代は「転勤」43.9%、50代も「転勤」41.5%、60代以上は「親や子ども、親族と同居」36.6%となっている。

図表 26 転入者／年代別にみる転居理由



4.2.3 転入者の住まい探しの重視点

転入者の48.0%にあたる、「他の市町村も探した」が多賀城を積極的に転入先として選んだ人たちの、住まい探しの重視点をみてみたい。

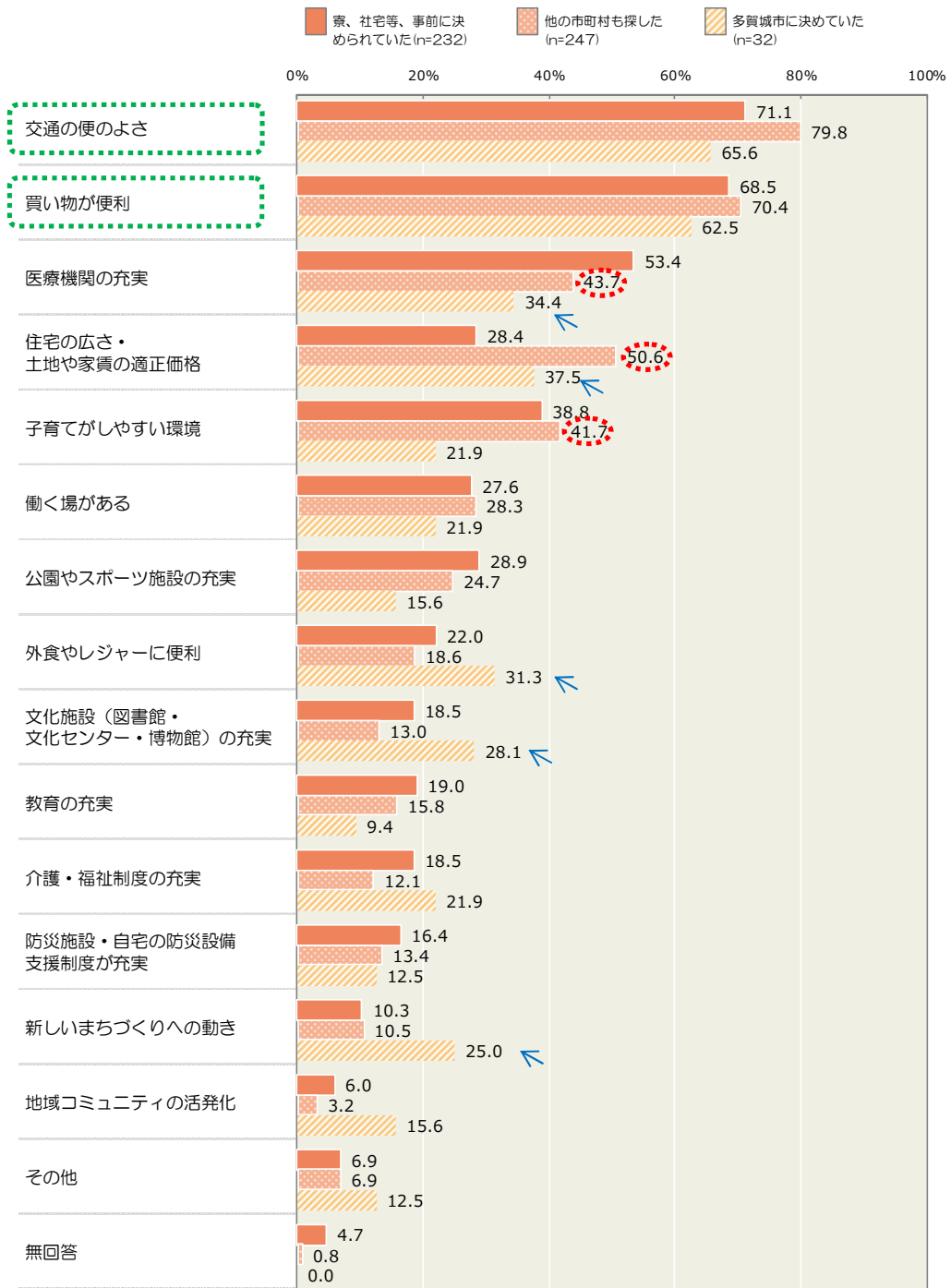
いくつかの選択肢の中から多賀城市を選んだ人たちが、何を重視しているかを見てみよう。

図表 27 に示したように、1、2位の「交通の便のよさ」「買い物が便利」は必須条件であることは変わらない。ポイントを少し下げて、3位「住宅の広さ・土地や家賃の適正価格」、4位「医療機関の充実」、5位「子育てがしやすい環境」となる。これらが、多賀城市に決定した転入の要素になっている点である。

次に、最初から多賀城に決めていた人たちとの比較もしてみよう。上位1、2項目は変わらないが、3位以下は非常に多様化している。ポイント25%以上の項目でも、住宅の適正さ、外食やレジャーに便利、文化施設の充実、新しいまちづくりへの動きといった、“多賀城そのものの魅力”や“市政の方向性”も含む内容が指摘されている。

図表 27 転入者／多賀城市に居住を決めたときの重視点

n = 515 (複数回答)



4.3 多賀城市から離れた理由

4.3.1 転出者が思う多賀城市の住みやすさ

「住みやすさ別」にみた転出先と比較した多賀城市は、「住みやすい」と回答した人のうち「県外」への転出者は47.7%、「仙台市」へは17.9%。「住みにくい」と回答した人のうち「県外」への転出者は33.3%、「仙台市」へは43.7%となった。

4.3.2 転出者の転出理由

転出した回答者に転出理由について聞いてみた。年代によって、その理由は大きく異なる。

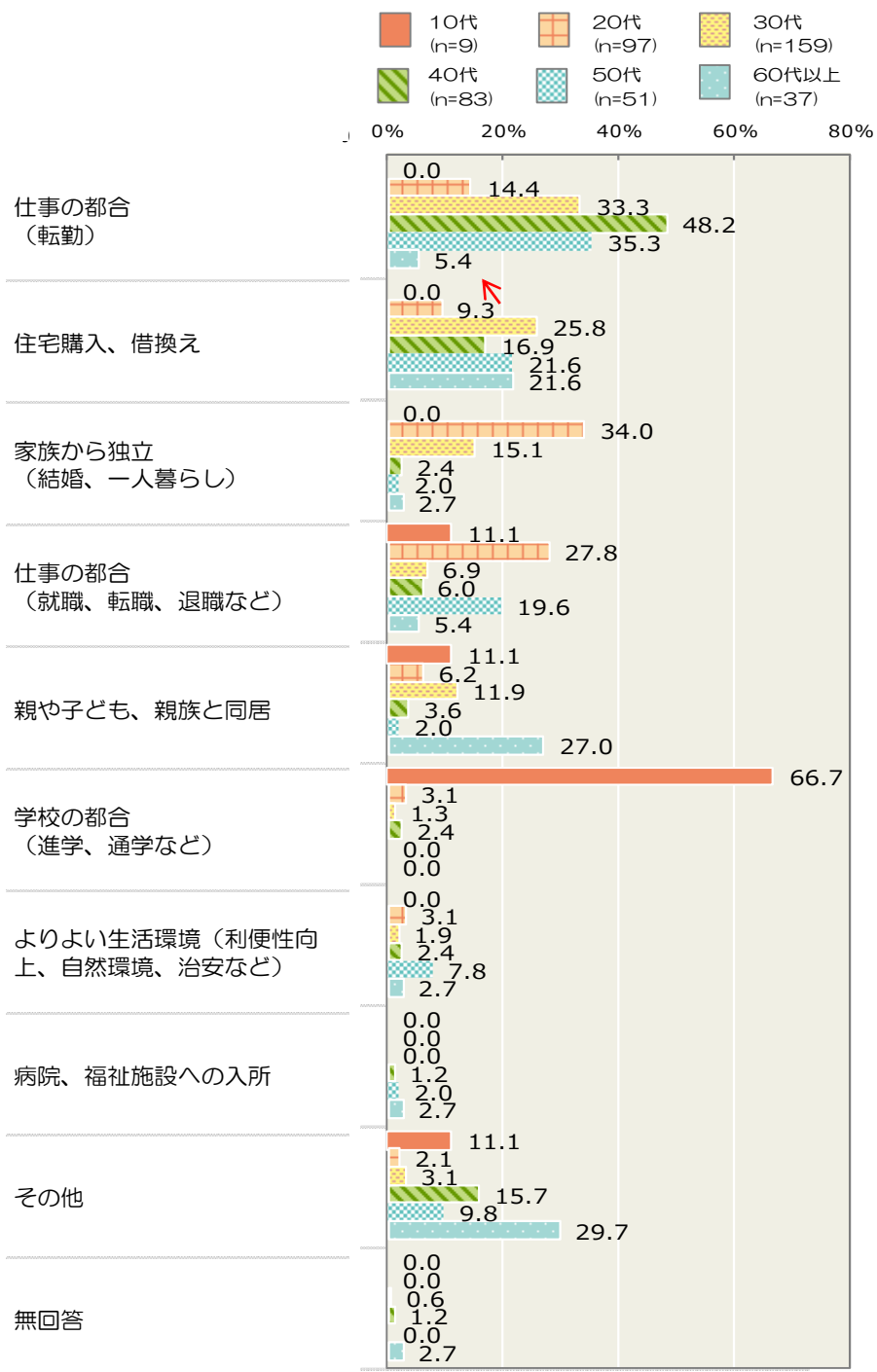
20代は「家族からの独立」が34.0%と最も多く、「就職、転職などの仕事の都合」27.8%、30代は「転勤」33.3%、「住宅購入、借換え」25.8%、40代は「転勤」48.2%、50代は「転勤」35.3%、60代以上は「親や子ども、親族同居」27.0%となっている（図表28）。

4.3.3 転出者の住まい探しの重視点

転出者の24.0%が、「多賀城市内も検討」したが別の市町村へ転出した人たちだ。転居の際にどのようなことに重きをおいて決定したかを聞いた。交通、買い物の利便性を重視するのは、転入者と同じ。3位以降も、「医療機関の充実」「子育てがしやすい環境」「住宅の広さ・土地や家賃の適正価格」と順位は異なるも同じ項目が挙げられた。しかし、「住宅」に関しては、最初から多賀城市外に決めていた人とは25ポイントの大きな開きがあった。転出者の多くは、多賀城市の住宅の広さや価格を適正ではないと考えられる（図表29）。

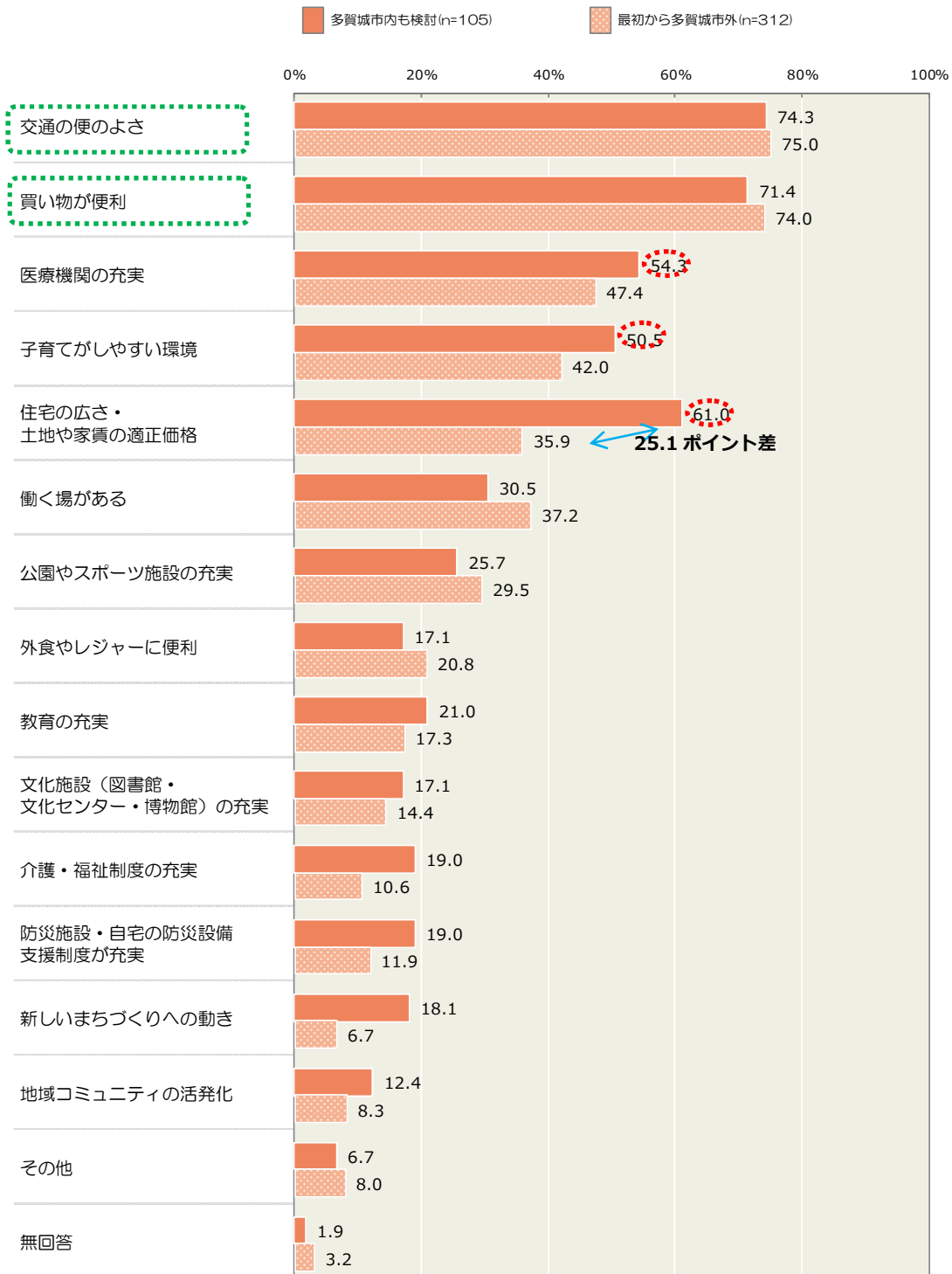
図表 28 転出者／年代別にみる転出理由

n = 438



図表 29 転出者／他市に居住を決めた時の重視点

n = 438 (複数回答)



4.4 多賀城市への評価

転入者のうち「他市の市町村も探した」が多賀城市に転居してきた 247 人（図表 30）。積極的に多賀城市へ移り住んで来た彼らが認める魅力とを感じる点は、3分の1以上が交通や生活の便の良さだとし、3位以下は「自然環境」「環境のよい住宅地」「住宅の広さ、価格」「文化施設の充実」と続く。ここでも、環境のよさ、住宅に関する要因が多い。

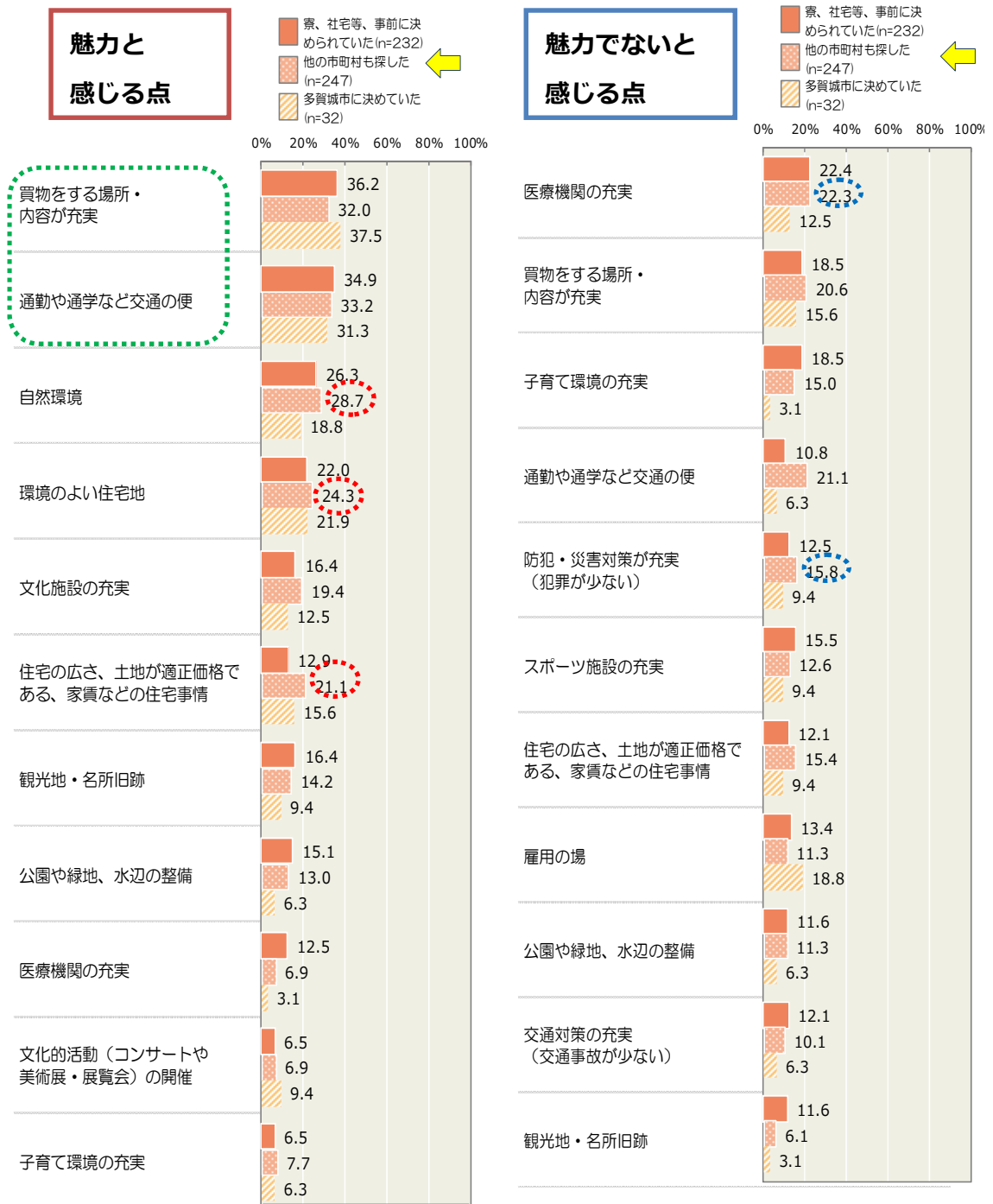
一方、魅力でないと感じる点は、「医療機関の充実」がトップで、2、3位に生活の便にかかわる項目、以下「防犯・災害対策が充実」と続く。

では、転出者のうち「多賀城市市内も検討した」が多賀城市から離れていった 105 人に、多賀城市のよい点を聞いた（図表 31）。上位2項は交通、生活の便のよさを指摘。次に挙げるのは、「環境のよい住宅地」「文化施設」「自然環境」と続き、転出者も環境のよさと、充実した文化施設を認める結果となった。

一方、わるい点と捉えているのは、他を大きく引き離して「住宅の広さ、価格」37.1%がトップ、次いで「子育て環境」20.0%、「医療期間の充実」19.0%だと指摘。実際に生活をしてきた人たちの厳しい指摘が、この3項目であることが明らかになった。

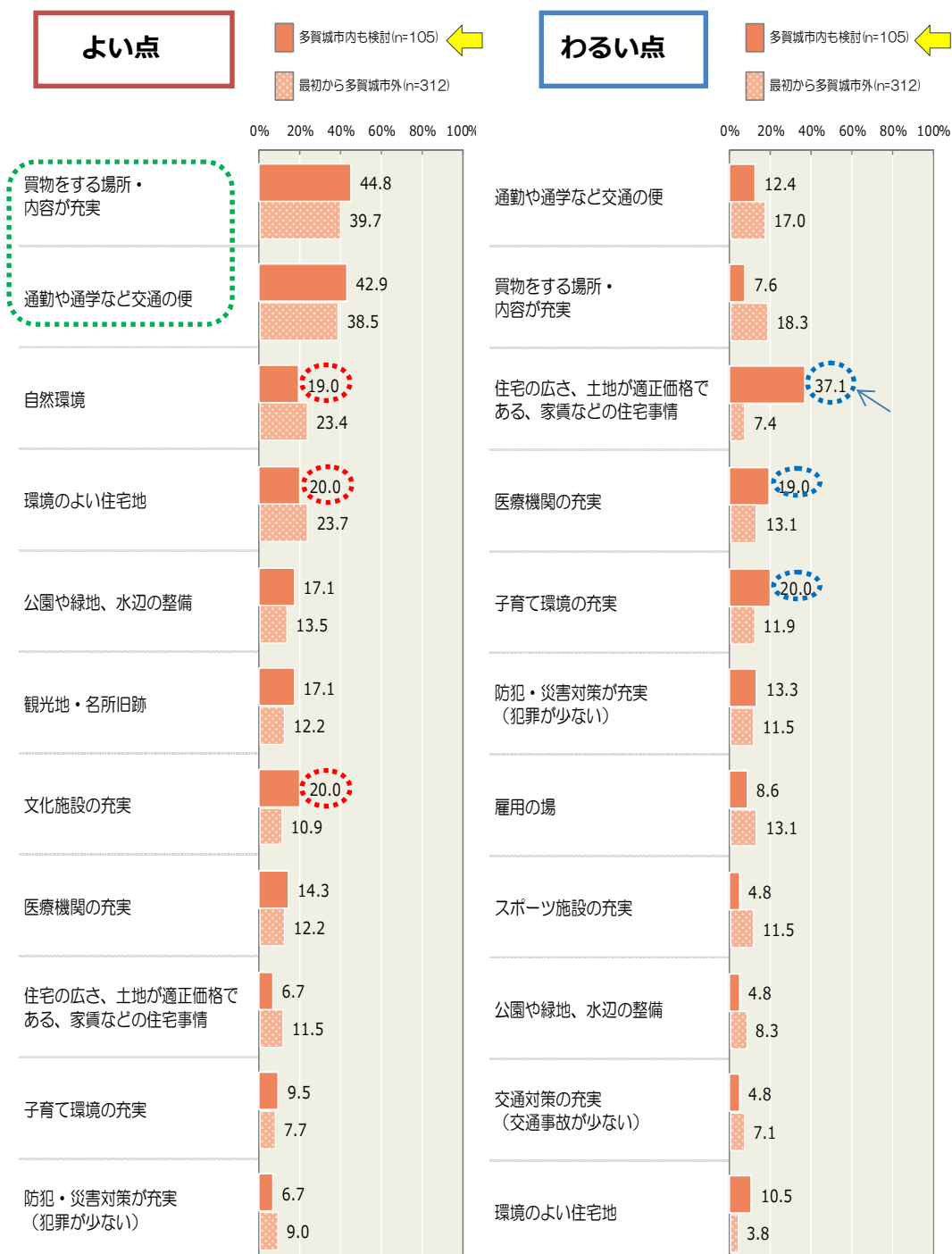
図表 30 転入者／他市との比較検討別に見る多賀城市の魅力（上位 11 項目）

n = 515



図表 31 転出者／他市との比較検討別に見る多賀城市の評価（上位 11 項目）

n = 438



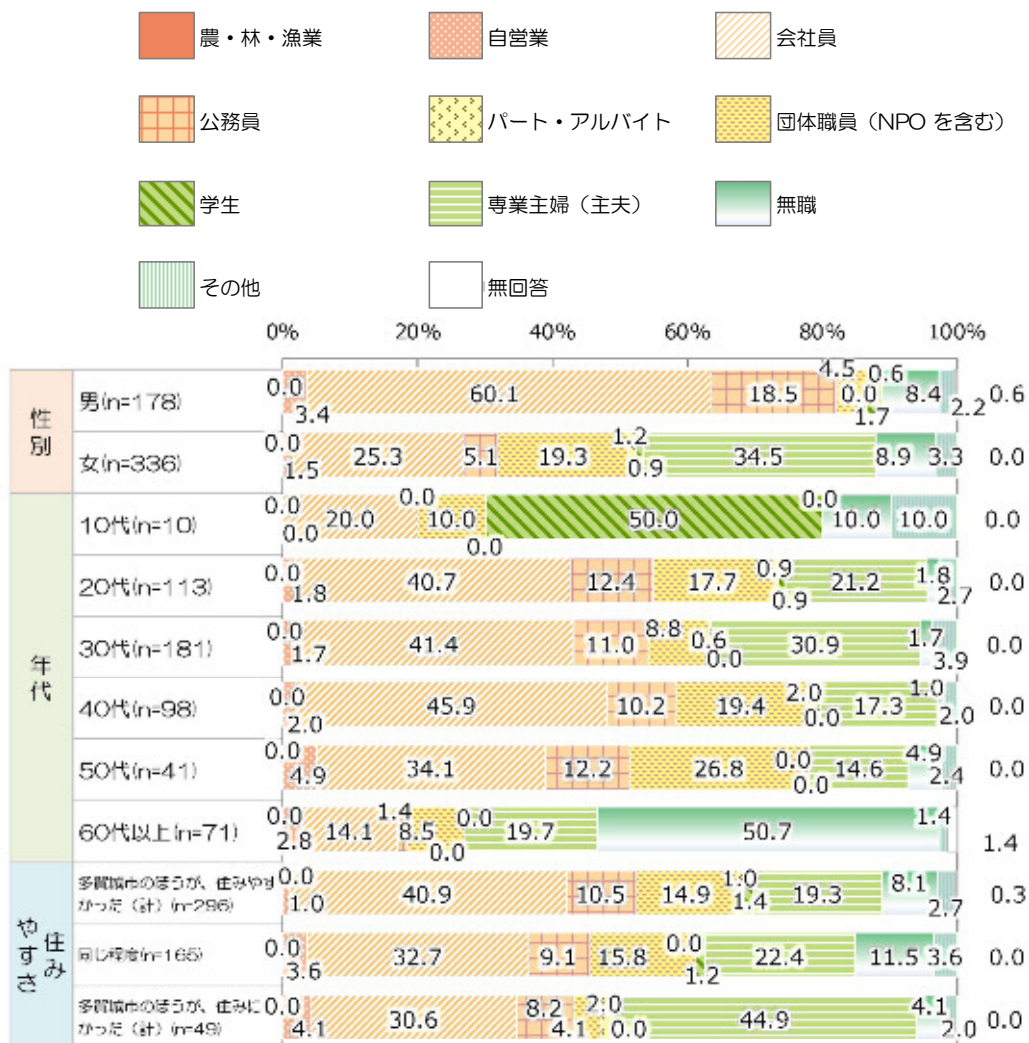
5	参考資料	34
5.1	回答者像（性別、年代別、住みやすさ別）	34
5.1.1	回答者プロフィール	34
5.1.2	回答者の家族構成	36
5.1.3	回答者の家族人数	38
5.1.4	回答者の子ども年齢	40
5.2	移動（性別、年代別、住みやすさ別）	42
5.2.1	転入元	42
5.2.2	転出先	43
5.3	居住期間と多賀城での居住期間（性別、年代別、住みやすさ別）	44
5.3.1	居住期間	44
5.3.2	居住経験	45
5.4	転居時の住まいの形態と理由（性別、年代別、住みやすさ別）	46
5.4.1	住まいの形態	46
5.4.2	移転の理由	48
5.5	多賀城市と他市との住みやすさ比較（性別、年代別）	51
5.6	居住地決定の際の重視点（性別、年代別、住みやすさ別）	52
5.7	多賀城市の魅力、よい点・悪い点	54
5.7.1	転入者が考える魅力（性別、年代別、住みやすさ別）	54
5.7.2	転入者が考える魅力（他市検討者別）	58
5.7.3	転出者が指摘するよい点、わるい点（性別、年代別、住みやすさ別）	60
5.7.4	転出者が指摘する多賀城市の評価（他市検討者別）	64
5.7.5	地域別転入者、転出者の割合	66
6	調査票	67
6.1	転入者アンケート票	67
6.2	転出者アンケート票	71

5 参考資料

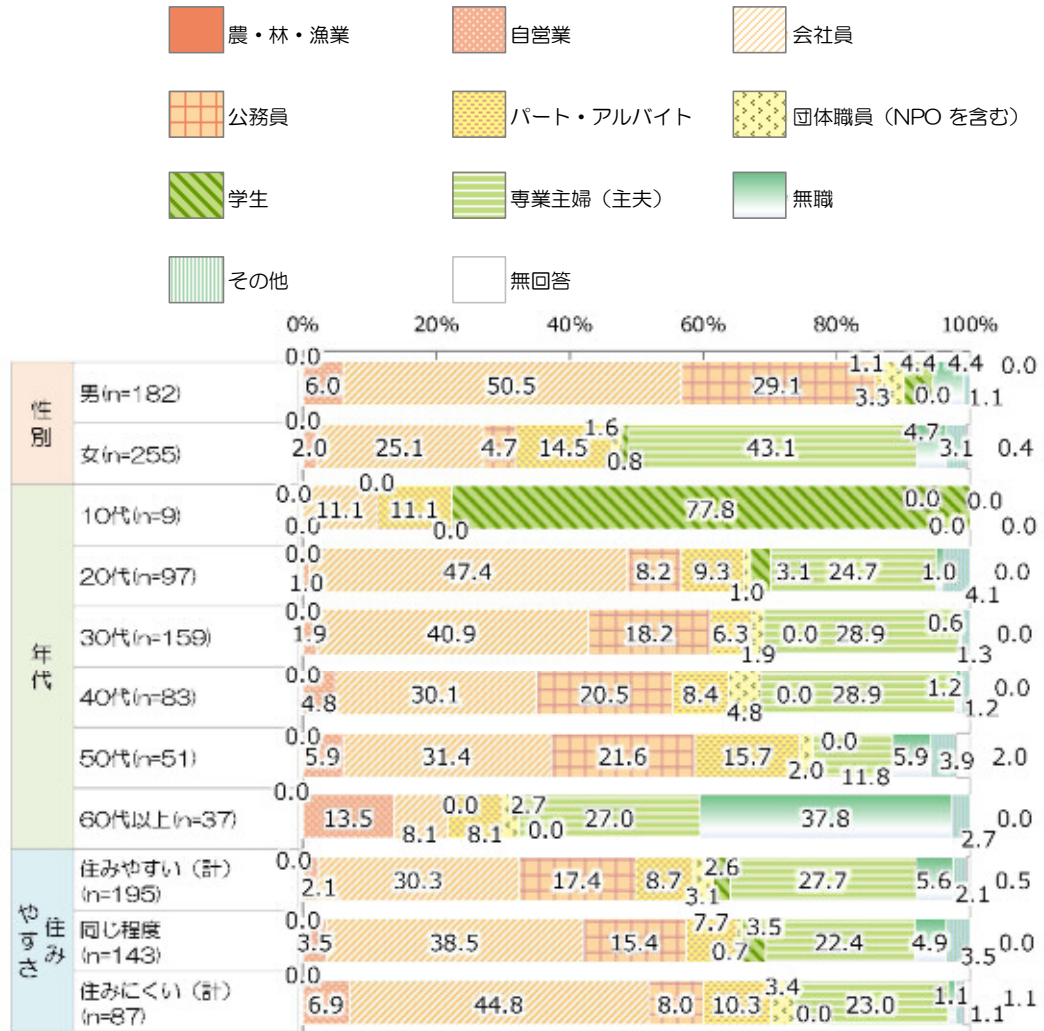
5.1 回答者像（性別、年代別、住みやすさ別）

5.1.1 回答者プロフィール

《図表5-1 職業／転入者》 n=515

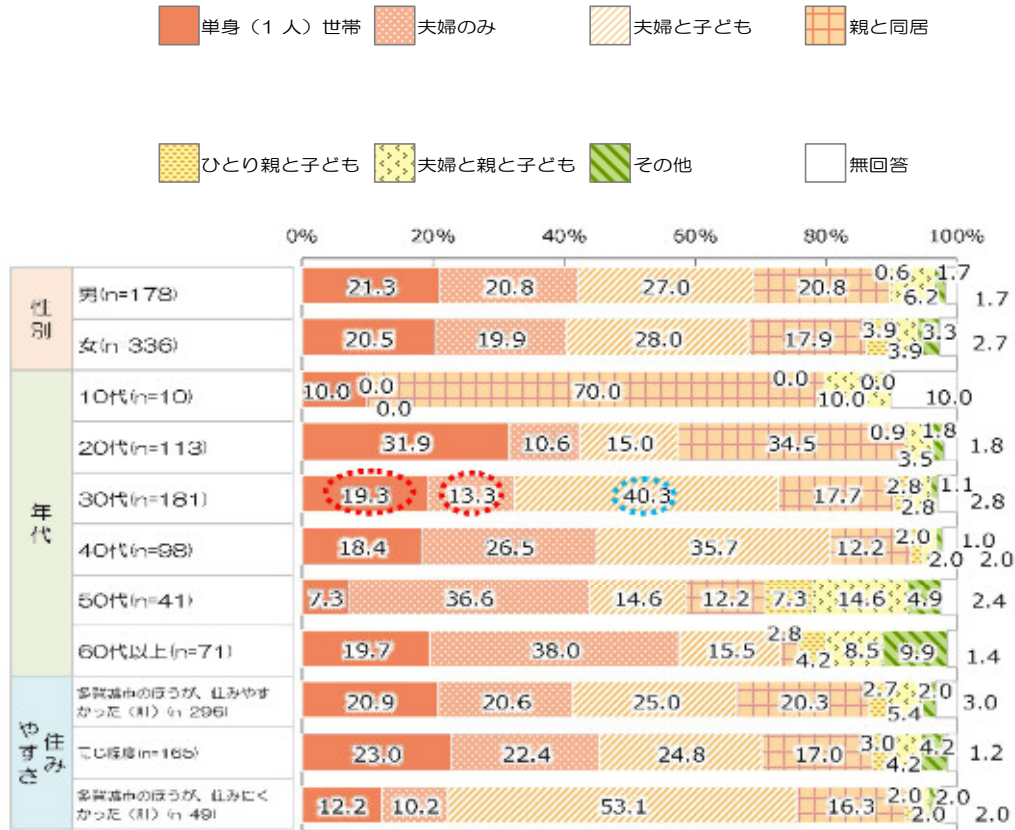


《図表 5-2 職業／転出者》 n=438

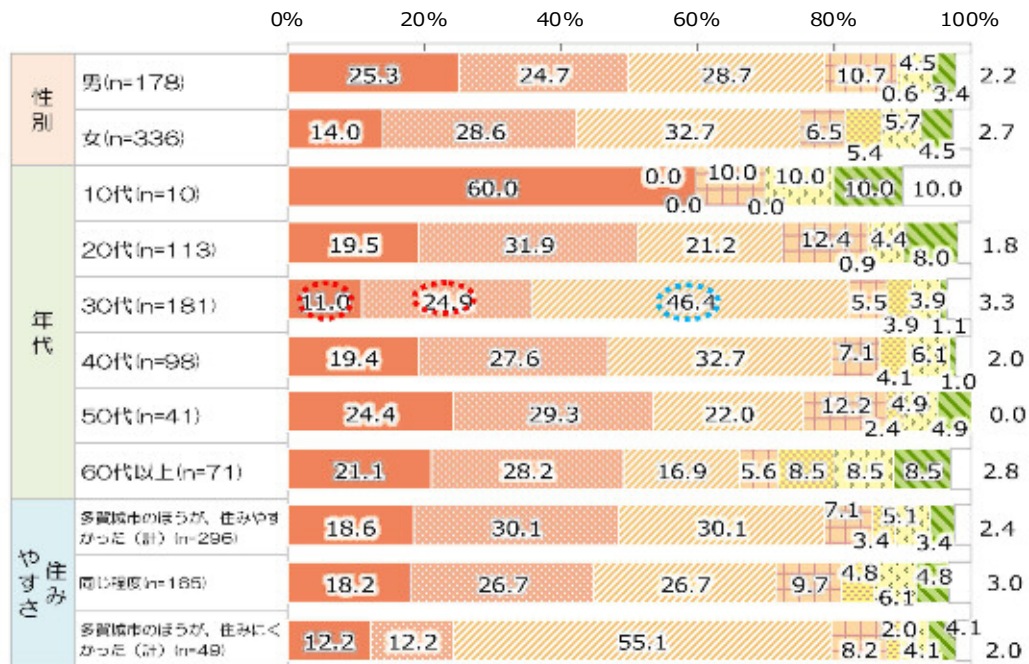


5.1.2 回答者の家族構成

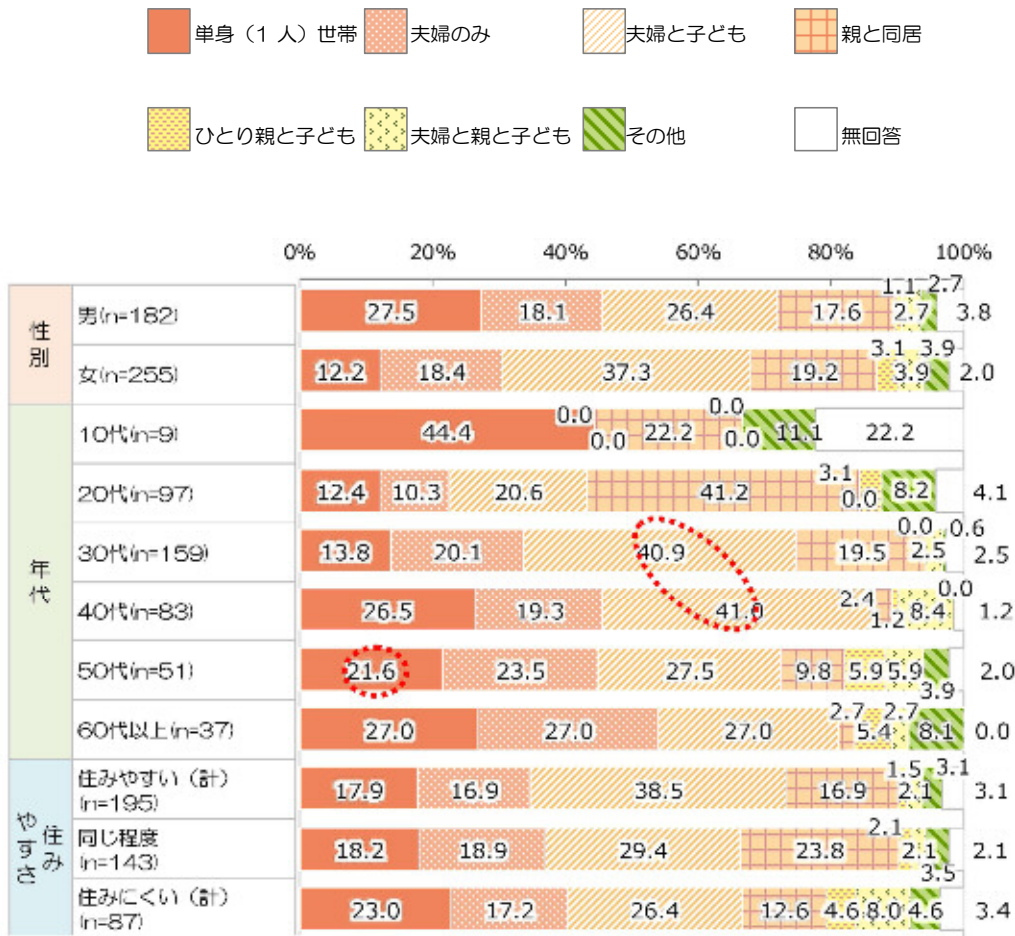
《図表 5-3 家族構成／転入前》 n = 515



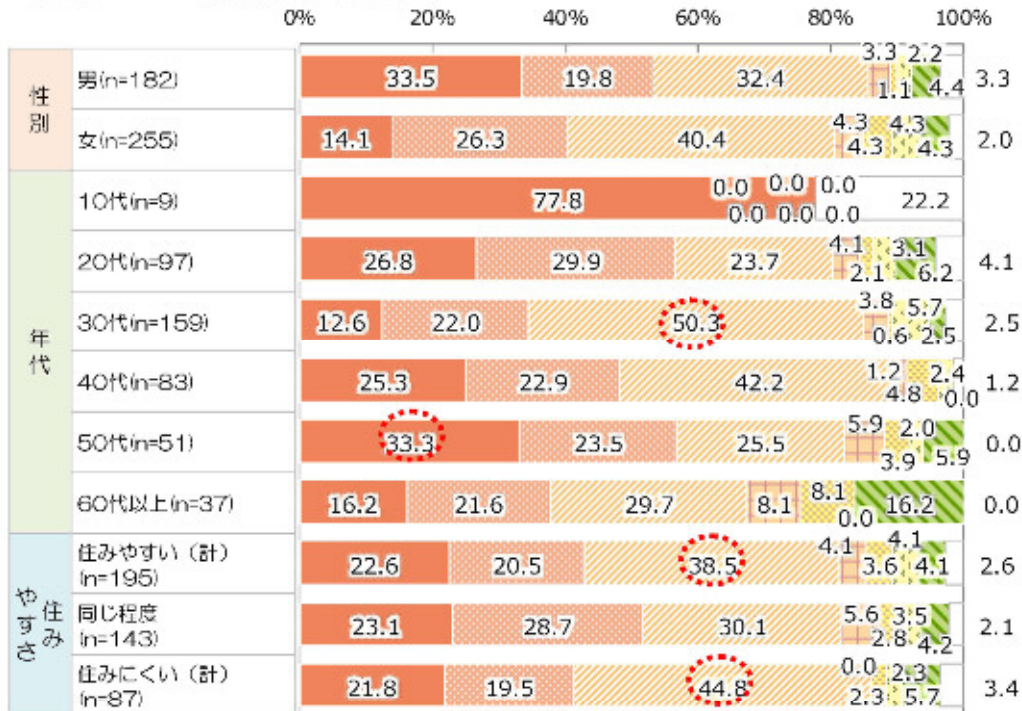
《図表 5-4 家族構成／転入後》 n = 515



《図表 5-5 家族構成／転出前》 n=438

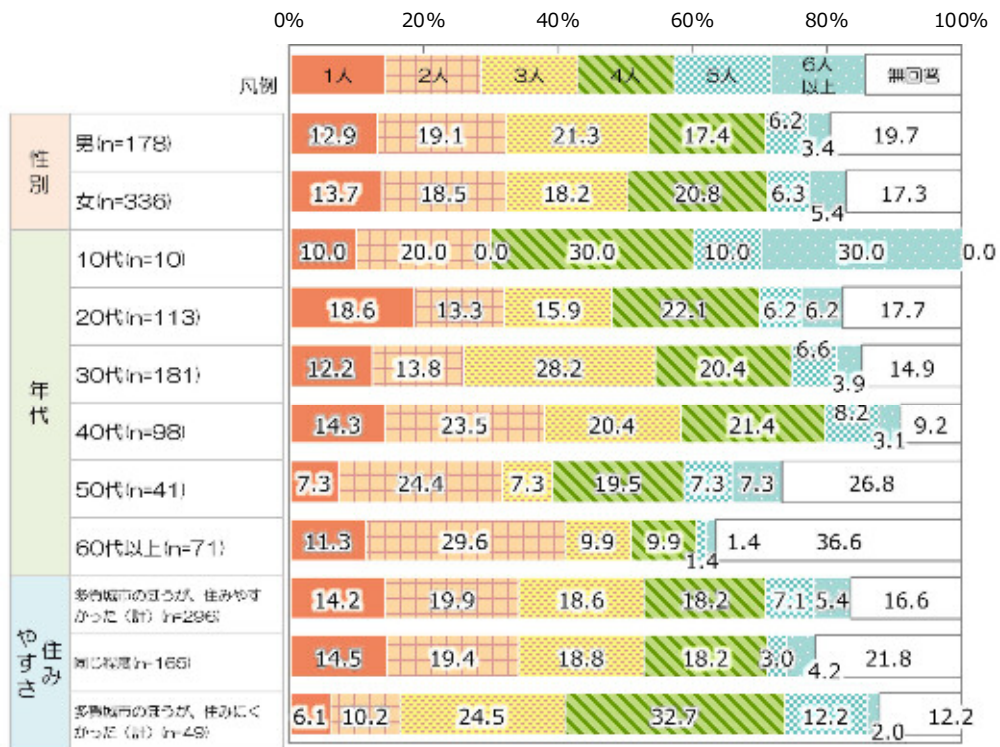


《図表 5-6 家族構成／転出後》 n=438

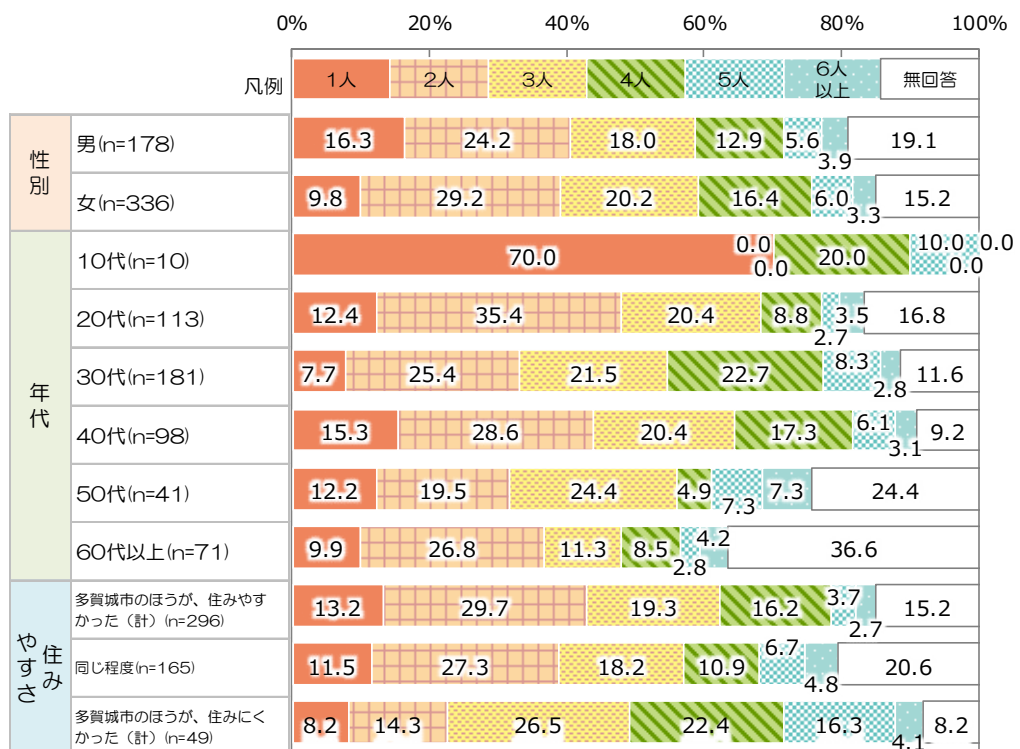


5.1.3 回答者の家族人数

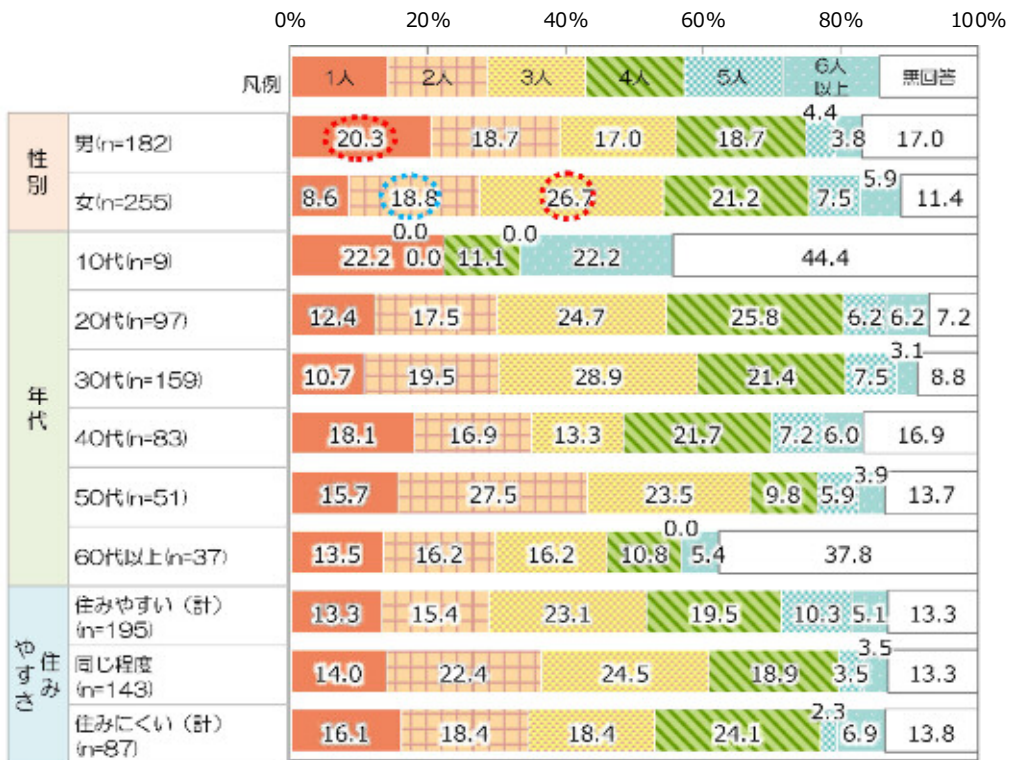
《図表 5-7 家族人数／転入前》 n = 515



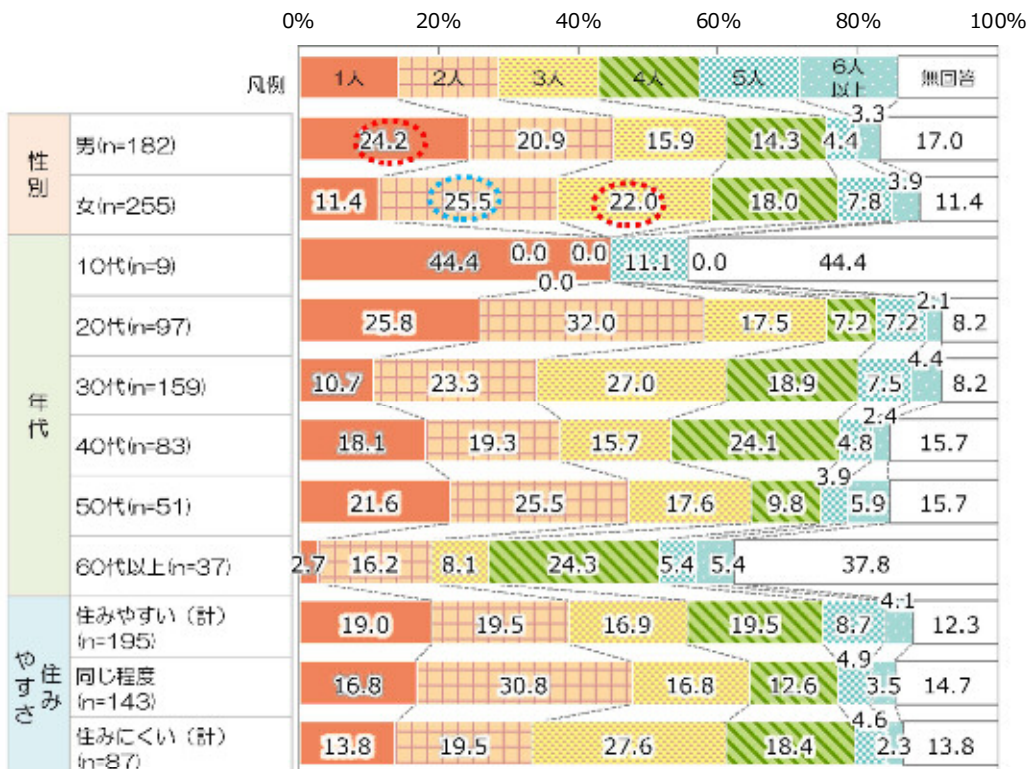
《図表 5-8 家族人数／転入後》 n = 515



《図表 5-9 家族人数／転出前》 n = 438

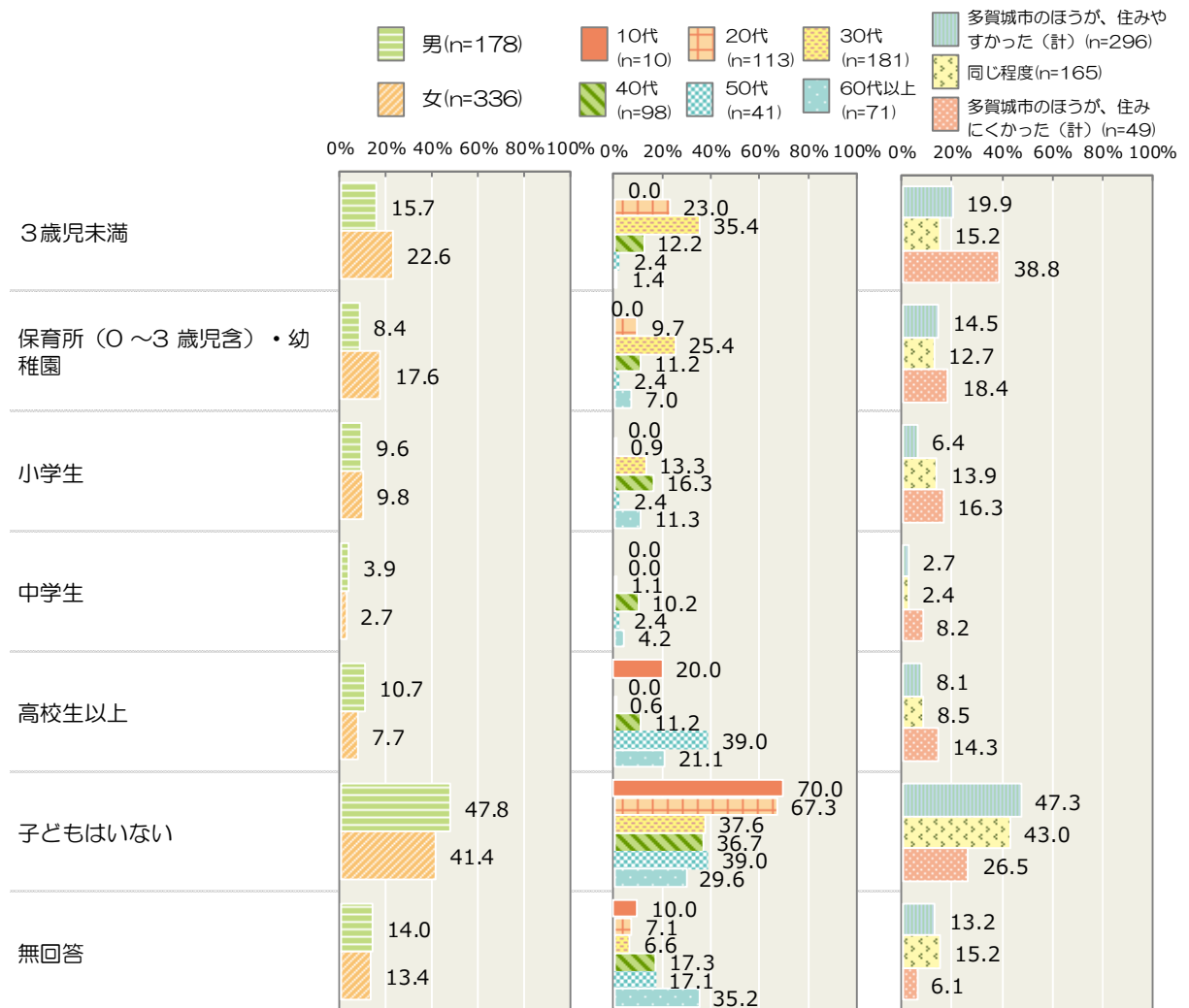


《図表 5-10 家族人数／転出後》 n = 438

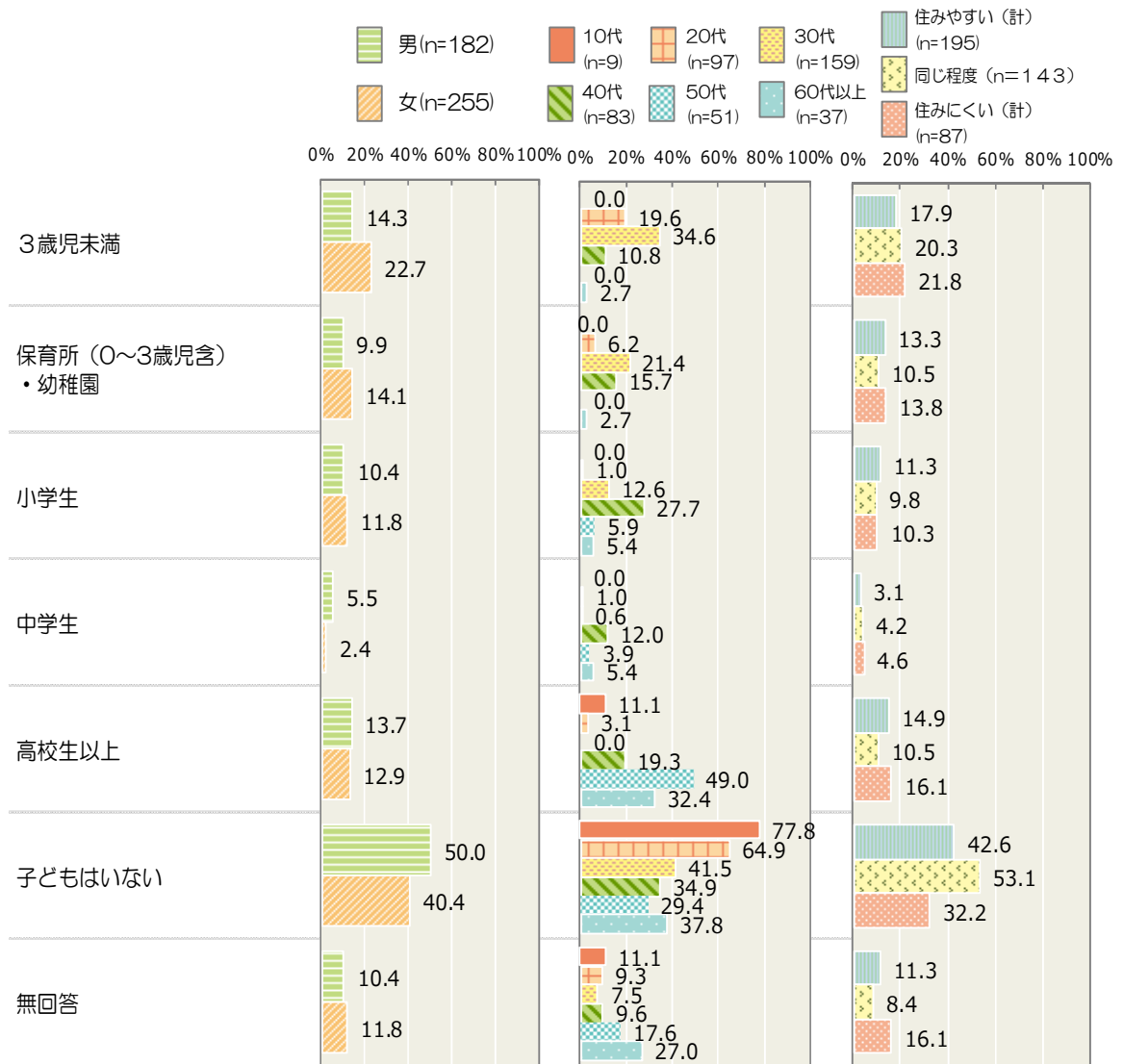


5.1.4 回答者の子ども年齢

《図表 5-11 転入時の子ども年齢》 n = 515



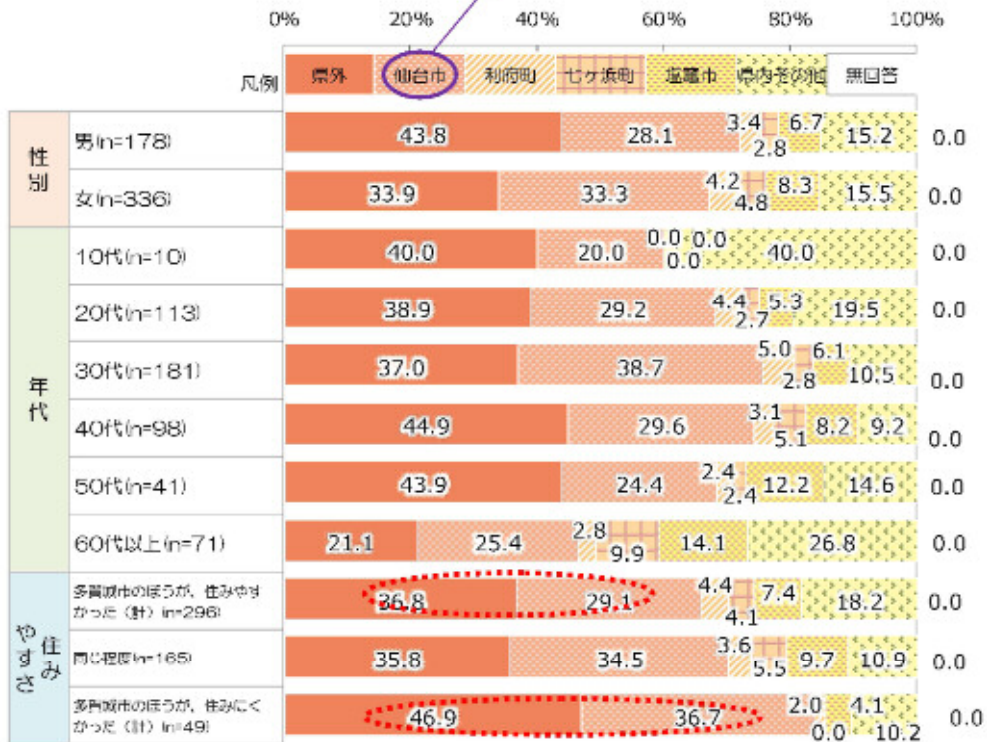
《図表 5-12 転出時の子ども年齢》 n = 438



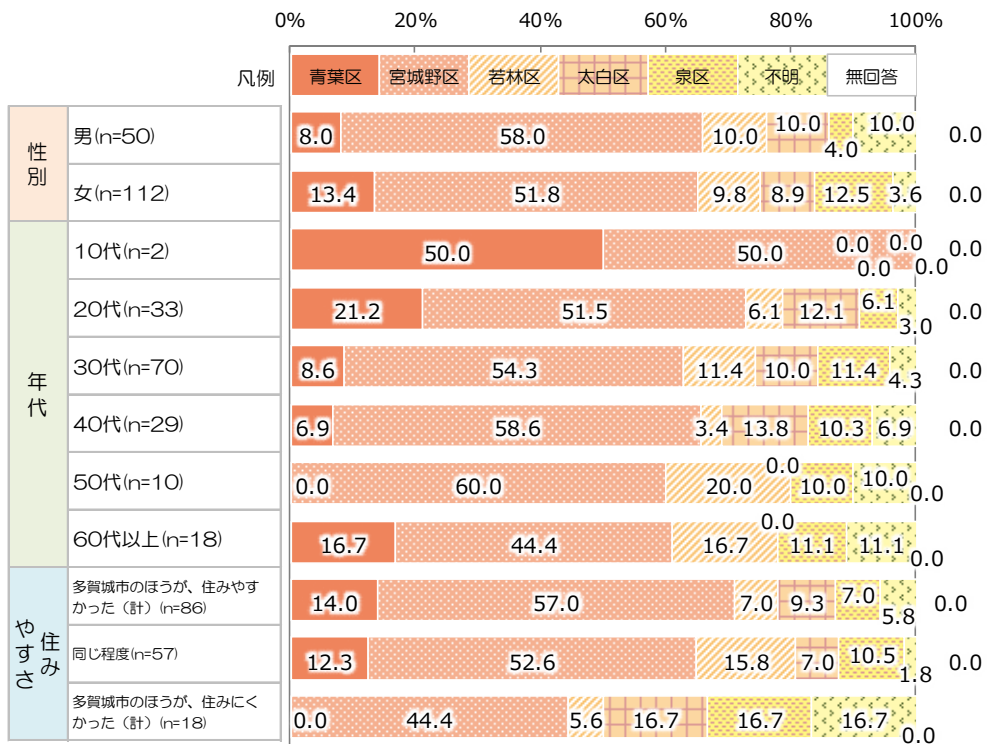
5.2 移動（性別、年代別、住みやすさ別）

5.2.1 転入元

《図表 5-13 地域／転入者》 n=515 * 仙台区別あり、下図参照 (n=162)

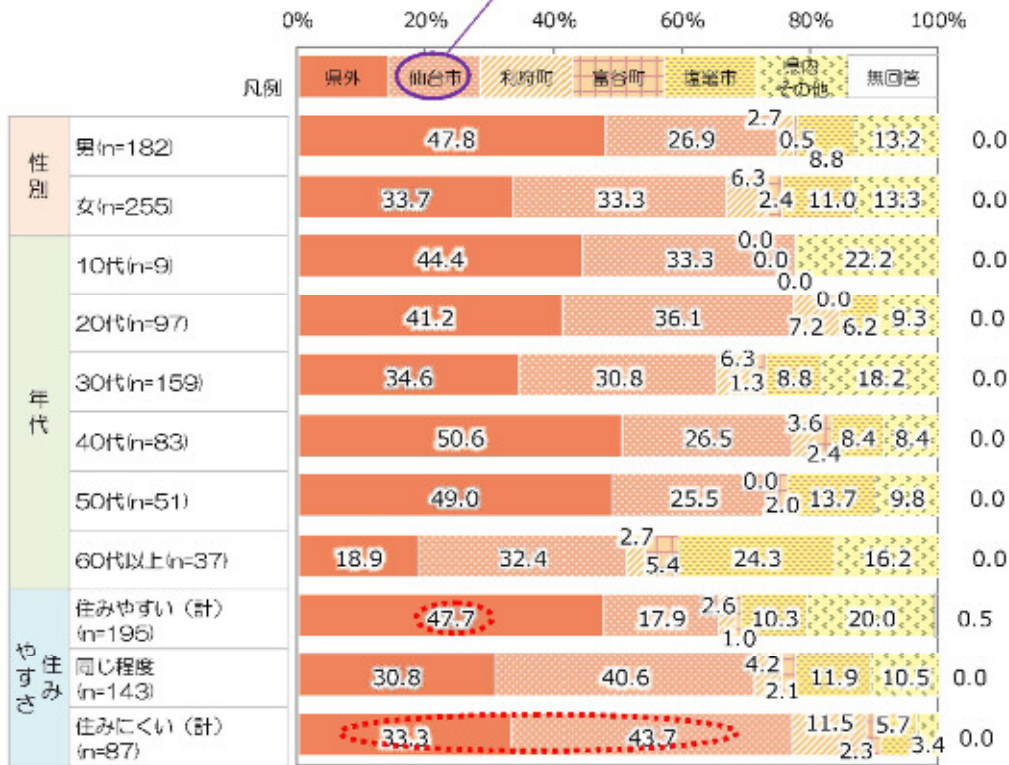


《図表 5-14 仙台区別／転入者》 n=162

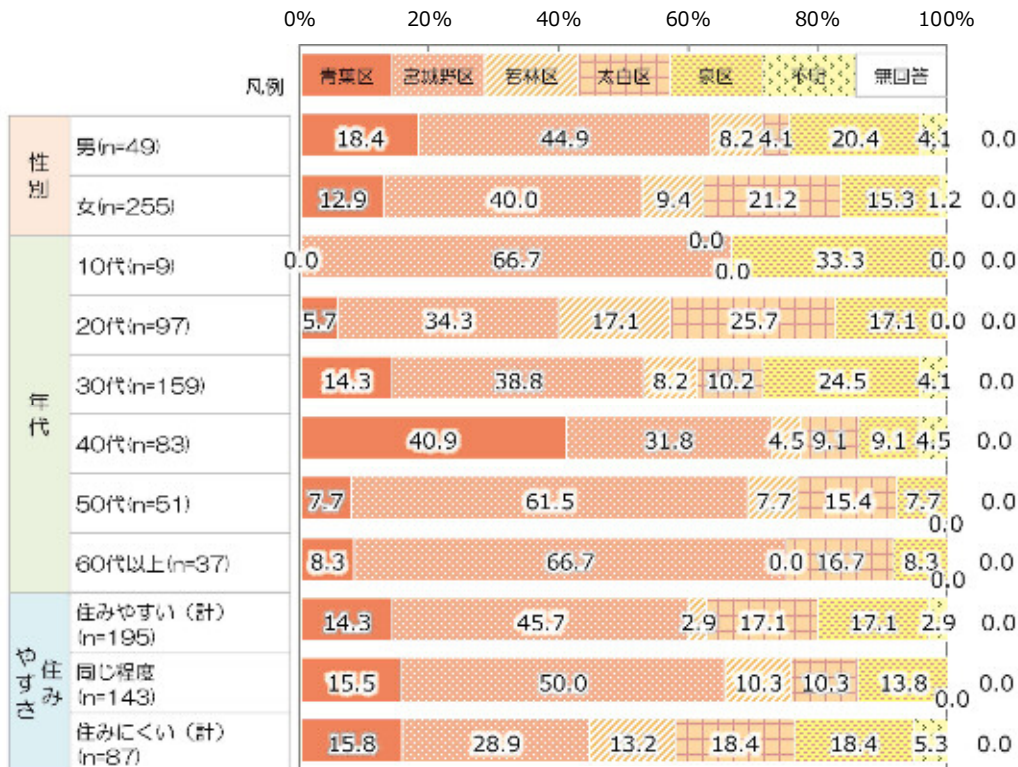


5.2.2 転出先

《図表 5-15 地域／転出者》 n=438 * 仙台区別あり、下図参照 (n=304)



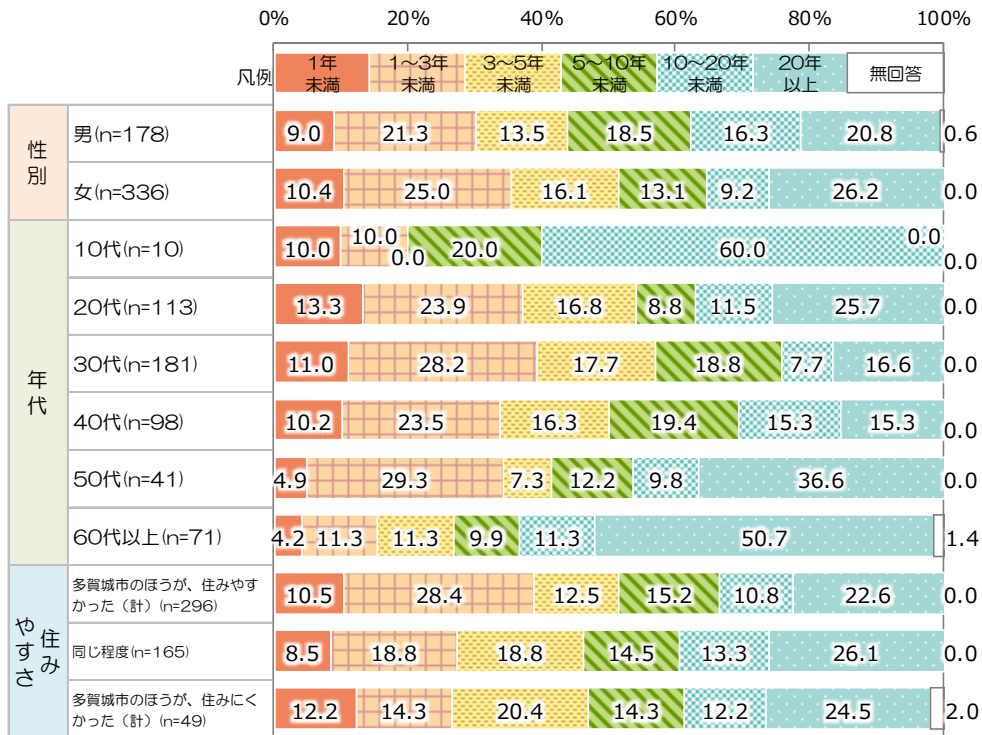
《図表 5-16 仙台区別／転出者》 n=304



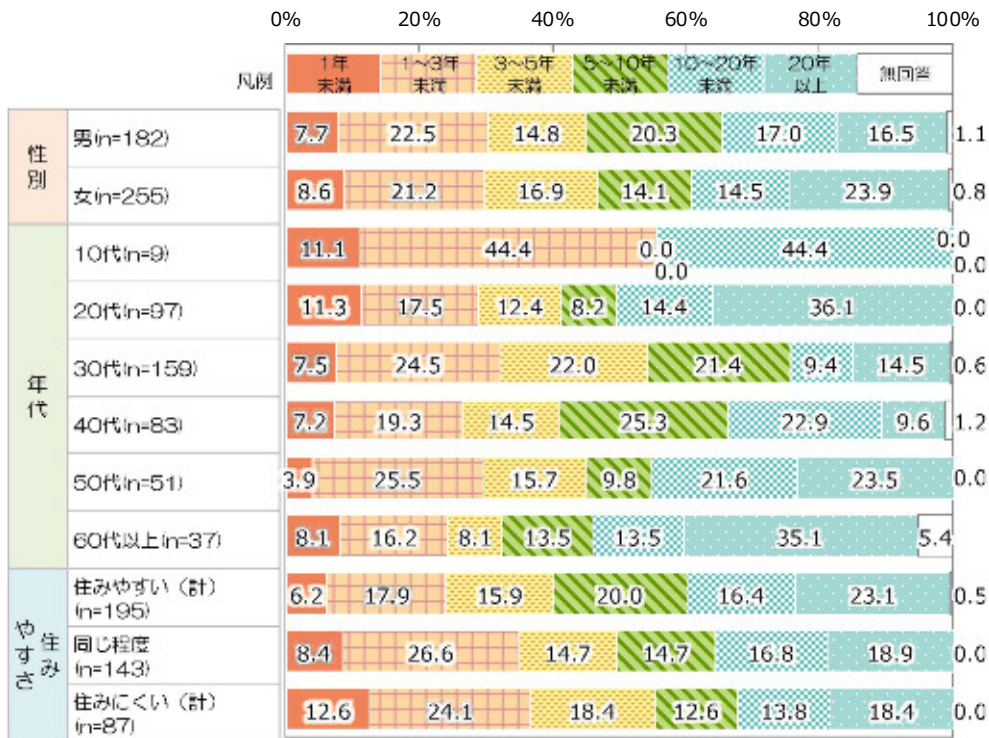
5.3 居住期間と多賀城での居住期間（性別、年代別、住みやすさ別）

5.3.1 居住期間

《図表 5-17 転入者／転入元での居住期間》 n = 515

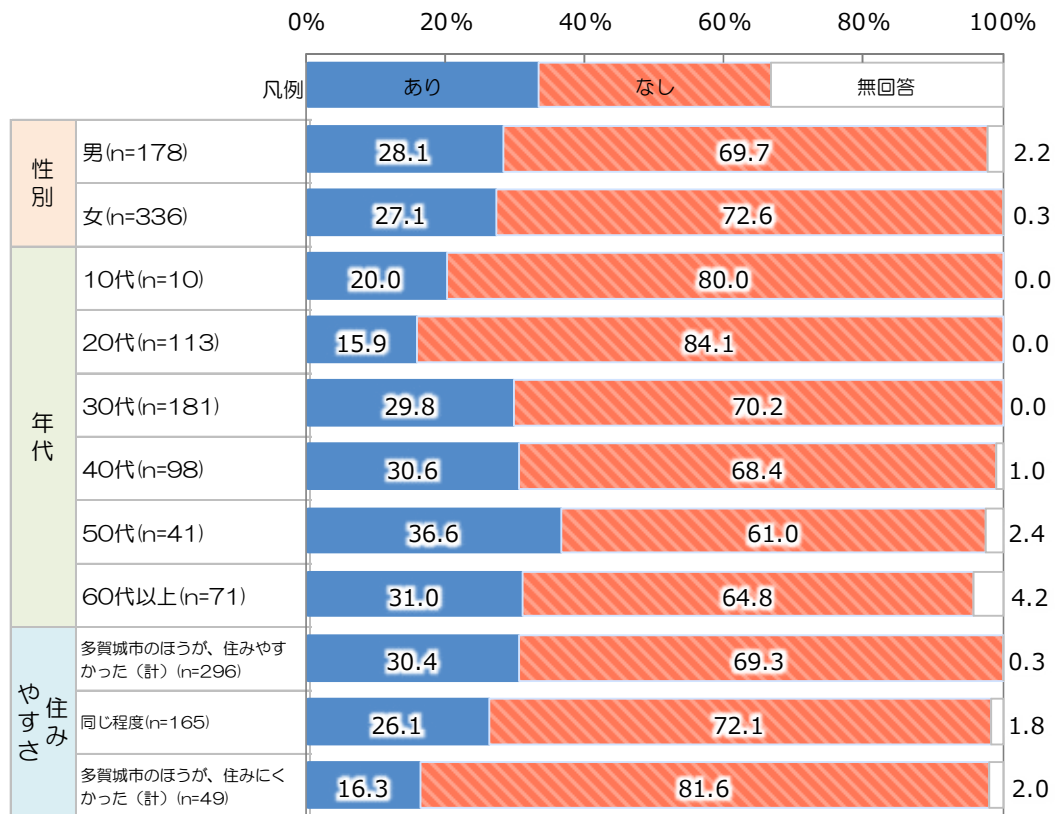


《図表 5-18 転出者／多賀城市での居住期間》 n = 438



5.3.2 居住経験

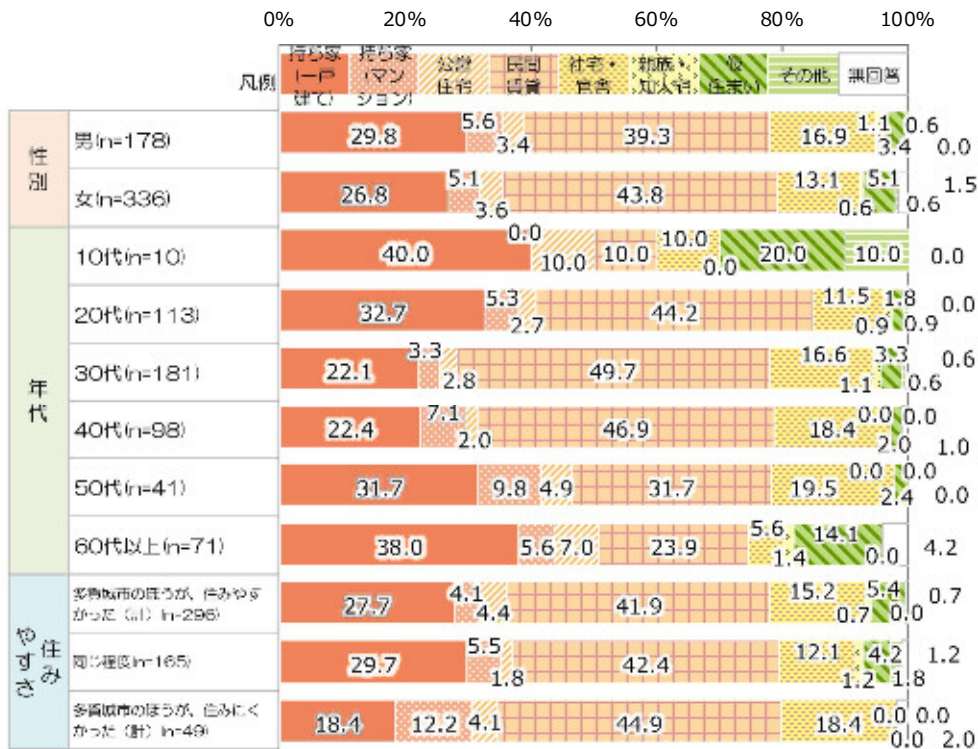
《図表 5-19 転入者／多賀城市での居住経験》 n = 515



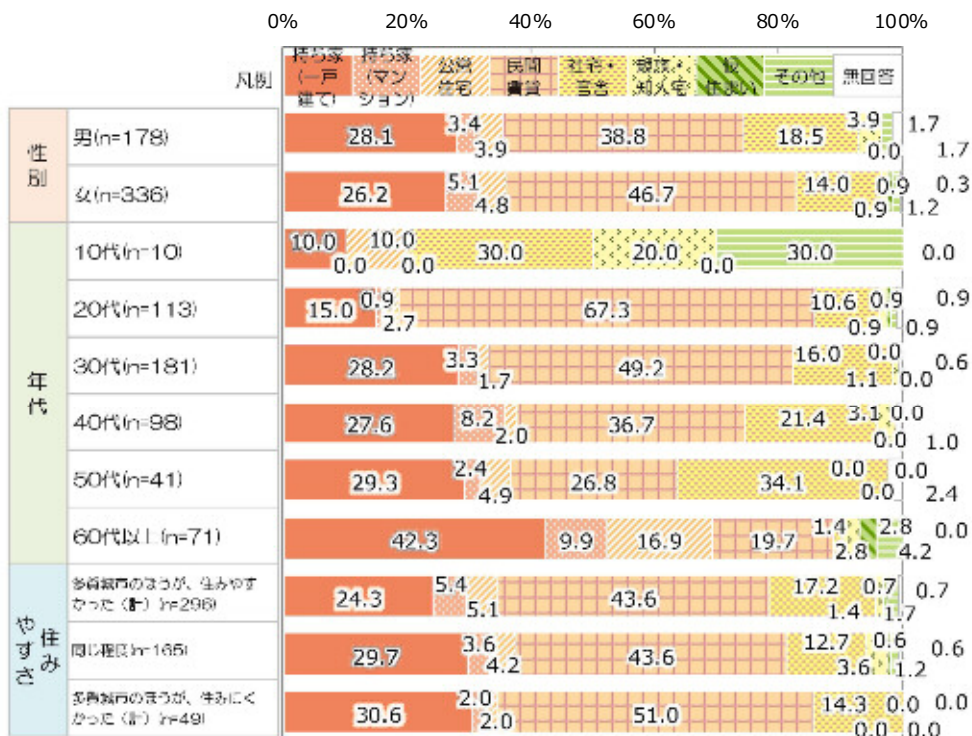
5.4 転居時の住まいの形態と理由（性別、年代別、住みやすさ別）

5.4.1 住まいの形態

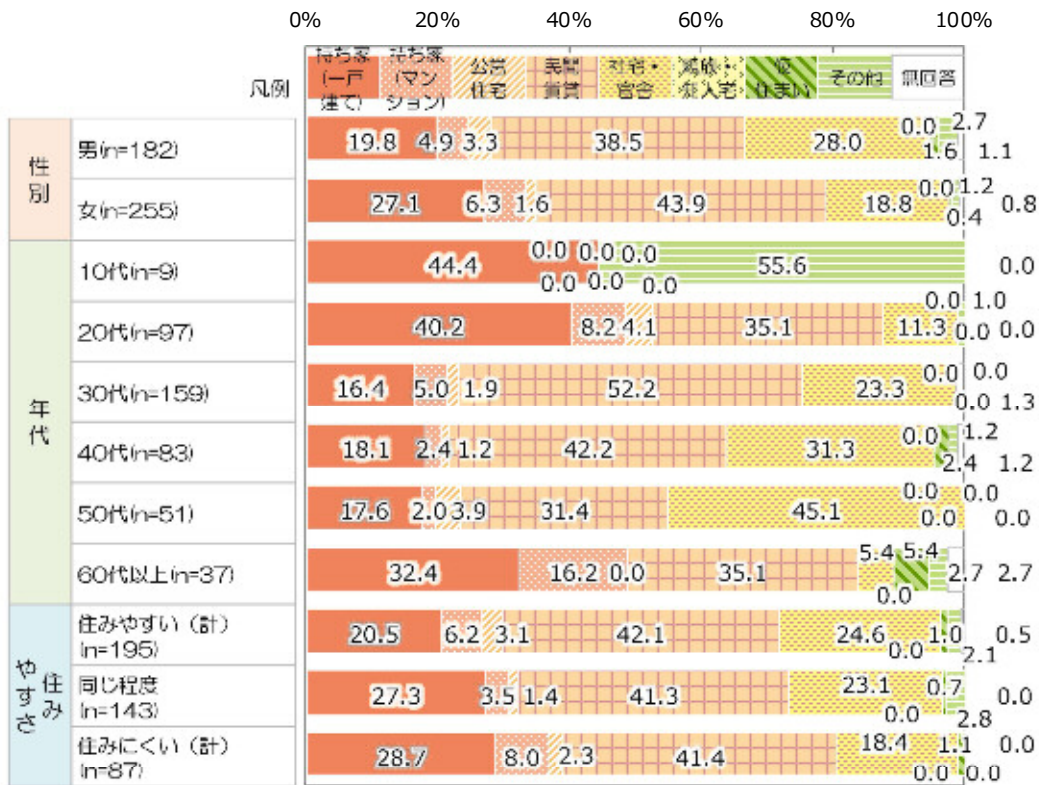
《図表 5-20 転入者／転入前の住まい》 n=515



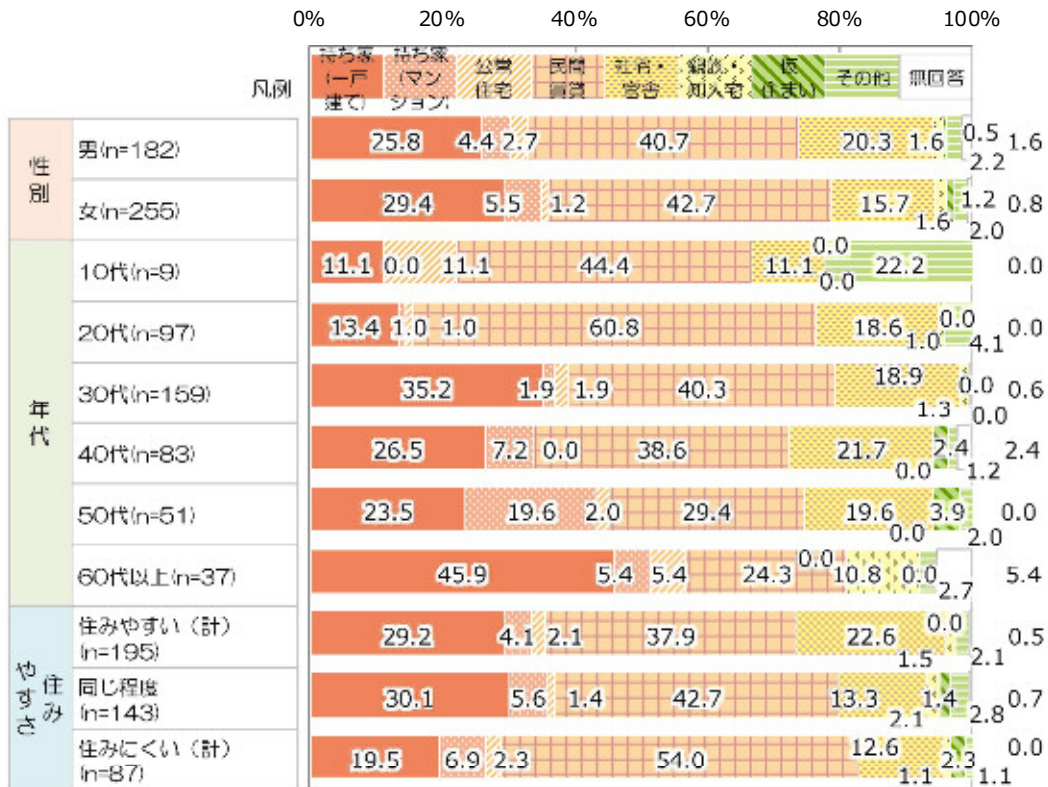
《図表 5-21 転入者／転入後の多賀城市での住まい》 n=515



《図表 5-22 転出者／多賀城市での住まい》 n=438

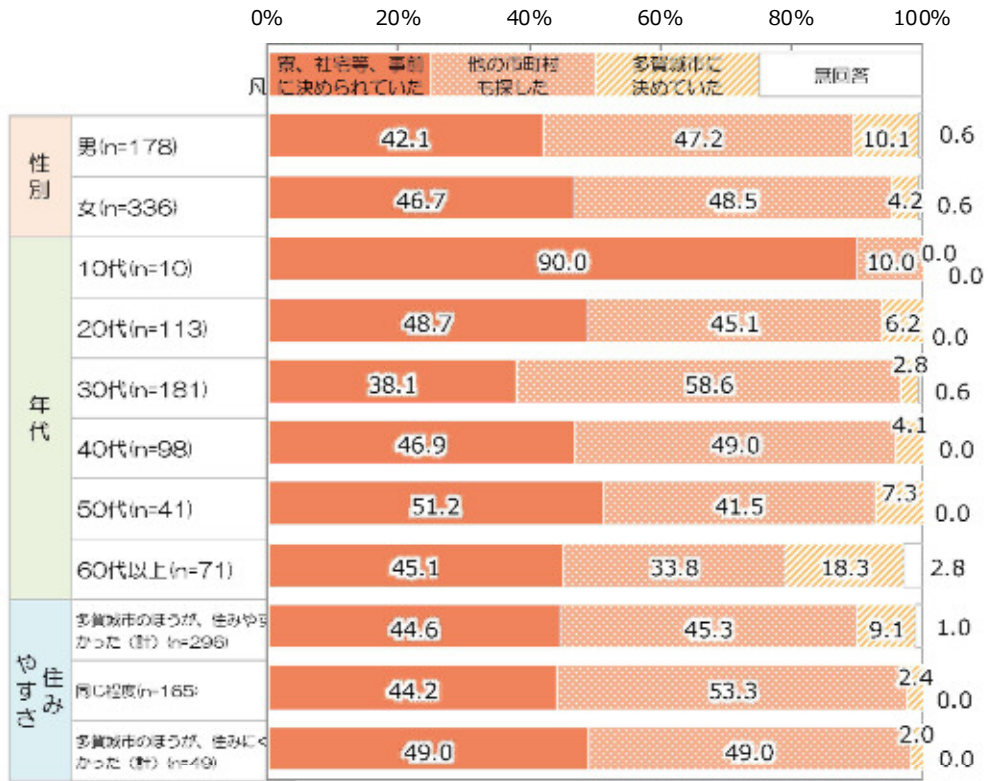


《図表 5-23 転出者／転出先での住まい》 n=438

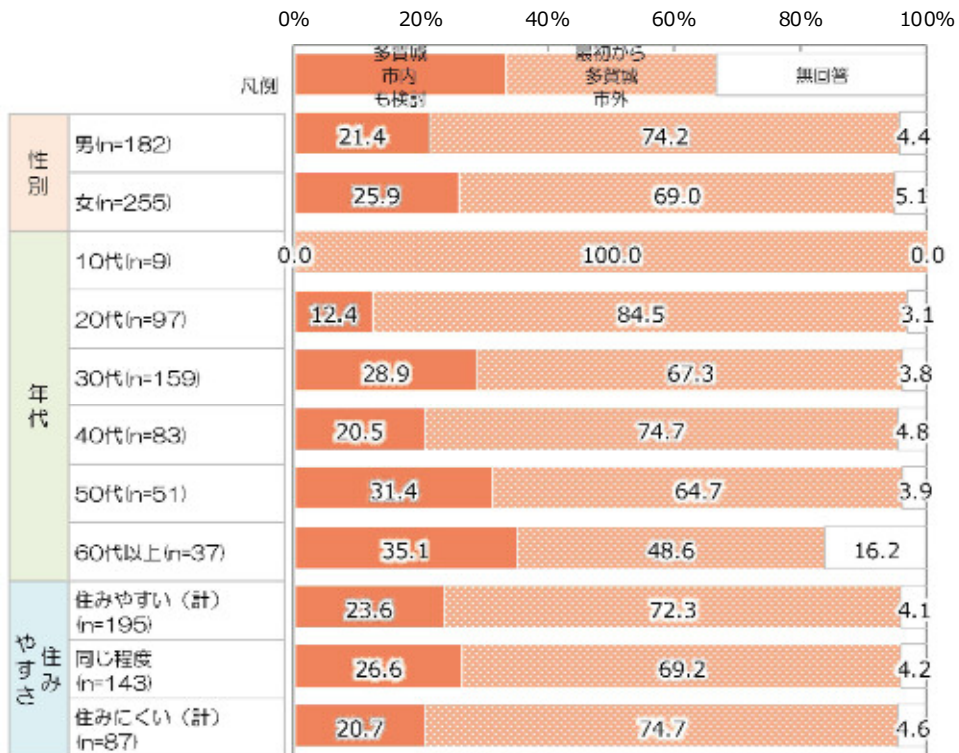


5.4.2 移転の理由

《図表 5-24 転入者／他の市町村の検討》 n = 515

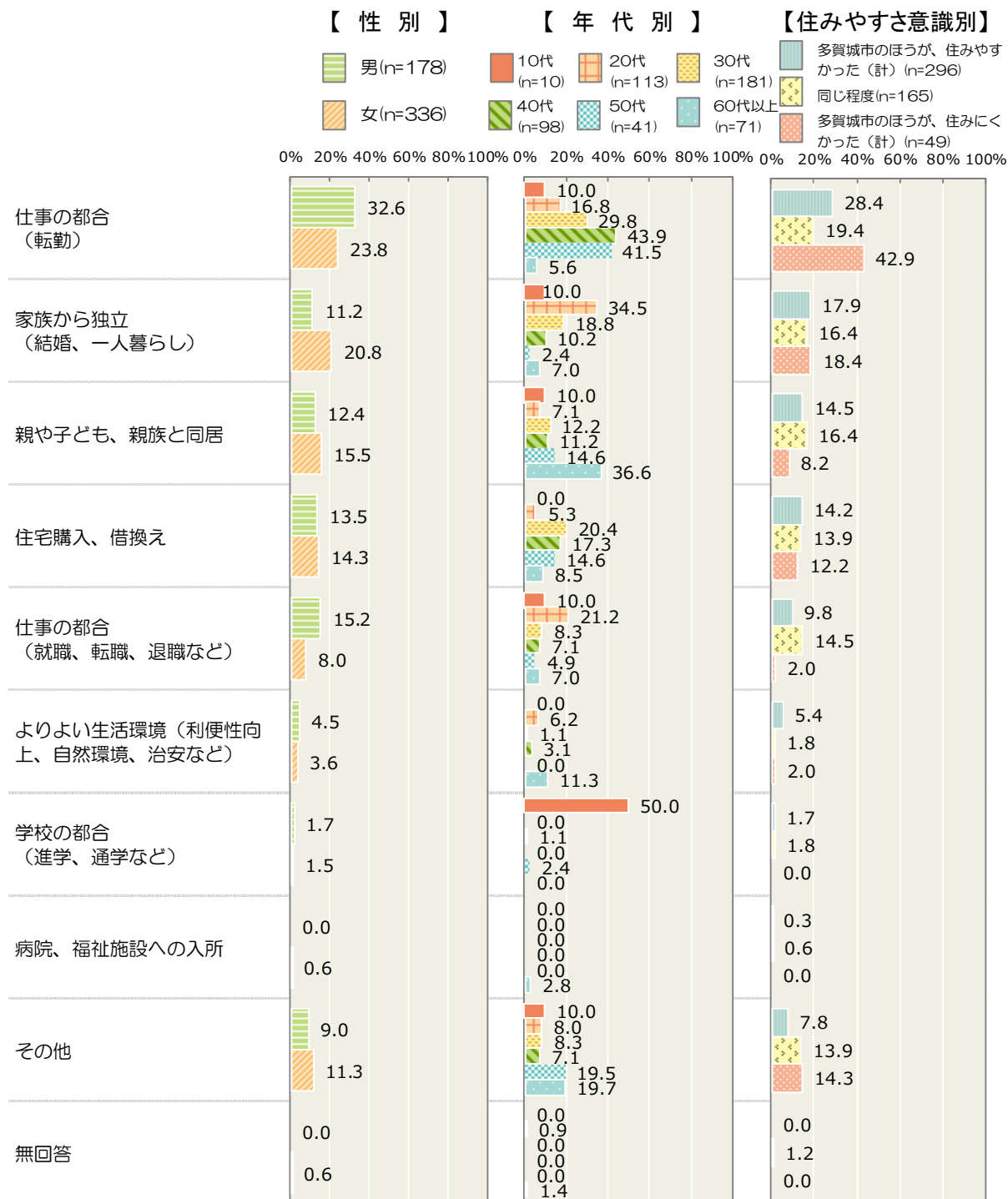


《図表 5-25 転出者／多賀城市の検討》 n = 438

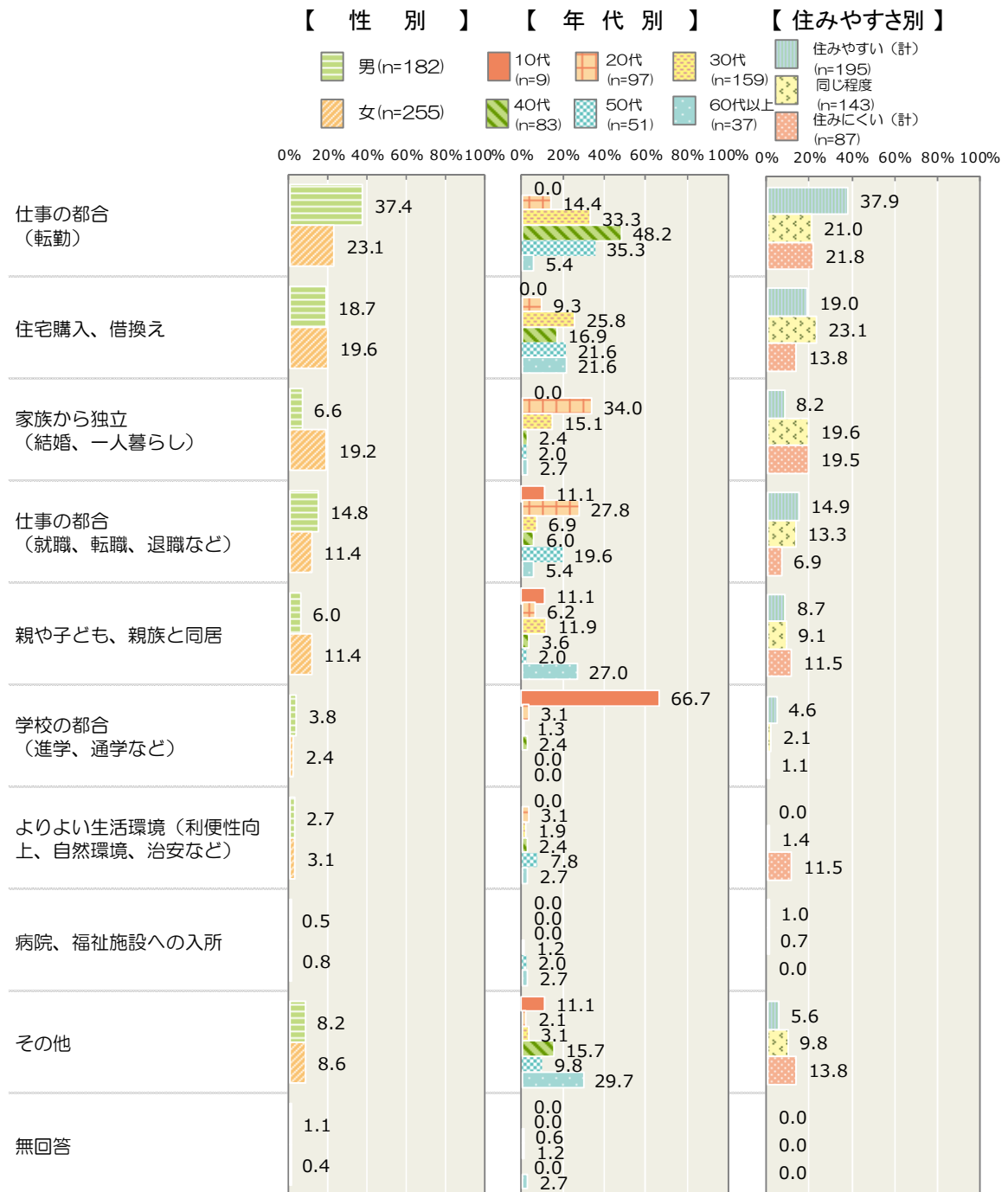


5.4.3 移転の理由

《図表 5-26 転入者／転入理由》 n = 515

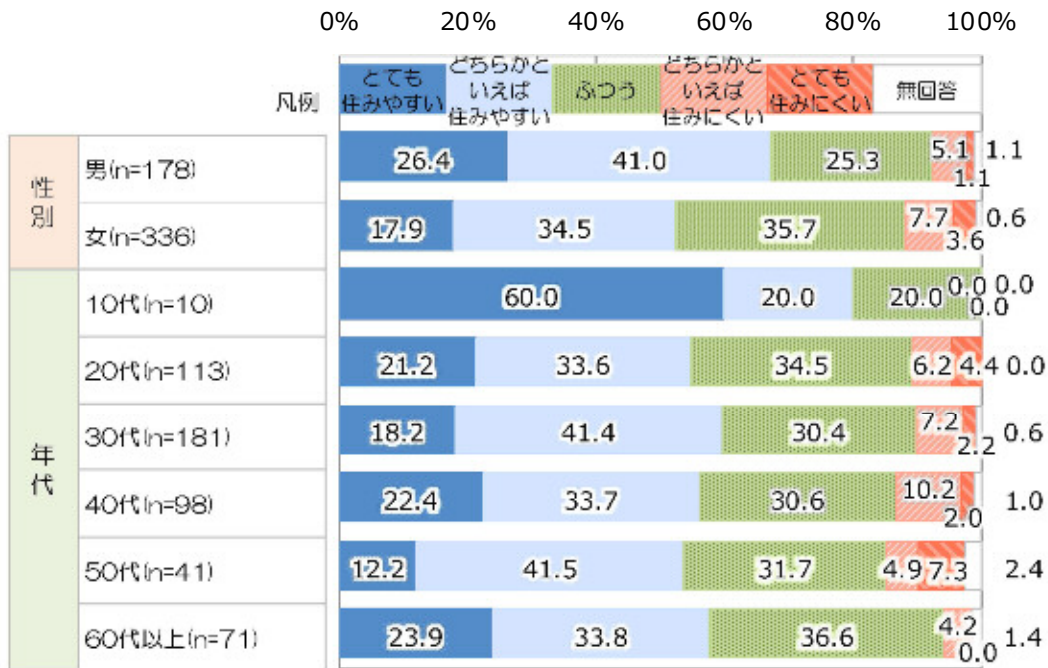


《図表 5-27 転出者／転出理由》 n=438

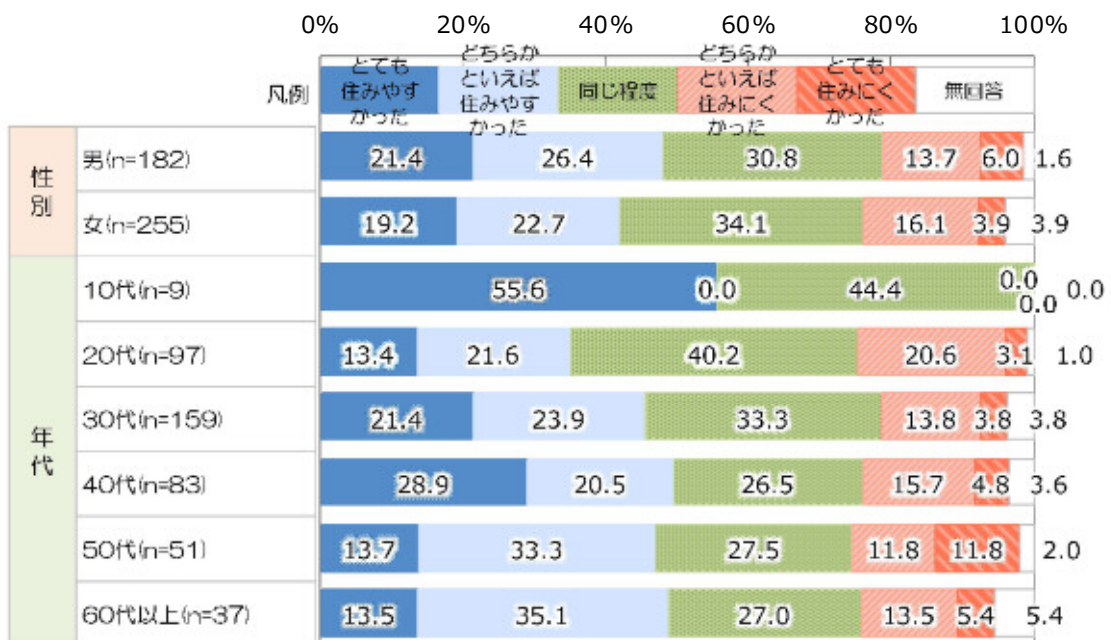


5.5 多賀城市と他市との住みやすさ比較（性別、年代別）

《図表 5-28 転入者／多賀城市の住みやすさ（転入元との比較）》 n = 515

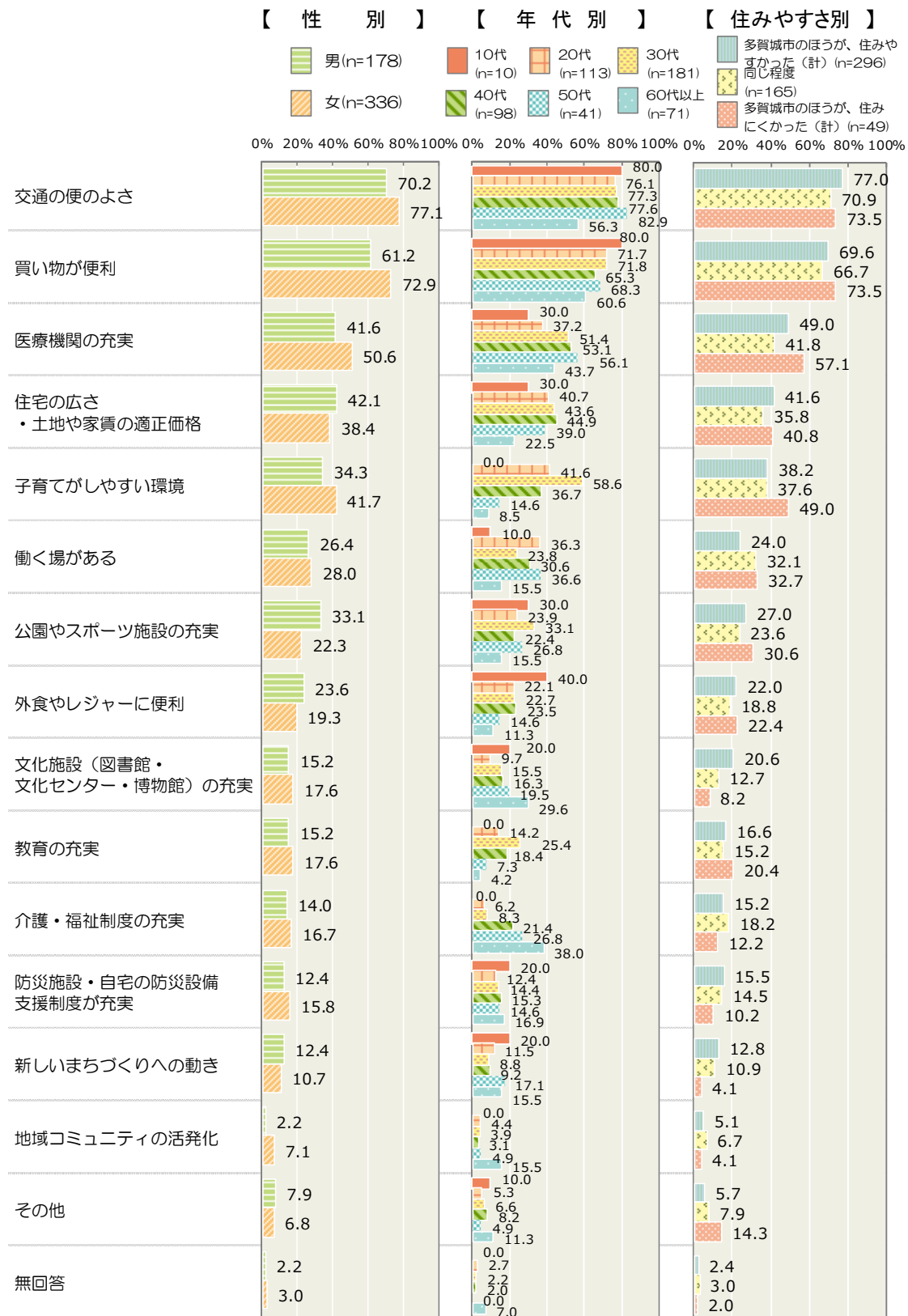


《図表 5-29 転出者／多賀城市の住みやすさ（現在の住まいとの比較）》 n = 438



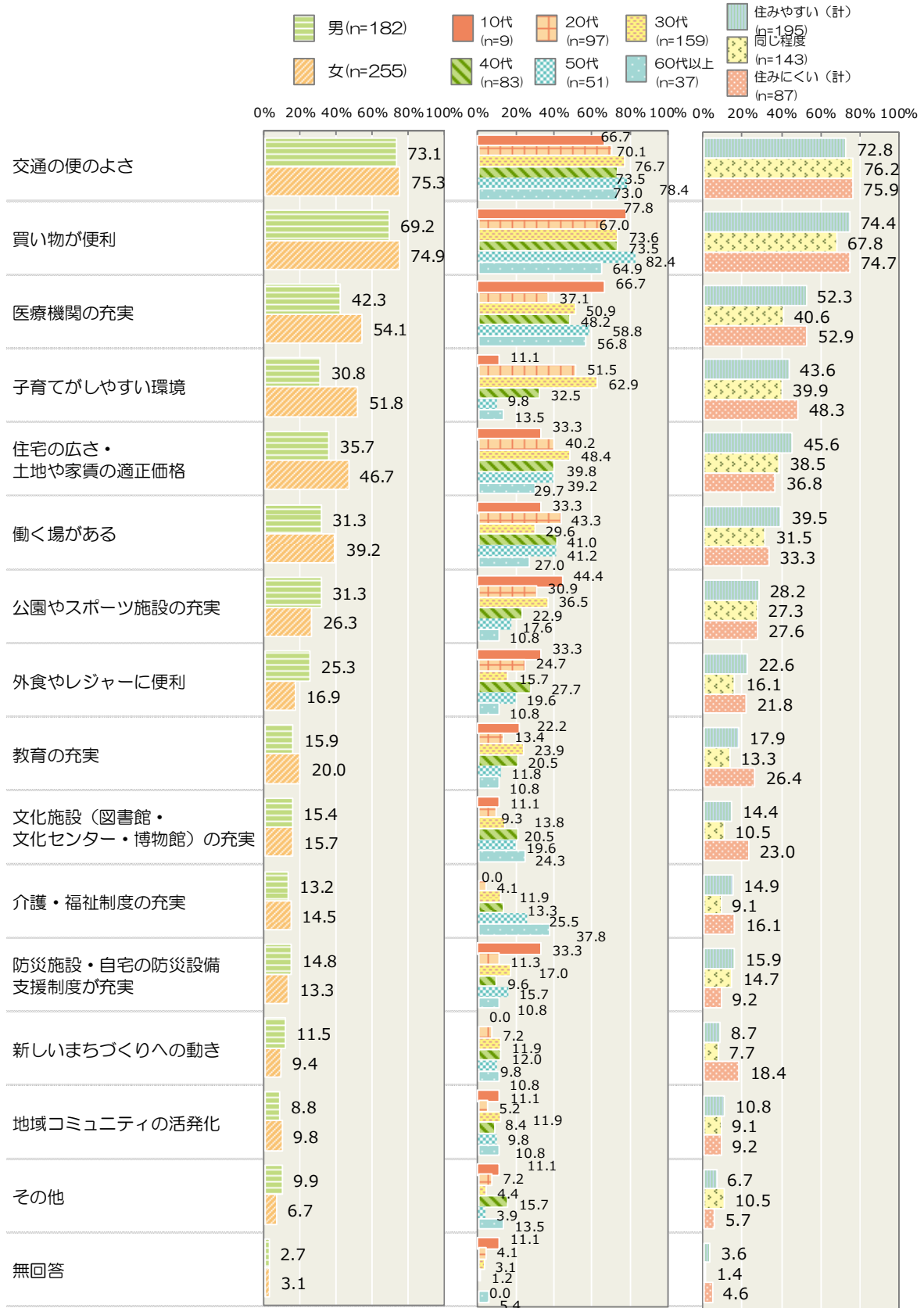
5.6 居住地決定の際の重視点（性別、年代別、住みやすさ別）

【図表 5-30 転入者／居住地決定の際の重視点】 n = 515



《図表 5-31 転出者／居住地決定の際の重視点》 n=438

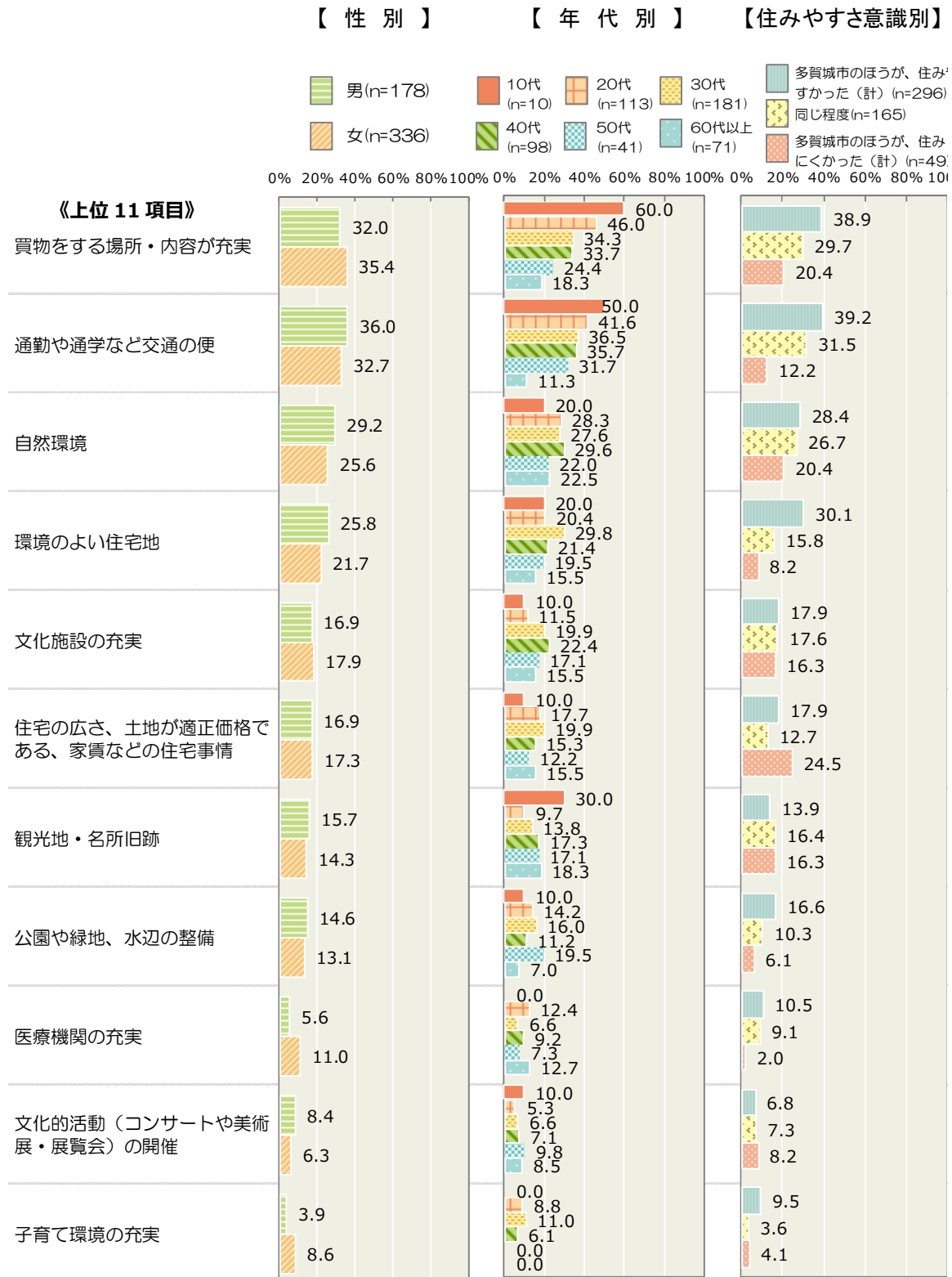
【 性別 】 【 年代別 】 【 住みやすさ別 】



5.7 多賀城市の魅力、よい点・悪い点

5.7.1 転入者が考える魅力（性別、年代別、住みやすさ別）

《図表 5-32 転入者／多賀城市の“魅力ある”点》 n=515 （複数回答）



➡ 下位順位へ
つづく

【性別】

【年代別】

【住みやすさ意識別】

男(n=178)
女(n=336)

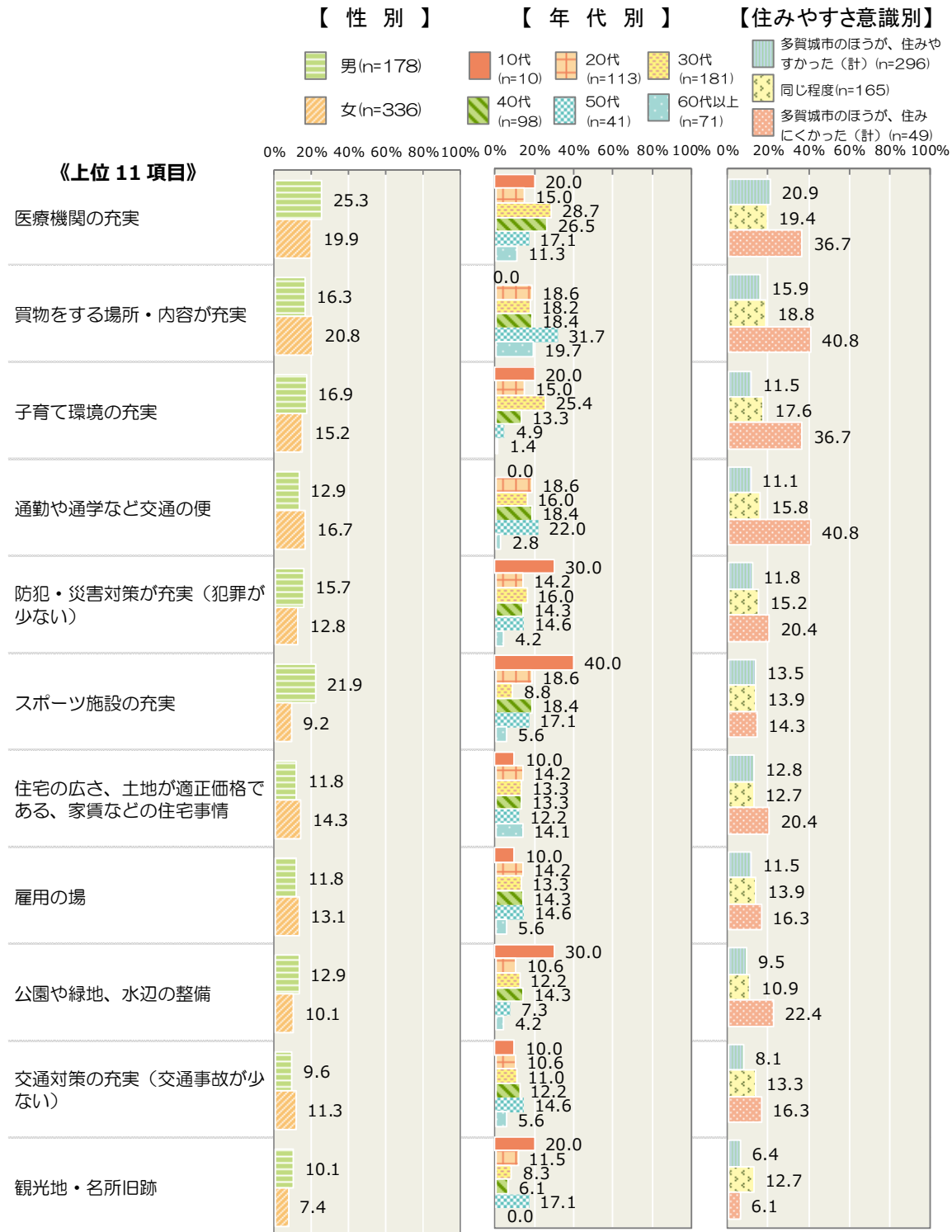
10代(n=10) 20代(n=113) 30代(n=181)
40代(n=98) 50代(n=41) 60代以上(n=71)

多賀城市のほうが、住みやすかった(計)(n=296)
同じ程度(n=165)
多賀城市のほうが、住みにくかった(計)(n=49)

《下位 11 項目》



《図表 5-33 転入者／多賀城市の“魅力でない”点》 n=515 (複数回答)



➡ 下位順位へ
つづく

【性別】

【年代別】

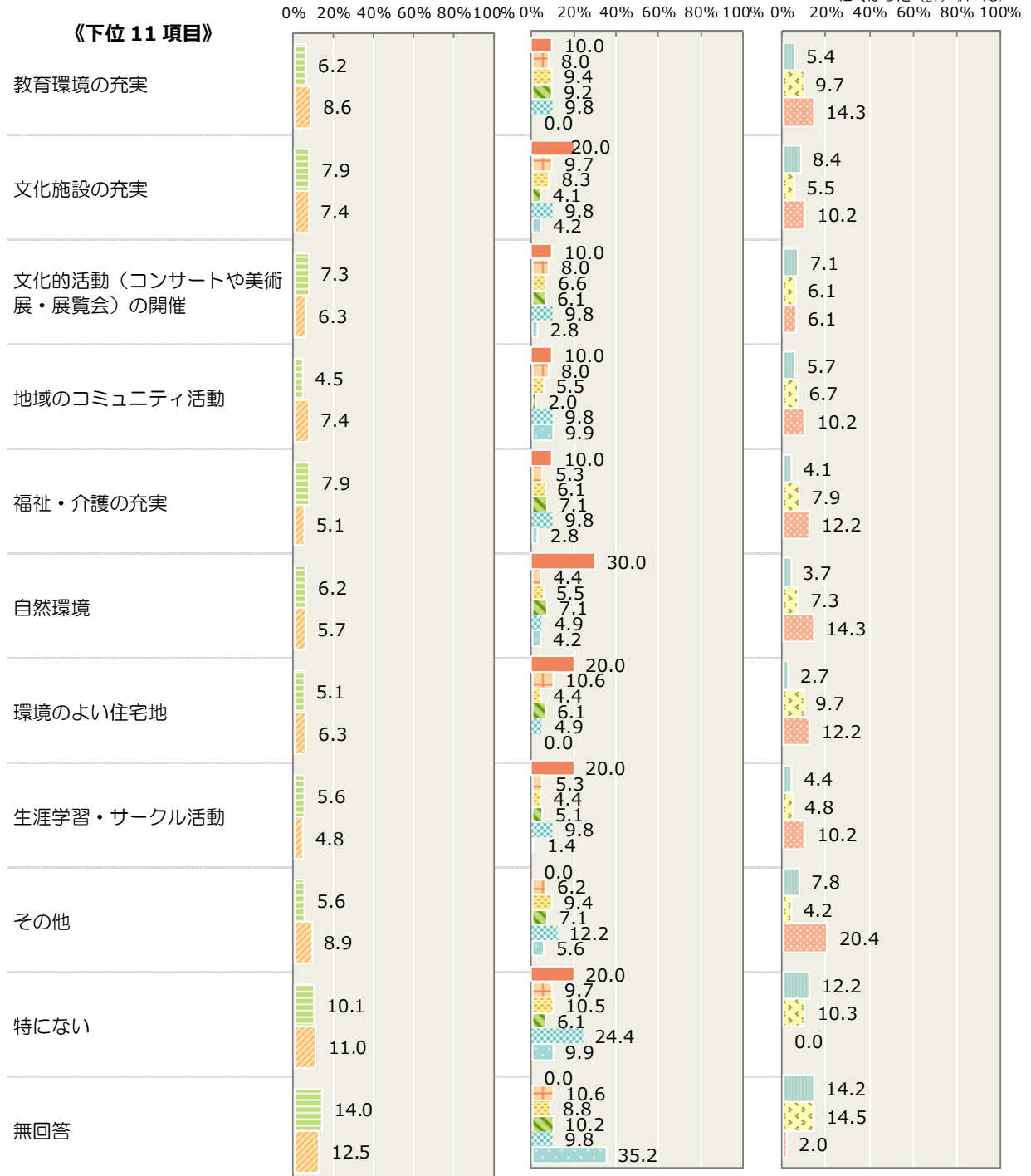
【住みやすさ意識別】

男(n=178)
女(n=336)

10代(n=10) 20代(n=113) 30代(n=181)
40代(n=98) 50代(n=41) 60代以上(n=71)

多賀城市のほうが、住みやすかった(計)(n=296)
同じ程度(n=165)
多賀城市のほうが、住みにくかった(計)(n=49)

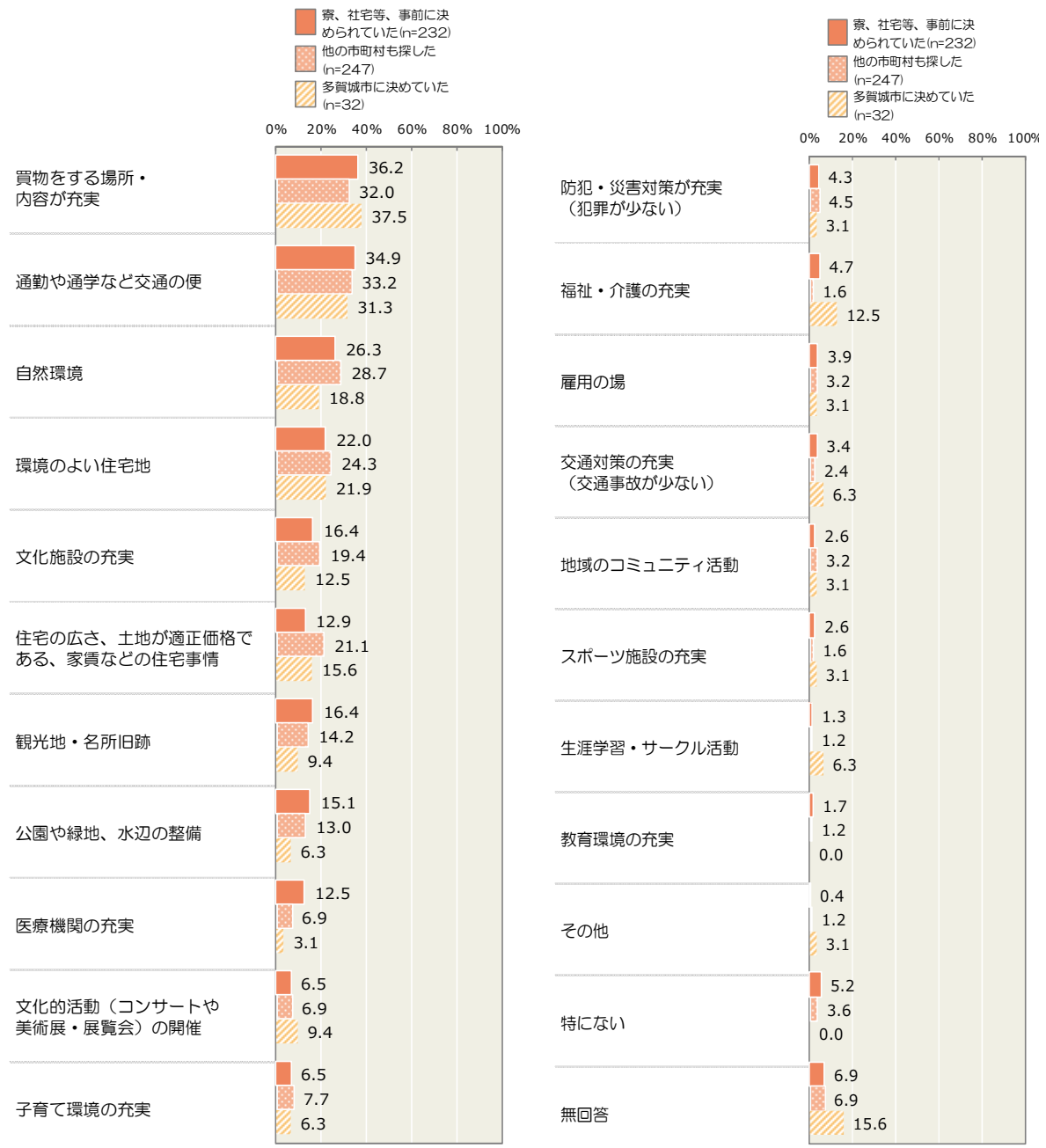
《下位 11 項目》



5.7.2 転入者が考える魅力（他市検討者別）

《図表 5-34 転入者／多賀城市の魅力ある点》

n = 515（複数回答）



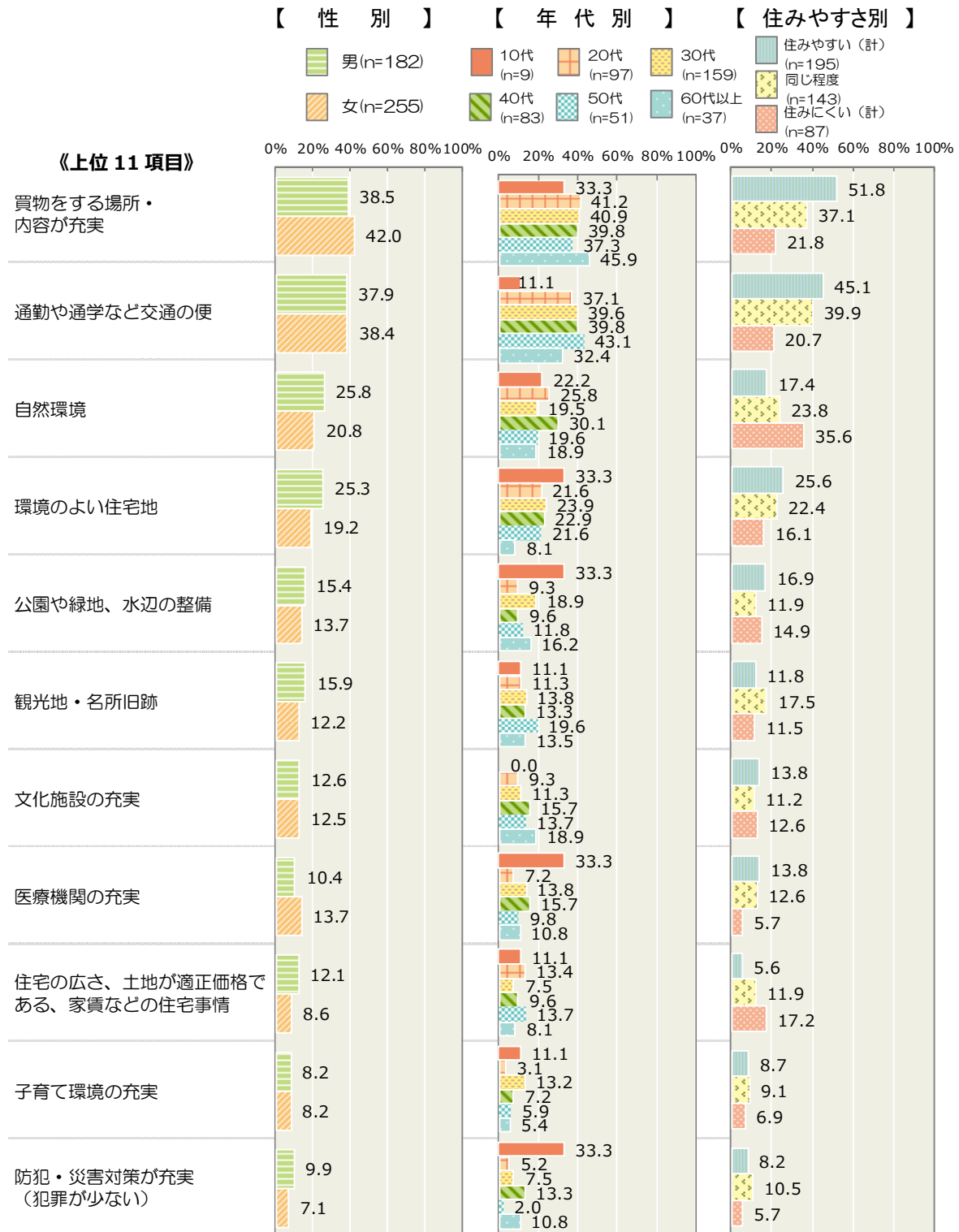
《図表 5-35 転入者／多賀城市の魅力でない点》

n = 515 (複数回答)



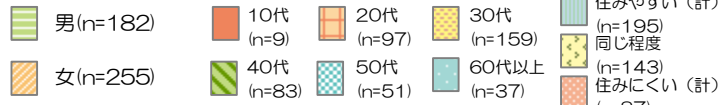
5.7.3 転出者が指摘するよい点、わるい点（性別、年代別、住みやすさ別）

《図表 5-36 転出者／多賀城市の“よい点”》 n=438 （複数回答）



⇨ 下位順位へ
つづく

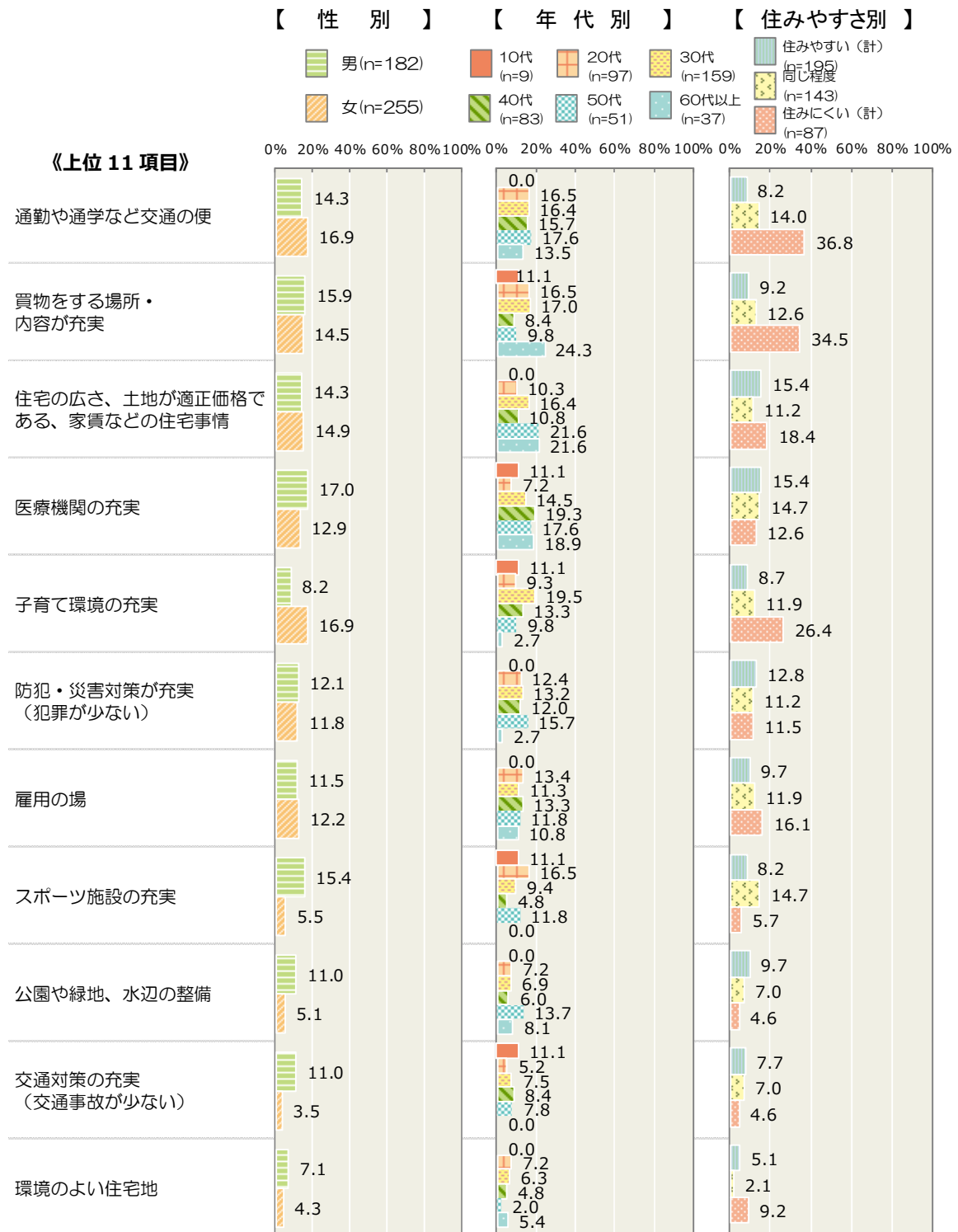
【 性別 】 【 年代別 】 【 住みやすさ別 】



《下位 11 項目》

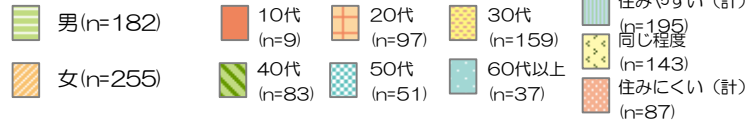


《図表 5-37 転出者／多賀城市の“わるい点”》 n=438 (複数回答)

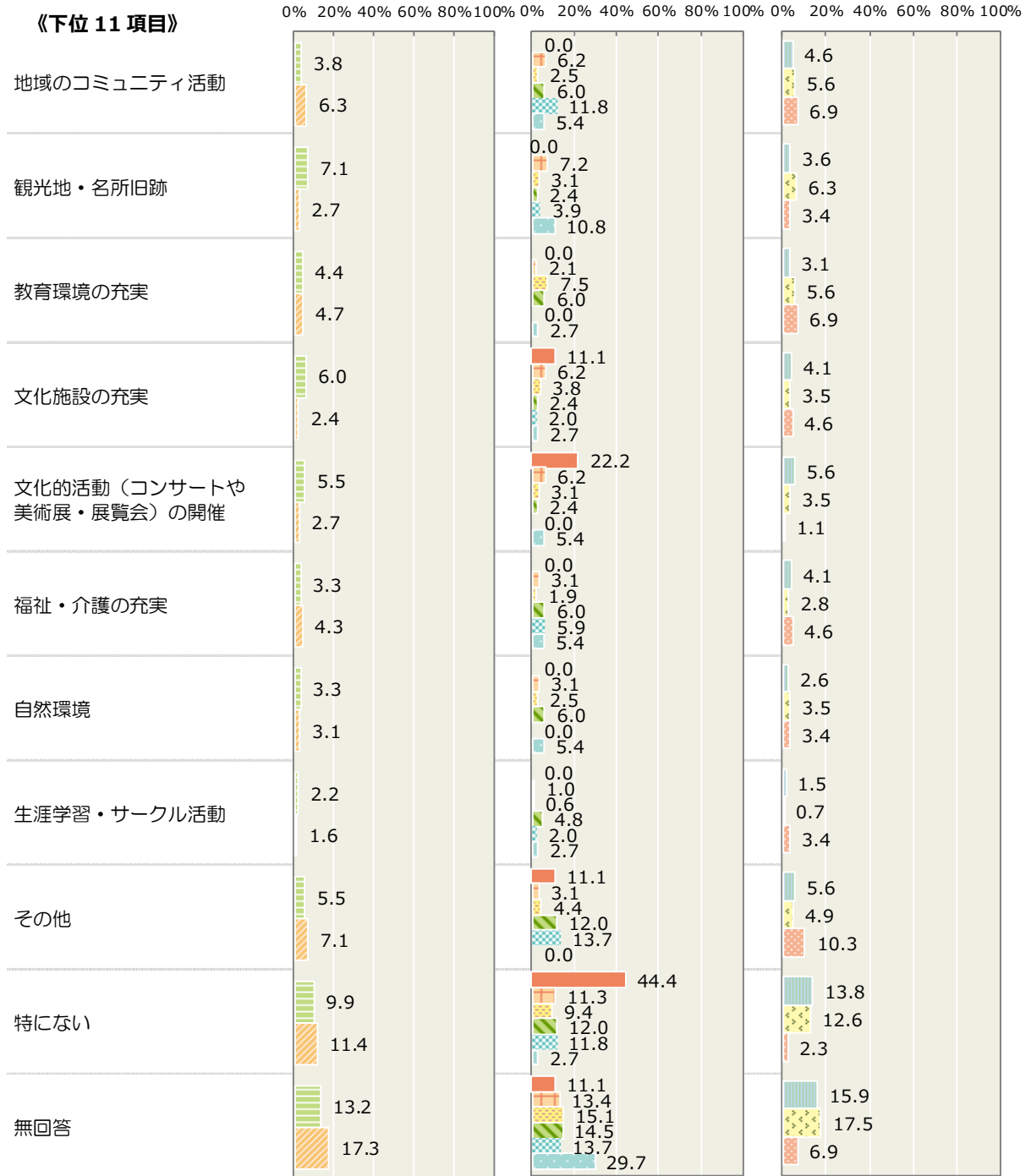


⇒ 下位順位へ
つづく

【 性別 】 【 年代別 】 【 住みやすさ別 】

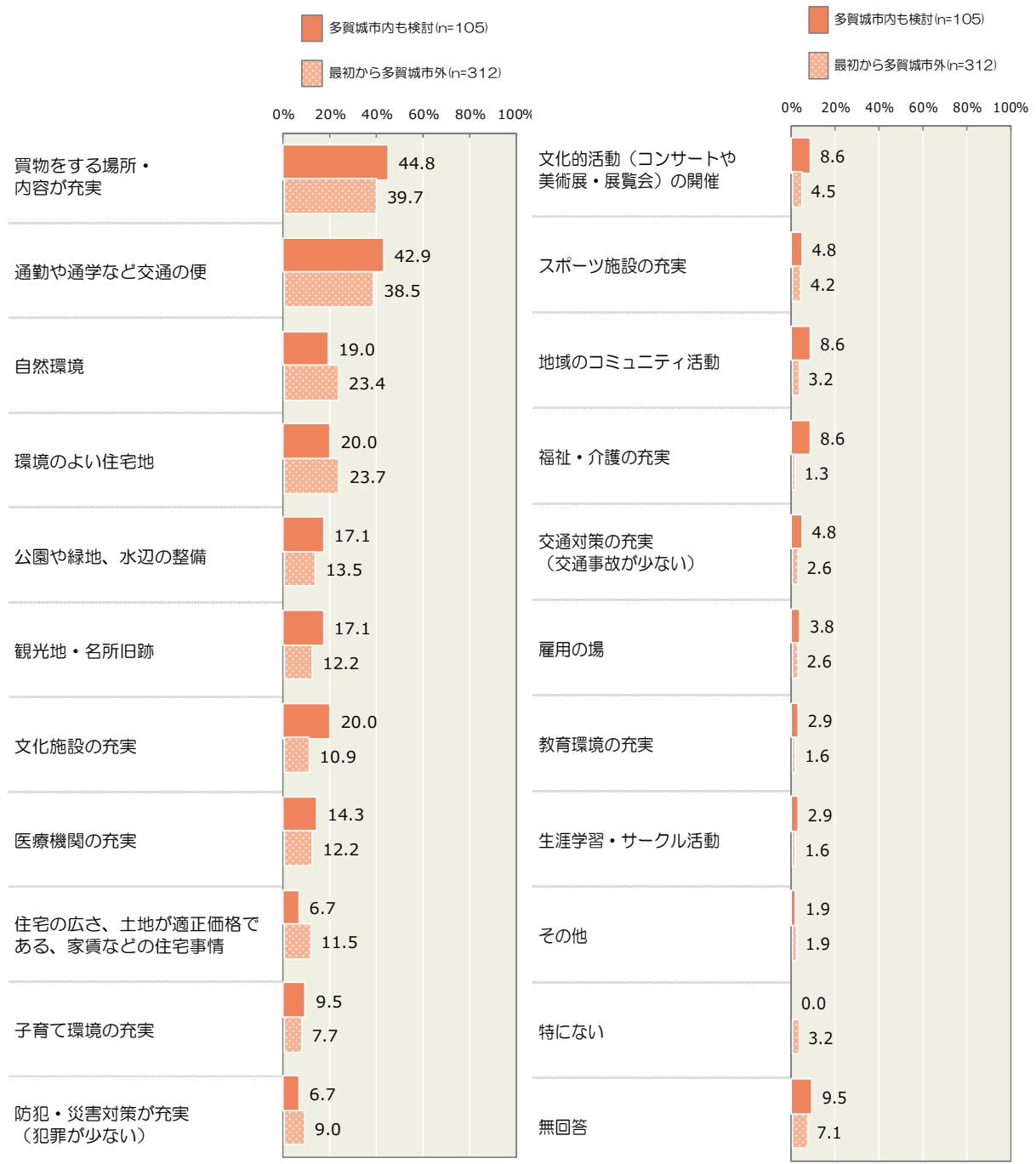


《下位 11 項目》

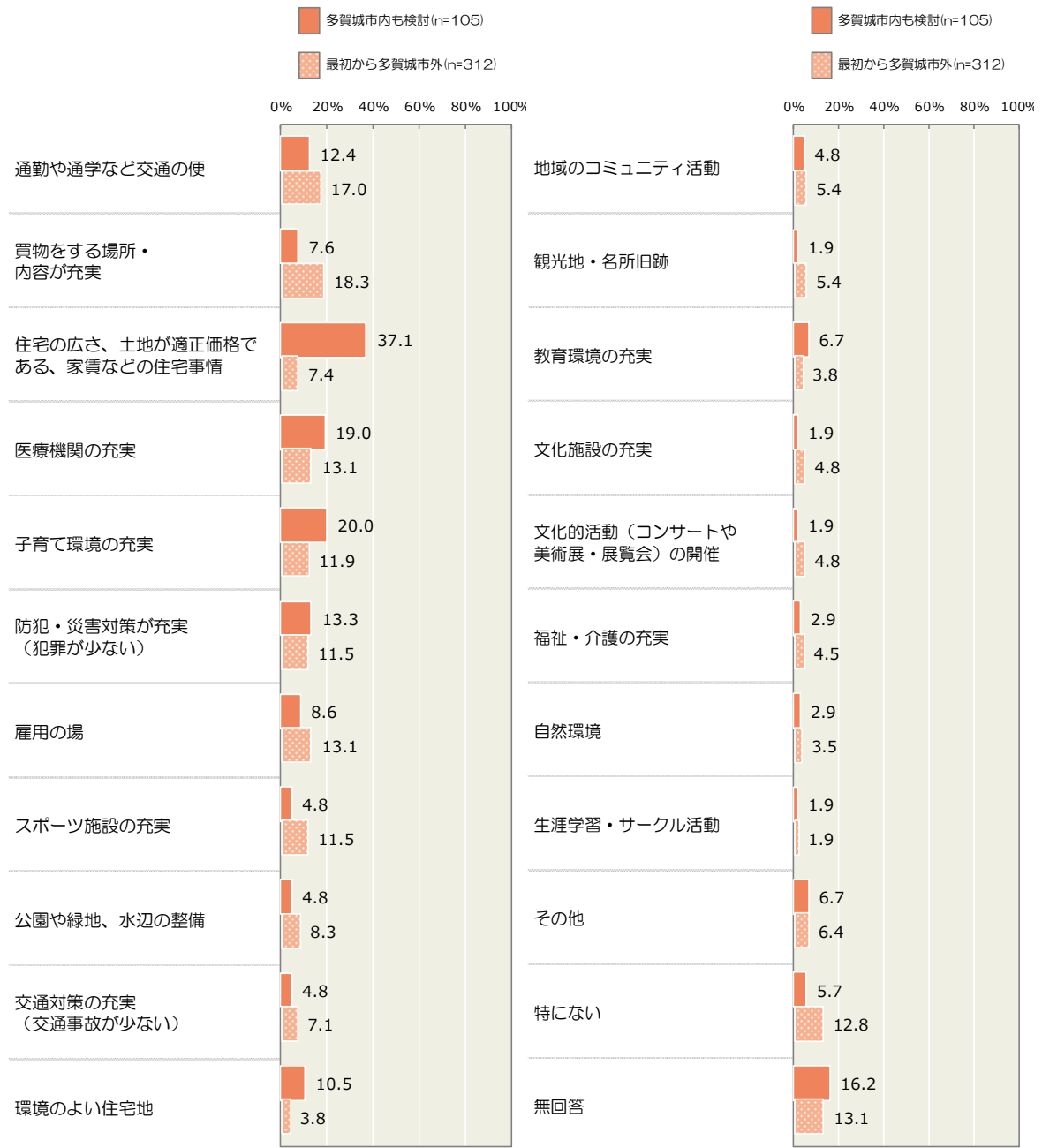


5.7.4 転出者が指摘する多賀城市の評価（他市検討者別）

《図表 5-38 多賀城市のよい点》 n = 438（複数回答）



《図表 5-39 多賀城市のわるい点》 n = 438 (複数回答)



5.7.5 地域別転入者、転出者の割合

《図表 5-40 地域別にみる転入者、転出者の割合》

(%)

		転入元	転出先	差 (転入元-転出先)	
回答者数 (人)		515	438	438	
県外	合計	37.3	39.5	-2.2	
	東北地方	15.9	15.3	0.6	
	関東地方	11.8	15.5	-3.7	
	その他	7.6	6.8	0.8	
	不明	1.9	1.8	0.1	
県内	合計	62.6	60.2	2.4	
	仙台市	合計	31.5	30.6	0.9
		青葉区	3.7	4.6	-0.9
		宮城野区	16.9	12.8	4.1
		若林区	3.1	2.7	0.4
		太白区	2.9	4.6	-1.7
		泉区	3.1	5.3	-2.2
		不明	1.7	0.7	1.0
		仙台市以外	合計	31.1	29.6
	利府町		3.9	4.8	-0.9
	富谷町		0.2	1.6	-1.4
	塩竈市		7.8	10.0	-2.2
	七ヶ浜町		4.1	1.4	2.7
	松島町		0.8	0.2	0.6
	東松島市		1.0	1.4	-0.4
	大崎市		1.4	1.8	-0.4
	名取市		1.0	2.1	-1.1
	岩沼市		1.2	0.7	0.5
	石巻市		3.3	1.1	2.2
	気仙沼市		1.0	0.2	0.8
	その他	4.1	3.4	0.7	
不明	1.6	0.9	0.7		
無回答		0.2	0.2	0.0	

6. 調査票

6.1 転入者アンケート票

多賀城市へ転入された方へ

まちづくりのアンケートご記入のお願い

このたびは、多賀城市にお住まいいただき、ありがとうございます。

さて、本市では、人口減少社会に対応し、より「住みよいまち」となるよう、転入された方と転出された方から率直なご意見をいただくため、アンケートを実施することになりました。

アンケートは無記名形式で、統計的に処理し、個人が特定されることはありませんので、アンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

《ご記入にあたって》

○平成 26 年 1 月 1 日～12 月 31 日までに転入・転出をされた方を対象として、無作為に選ばせていただきました。

○事情により封筒のあて名の方が回答できない場合は、ご家族の方がお答えくださっても結構です。

○この調査票は、**6月3日（水）**までに同封の返信用封筒に入れてご投函ください（切手を貼る必要はございません）。

2015 年 5 月

多賀城市長 菊地 健次郎

【お問合せ先】 多賀城市市長公室 行政経営担当

住 所 〒985-8531 多賀城市中央二丁目1-1 メール kikaku@city.tagajo.miyagi.jp

TEL 022-368-1141 (内線212~214) FAX 022-368-8104

問1 あなたの性別についてお聞きます。番号に1つだけ○印をつけてください。

1	男	2	女
---	---	---	---

問2 あなたの年齢をお聞きます。1つだけ○印をつけてください。

1	10歳代	4	40歳代	7	70歳代
2	20歳代	5	50歳代	8	80歳代以上
3	30歳代	6	60歳代		

問3 あなたの職業をお聞きます。1つだけ○印をつけてください。

1	農・林・漁業	6	団体職員（NPOを含む）
2	自営業	7	学生（大学・短大・専門学校など）
3	会社員	8	専業主婦（主夫）
4	公務員	9	無職
5	パート・アルバイト	10	その他（ ）

問4 どちらから転入されましたか。1つだけ○印をつけてください。

1	県外（ ）	4	七ヶ浜町
2	仙台市（ ）	5	塩竈市
3	利府町	6	県内その他（ ）

問5 以前のお住まいには、何年間住んでいましたか。1つだけ○印をつけてください。

1	1年未満	4	5年以上、10年未満
2	1年以上、3年未満	5	10年以上、20年未満
3	3年以上、5年未満	6	20年以上

問6 今回の転入前にも、多賀城市に住んでいた経験はありますか。1つだけ○印をつけてください。

1	はい	2	いいえ
---	----	---	-----

問7 転入前（多賀城市外）と転入後のお住まいの形態についてお聞かせください。転入前、転入後の、それぞれに1つずつ○印をつけてください。

転入前 (多賀城市外)	1. 持ち家(一戸建て) *同居親族の持ち家も含みます 2. 持ち家(マンション) *同居親族の持ち家も含みます 3. 公営住宅 4. 民間賃貸 5. 社宅・官舎など 6. 親族・知人宅 7. 仮住まい(仮設住宅、みなし仮設住宅など) 8. その他()
転入後 (多賀城市内)	1. 持ち家(一戸建て) *同居親族の持ち家も含みます 2. 持ち家(マンション) *同居親族の持ち家も含みます 3. 公営住宅 4. 民間賃貸 5. 社宅・官舎など 6. 親族・知人宅 7. 仮住まい(仮設住宅、みなし仮設住宅など) 8. その他()

問8 多賀城市へ転入した主な理由は何ですか。1つだけ○印をつけてください。

1	仕事の都合(転勤)
2	仕事の都合(就職、転職、退職など)
3	学校の都合(進学、通学など)
4	家族から独立するため(結婚、一人暮らしなど)
5	親や子ども、親族などと同居、または近くに住むため
6	病院、福祉施設などへの入居・入所するため
7	住宅購入、借家、賃貸住宅の借換えなどのため
8	生活環境をよくするため(交通、買い物の利便性向上、自然環境、治安など)
9	その他()

問9 転入されるにあたって、他の市町村にもお住まいを探しましたか。1つだけ○印をつけてください。

1	転入先は、最初から多賀城市に決まっていた（寮、社宅、同居、すでに家があった、など）
2	他の市町村も探したが、多賀城市に決めた
3	多賀城市内に魅力を感じており、住もうと決めていたので、他は探さなかった

問11 あなたは、多賀城市に「魅力」を感じていますか。また、感じていないところは、どこですか。

「魅力を感じている点」と「魅力を感じていない点」のそれぞれについて、3つまで○印をつけてください。

【魅力である】 【魅力でない】

1	自然環境		
2	公園や緑地、水辺が整備		
3	環境のよい住宅地		
4	住宅の広さ、土地が適正価格である、家賃などの住宅事情		
5	観光地・名所旧跡		
6	文化施設の充実		
7	スポーツ施設の充実		
8	文化的活動（コンサートや美術展・展覧会）の開催		
9	子育て環境の充実		
10	教育環境の充実		
11	福祉・介護の充実		
12	医療機関の充実		
13	地域のコミュニティ活動		
14	生涯学習・サークル活動		
15	防犯・災害対策が充実（犯罪が少ない）		
16	交通対策の充実（交通事故が少ない）		
17	通勤や通学など交通の便		
18	買物をする場所・内容が充実		
19	雇用の（働く）場		
20	その他（ ）		
21	特にない		

問10 多賀城市へ転入して、いまの「住みやすさ」はいかがですか。1つだけ○印をつけてください。

1	とても住みやすい
2	どちらかといえば住みやすい
3	ふつう
4	どちらかといえば住みにくい
5	とても住みにくい

問 12 あなたの家族構成をお聞きます。転入前と転入後について、1つだけ○印をつけてください。

転入前	家族数 人	1. 単身（1人）世帯 2. 夫婦のみ 3. 夫婦と子ども 4. 親と同居 5. ひとり親と子ども 6. 夫婦と親と子ども 7. その他（ ）
転入後	家族数 人	1. 単身（1人）世帯 2. 夫婦のみ 3. 夫婦と子ども 4. 親と同居 5. ひとり親と子ども 6. 夫婦と親と子ども 7. その他（ ）

問 13 転入時の同居のお子さんの就学状況を、すべてお聞かせください。該当するものに、いくつでも○印をつけてください。

1	3歳児未満	4	中学生
2	保育所（0～3歳児含）・幼稚園	5	高校生以上
3	小学生	6	子どもはいない

問 14 あなたが「住むところ」を決めるうえで、特に重視される点は何ですか。該当するものに、いくつでも○印をつけてください。

1	新しいまちづくりへの動き
2	働く場がある
3	文化施設（図書館・文化センター・博物館）の充実
4	医療機関の充実
5	介護・福祉制度の充実
6	教育の充実
7	子育てがしやすい環境
8	公園やスポーツ施設の充実
9	地域コミュニティの活発化
10	防災施設・自宅の防災設備支援制度が充実
11	住宅の広さ・土地や家賃の適正価格
12	交通の便のよさ
13	買い物が便利
14	外食やレジャーに便利
15	その他（ ）

——ご協力ありがとうございました。

6.2 転出者アンケート票

多賀城市から転出された方へ

まちづくりのアンケートご記入のお願い

多賀城市から転出され、新しいまちでの生活はいかがでしょう。これまで多賀城市に在住いただきありがとうございました。

さて、本市では、人口減少社会に対応し、より「住みよいまち」となるよう、転入された方と転出された方から率直なご意見をいただくため、アンケートを実施することになりました。

アンケートは無記名形式で、統計的に処理し、個人が特定されることはありませんので、アンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

《ご記入にあたって》

○平成 26 年 1 月 1 日～12 月 31 日までに転入・転出をされた方を対象として、無作為に選ばせていただきました。

○事情により封筒のあて名の方が回答できない場合は、ご家族の方がお答えくださっても結構です。

○この調査票は、**6月3日(水)まで**に同封の返信用封筒に入れてご投函ください（切手を貼る必要はありません）。

2015 年 5 月

多賀城市長 菊地 健次郎

【お問合せ先】 多賀城市市長公室 行政経営担当

住 所 〒985-8531 多賀城市中央二丁目1-1 メール kikaku@city.tagajo.miyagi.jp

TEL 022-368-1141 (内線212~214) FAX 022-368-8104

問 1 あなたの性別についてお聞きます。番号に 1 だけ○印をつけてください。

1	男	2	女
---	---	---	---

問 2 あなたの年齢をお聞きます。1つだけ○印をつけてください。

1	10 歳代	4	40 歳代	7	70 歳代
2	20 歳代	5	50 歳代	8	80 歳代以上
3	30 歳代	6	60 歳代		

問 3 あなたの職業をお聞きます。1つだけ○印をつけてください。

1	農・林・漁業	6	団体職員 (NPO を含む)
2	自営業	7	学生 (大学・短大・専門学校など)
3	会社員	8	専業主婦 (主夫)
4	公務員	9	無職
5	パート・アルバイト	10	その他 ()

問 4 どちらへ転出されましたか。1つだけ○印をつけてください。

1	県外 (県 市・町・村)	4	富谷町
2	仙台市 (区)	5	塩竈市
3	利府町	6	県内その他 (市・町・村)

問5 多賀城市には何年間お住まいでしたか。1つだけ○印をつけてください。

1	1年未満	4	5年以上、10年未満
2	1年以上、3年未満	5	10年以上、20年未満
3	3年以上、5年未満	6	20年以上

問6 転出前（多賀城市内）と転出後（多賀城市外）のお住まいの形態についてお聞かせください。転出前、転出後のそれぞれに1つずつ○印をつけてください。

<p>転出前 (多賀城市内)</p>	<p>1. 持ち家(一戸建て) *同居親族の持ち家も含みます 2. 持ち家(マンション) *同居親族の持ち家も含みます 3. 公営住宅 4. 民間賃貸 5. 社宅・官舎など 6. 親族・知人宅 7. 仮住まい(仮設住宅、みなし仮設など) 8. その他()</p>
<p>転出後 (多賀城市外)</p>	<p>1. 持ち家(一戸建て) *同居親族の持ち家も含みます 2. 持ち家(マンション) *同居親族の持ち家も含みます 3. 公営住宅 4. 民間賃貸 5. 社宅・官舎など 6. 親族・知人宅 7. 仮住まい(仮設住宅、みなし仮設など) 8. その他()</p>

問7 多賀城市から転出された主な理由は何ですか。1つだけ○印をつけてください。

1	仕事の都合(転勤)
2	仕事の都合(就職、転職、退職など)
3	学校の都合(進学、通学など)
4	家族から独立するため(結婚、一人暮らしなど)
5	親や子ども、親族など同居、または近くに住むため
6	病院、福祉施設などへの入居・入所するため
7	住宅購入、借家、賃貸住宅の借換えなどのため
8	生活環境をよくするため(交通、買い物の利便性向上、自然環境、治安など)
9	その他()

問8 転出されるにあたって、多賀城市内にもお住まいを探しましたが、1つだけ○印をつけてください。

1	多賀城市内で探したが、適当な物件がなかったため、市外に決めた
2	転出先は、最初から多賀城市外に決まっていた(寮、社宅、同居、すでに家があった、など)

問 11 あなたの家族構成をお聞きします。転出前と転出後について、1つだけ○印をつけてください。

転出前	家族数	1. 単身（1人）世帯 2. 夫婦のみ 3. 夫婦と子ども 4. 親と同居 5. ひとり親と子ども 6. 夫婦と親と子ども 7. その他（ ）
	人	
転出後	家族数	1. 単身（1人）世帯 2. 夫婦のみ 3. 夫婦と子ども 4. 親と同居 5. ひとり親と子ども 6. 夫婦と親と子ども 7. その他（ ）
	人	

問 12 転出時（お引越をされた時）の同居のお子さんの就学状況について、すべてお聞かせください。

該当するものに、いくつでも○印をつけてください。

1	3歳児未満	4	中学生
2	保育所（0～3歳児舎）・幼稚園	5	高校生以上
3	小学生	6	子どもはいない

問 13 あなたが「住むところ」を決めるうえで、特に重視している点は何ですか。該当するものに、いくつでも○印をつけてください。

1	新しいまちづくりへの動き
2	働く場がある
3	文化施設（図書館・文化センター・博物館）の充実
4	医療機関の充実
5	介護・福祉制度の充実
6	教育の充実
7	子育てがしやすい環境
8	公園やスポーツ施設の充実
9	地域コミュニティの活発化
10	防災施設・自宅の防災設備支援制度が充実
11	住宅の広さ・土地や家賃の適正価格
12	交通の便のよさ
13	買い物が便利
14	外食やレジャーに便利
15	その他（ ）

——ご協力ありがとうございました。